

## ・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連  (北海道)	良くなる やや良くなる	－	－	
		商店街（代表者）	・気温の影響は非常に大きいと思われるが、今年の秋冬のトレンドについて、新しい動きなども見えてきているため、そうした動きが客の購買につながれば冬物の動きが速くなることが見込まれる。	
		商店街（代表者）	・今月中旬から12月まで、地元百貨店に大手生活雑貨店が入店営業するため、来街者が増加することが見込まれる。また、例年より寒暖の差が激しいとみられるため、冬物衣料等の売上増加も見込める。	
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・9月が大変良くなかったため、その反動として10～11月にかけて、売上がかなり回復してくると期待している。飲食動機となる大きな会合がこれから行われる時期でもあるため、今月より良くなることは間違いないとみられる。	
		スーパー（店長）	・店舗の改装があり、それに対する期待感もあり、順調な状況が見込まれる。また、季節らしい気温になっていることもあり、今後、シーズン重点販売品に期待が持てる。	
		衣料品専門店（店員）	・秋から年末年始にかけて各種商戦が始まることで、消費者の購買意欲が高まる。	
		家電量販店（店員）	・9月で出遅れた分、10月の動きに期待したい。薄型テレビの需要はまだ戻ってきていない。	
		家電量販店（地区統括部長）	・大型暖房の需要が1か月遅れで急増すると見込まれる。また、薄型テレビやブルーレイレコーダーの需要が、前年のアナログ放送終了直後と比べて増加すると見込まれることから、全体として販売量は微増する。	
		自動車備品販売店（店長）	・暑い季節に動かなかった商材の動きが1か月遅れで動き始めてくることになる。	
		高級レストラン（スタッフ）	・11月くらいまでは今と同じ程度の伸びがみられると見込まれる。	
		タクシー運転手	・今年は異常な暑さだったが、ここにきて秋らしくなってきたことで、観楓会や秋の行楽などによる需要が期待できるため、やや良くなる。	
		通信会社（社員）	・年末を迎え消費へのモチベーションが上がることになる。	
		観光名所（従業員）	・11月の高速道路延伸が決定しており、大都市圏からのアクセス向上による観光入込の増加が期待できる。また、新しく就航した台湾の航空会社による国際線定期便の利用が順調で、今後も継続が見込めることに加えて、10月にはもう1社、台湾の航空会社の国際線定期便が就航するため、さらなる利用客の増加が期待できる。	
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・すでに決定している比較的大きな公共工事があるため、特に資材等を運搬する車両の航送が増加する。	
		変わらない	商店街（代表者）	・消費税の増税問題は一段落したが、景気の良くなる要素が見当たらない。
			商店街（代表者）	・景気がどういう風に動くのか国のやり方を見守っている状態にある。
			百貨店（販売促進担当）	・天候による外的要因の終息により衣料品を中心に持直し傾向がみられることになるが、慢性的な来客数の減少傾向は改善しない。
			スーパー（店長）	・期待を込めて変わらないとみている。気温など、天候の不安定なところがあり、客の動きを見ても、なかなか商品を買っていかないという状況にある。
			コンビニ（エリア担当）	・現状維持で推移する。
コンビニ（エリア担当）	・売上の増減は天候に大きく左右されているだけであり、基礎となる来客数が継続的に増加する状況にはなっていない。			
衣料品専門店（店長）	・客から良い話が聞けない。悪くなることはあっても、良くなるようなことはないのではないかとみられる。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・新車の登録台数は生産が回復した前年水準を下回ったが、先行指標である新車の受注台数は依然として前年水準を上回っている。新型車効果がエコカー補助金終了にともなう反動減を打ち消しており、前回の補助金終了時のような大幅な減少の兆候は現状みられない。
		乗用車販売店（従業員）	・需要期に入るが、今の動きでは期待が持てない。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金が終了したが、3か月前と今の状態を比べると、3か月後も変わらず何とかできるのではないかとみている。
		スナック（経営者）	・将来の見通しが持てない。
		旅行代理店（従業員）	・9月に入ってから、土日を問わず来客数は高水準を維持しているが、海外旅行など割合単価の高い商品が売れる一方で、国内旅行は低価格志向がますます強まっている。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況を見ると、国内旅行は10月が前年比90.7%、11月が前年比108.0%となっている。海外旅行は10月が前年比75.3%、11月が前年比99.5%となっていることから、全体的な状況は変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・2013年1月までは女満別線の供給が前年並みのため、大幅な伸びは期待できないが、現状のやや良い状態が今後も継続する。
		タクシー運転手	・9月にタクシーの売上がマイナスとなったように、10月以降も回復は見込めない。前々年の震災の影響で減った観光客も前年秋頃には戻ってきたが、9月の状況から見て10月以降は景気の上昇も期待できず、前年比マイナスになると思う。
		タクシー運転手	・オーダーの状況から、景気が上向きになるような要素が思い当たらない。注文数も前年並みとみている。
		パチンコ店（役員）	・将来的には消費税の増税の影響が出てくるとみられるが、直近での2～3か月後の景気は現状とそれほど変わらないとみている。ただし、北海道では今後寒さが厳しくなってくるなかで、冬の節電の影響がまだ見えてこないことが懸念材料である。
		美容室（経営者）	・生活に対する意識が固定化しており、今後については、悪くならない代わりに良くもならないといった傾向が続く。
		美容室（経営者）	・農業は良かったようだが、他に好材料はあまり見当たらない。
		設計事務所（所長）	・今の状況がしばらく続く。
		住宅販売会社（経営者）	・政局が不安定ななか、消費税の増税による駆け込み需要も思ったよりも動きが鈍く、あまり大きくは駆け込み需要が期待できない状況となっている。
		住宅販売会社（従業員）	・変化するような理由がみられない。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税の増税による駆け込み需要については、客の所得が減少傾向であることから、市場全体としては過度な期待はできない。しかし、一方で、増税はマンションを十分買える所得の客の心理を刺激することから、増税が約1年後に迫ってくることになる年明けには、多少の駆け込み需要の客が目立つようになる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・全体的に北海道観光の魅力も若干薄れはじめているというのがあり、東北へ人が流れているという話も聞く。9月も本当は10%位で良い予定だったが、実際には悪かったことから、この2、3か月も悪くなっていくだろうと判断した。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・中国の反日感情、自民党及び民主党の党首戦、さらに脱原発への産業界の反発など、景気が上向き様子が何1つ考えられない。
		百貨店（売場主任）	・今後3か月の長期予報で、10～11月と暖かい日が続くことが予想されているなかで、9月から引き続きジャケットやコートが動きが良くないことが懸念される。しかし、物産催事等の催事で集客を図ることでの売上確保を検討している。
		百貨店（売場主任）	・衣料品の苦戦は残暑の影響が考えられるが、衣料品のみならず食品も苦戦している。
		百貨店（販売促進担当）	・尖閣諸島や竹島問題が早々に解決に向かうとは思えないため、今後も来客数や買上客数に影響が出ることが必至である。また、北海道において、冬の節電は夏の節電より切実な問題であるため、なかなか消費拡大気運には至らない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・超目玉商品を出しても客が走って来店しなくなってきた。超目玉商品で集客しての売上確保も難しくなっている。客は unnecessary 商品は買わず、安くてもたくさん買わなくなっている。
		スーパー（企画担当）	・消費税増税やそれに先立つ社会福祉関連の負担増、小麦及び食用油等の値上げの発表など、家計の先行きにマイナスの材料が続いており、消費マインドの更なる冷え込みが見込まれる。
		スーパー（役員）	・天候による一過性の動きであれば良いが、当地区の観光客が減少しており全体的に沈滞ムードとなっている。食品小売業も間接的な売上が期待できない状況であり、今後中国商品の入荷遅れ等が心配される。また、消費税の増税問題などにより、生活者の将来不安から来る消費停滞が更に強くなりそうである。
		スーパー（役員）	・電気代値上げの恐れ、消費税増税法案の可決など、消費マインドを冷え込ませる話ばかりが表に出ている。
		コンビニ（エリア担当）	・気温に関連する商品以外、特にたばこは依然として前年を下回る販売量となっている。限定商品などへの反応は良いものの、日々の消費につながる商品群の動きが低調である。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金の終了により、今後はやや悪くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・国内や国外をみても、景気向上につながる好材料が見付からない。また、新型車の効果も販売増に結び付いていない。
		その他専門店「造花」（店長）	・外国との諸問題の影響から、観光等の入込客数の落ち込みが見込まれる。
		高級レストラン（経営者）	・中国、台湾の観光客が減ってくることで、少しずつ景気が悪くなるのではないかと懸念している。
		高級レストラン（スタッフ）	・飲食業界にとって、天候による問題が不安である。これまでは温暖で過ごしやすかったが、食材は農産物を始め、水産物ではサケ漁が大打撃など、取れ方が変化している。1次産業が不安定になったことで、食への関心が薄れないかと心配している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・観光需要の停滞するオフシーズンに入ることになる。また、中国マーケットからのキャンセルが懸念される。加えて需要を喚起するようなイベント、学会等もない。
		タクシー運転手	・今後においても、地域の経済状況が好転するような、これといったものが見当たらない。観光需要においても、夏場の観光で若干の動きはみられたが、今後秋に向かっては小康状態を保つような状況になる。また、将来的に冬場に向かって、景気状況が非常に不透明という状況下で、景気はなかなか好転しないだろうとみられる。
		悪くなる	観光型ホテル（経営者）
美容室（経営者）	・政治、経済、どのような観点や方角から冷静にみても、景気が良くなる要素は1つもない。国、代議士にしっかりしてもらわなければ、国民はだめになってしまう。		
企業 動向 関連  (北海道)	良くなる	—	—
	やや良くなる	輸送業（営業担当）	・4年ぶりに豊穡の秋を迎えることができそうである。小麦、ばれいしょ、スイートコーン、豆類など、道内では農産物の収穫が順調であり、ビート糖も前年生産を超える見込みである。大きな天候の崩れがなければ、輸送量、倉庫保管量が増大する。
		輸送業（支店長）	・東北地区の災害復興物件の引き合いがある。ただし、なかなか具体的にならず、やきもきしているが、いずれ実現するものと期待している。
		司法書士	・不動産取引、建物建築等については、多少の回復傾向がみられるため、今後の動向に期待している。
		コピーサービス業（従業員）	・前期よりも今期と年々案件数や受注数が向上してきている。
		その他サービス業「ソフトウェア開発」（経営者）	・少しずつ新規作業が出てきている。
変わらない	食料品製造業（役員）	・秋の収穫期に入り繁忙期を迎えることになるが、2～3か月先に景気が上向きになる様子はみられない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家具製造業（経営者）	・景気が好転する材料は乏しいが、大きな変動もなさそうである。
		金属製品製造業（役員）	・見積の引き合い件数をみても、あまり増減がみられない。
		建設業（経営者）	・工事の稼働はピークの状態では推移している。ただし、人手不足が深刻な状況にあることに加えて、積雪寒冷期を迎えること、日照時間が短くなることなどから、特に土木工事の現場においては1日当たりの施工効率がかかり落ちることになる。場合によっては、工期との戦いになり、採算性が大幅に悪化する心配がある。
		通信業（営業担当）	・現況はここ最近と比較しての受注量の伸びを指標として、景況感の戻りを感じているが、ここからの伸びとなると、押し上げる材料にも乏しいことから、横ばいで推移する。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・業種を問わず各社とも仕事量を確保しているが、利幅が薄いと聞いている。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・客先の仕事量が偏っていることに加えて、受注単価が安いこともあり、客の購入意欲が低いままである。
		やや悪くなる	食料品製造業（団体役員）
		建設業（従業員）	・消費税の増税が確定し、駆け込み需要が期待されたが、現行税率で対応できる工事規模は制約されるため、あまり期待できない。
		金融業（企画担当）	・観光は、尖閣諸島問題が尾を引き中国人観光客の落ち込みが懸念されるが、全体としては東日本大震災前の水準を保つ。建設は技能工不足で住宅や設備投資への影響が懸念される。エコカー補助金の終了で自動車販売の反動減が必至である。穀物価格の高騰もあり、景気はやや悪化する。
		司法書士	・当地は、これから冬期に向かうため、通常でも不動産取引が減少することになるが、衆議院総選挙が今年中に行われることになれば、不動産取引は確実に減少し、景気は減速することになる。
	悪くなる	—	—
雇用 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・8月の有効求人倍率は0.56倍と前年を0.11ポイント上回った。
	（北海道） 変わらない	人材派遣会社（社員）	・良くなる要因が見当たらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・6月から増加傾向だった新規求人件数が落ち着いてきている。パート及びアルバイトの人手不足感から、リピーター求人により数字が確保されている印象がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・全体の求人件数は前年や前々年と比較して高水準で推移しているが、さらにもう一段伸びる要因が今のところみられない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・年末に向け、個人消費関連業種がけん引することで、大きく求人減となるような要因は見当たらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・農業生産が堅調であり、年末の消費や飲食需要などが期待されることから、関連産業での求人が見込める。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は27か月連続して前年を上回り、回復傾向にはあるが、高い水準とまでは言えないことから、雇用環境が回復したとまでは言えない。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が32か月連続で前年を上回っているところではあるが、過去にないほどの暑い日が続く、また豪雨等の天候不順もあり、当所管内の農林水産業の漁獲生産高等の見通しが立たない状況である。それらの関連産業にもどのような影響が出てくるのか、今後の雇用失業状況に不安を感じている。
		職業安定所（職員）	・就職件数は前年比19.9%の減少となった。
学校〔大学〕（就職担当）	・変わる要素が見当たらない。		
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・10月1日より労働者派遣法の改正が実施されるが、実際の法律の運用方法に企業が戸惑っており、派遣利用の手控えがしばらく続くことになる。しかしながら、今の企業の業績から、契約社員や正社員の採用に動くことは難しく、労働市場は2～3か月ほど動揺することになる。アルバイト及びパートの利用は増えるかもしれないが、短期的な採用となるはずであり、雇用環境の改善には結び付かない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人数に対して、求職者の動きが付いてきていない。求職者数も多いはずだが、実際にはかなり選り好みしている。決して景気が良いとは言えないため、せつかく募集意欲が高まっているにもかかわらず、景気の下乗要素になりかねない。
	悪くなる	—	—

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	衣料品専門店（店長）	・残暑が厳しかったため、秋物の買換えモードが例年より少し遅れているようなので、秋物への衣替えが進めば売れ、進まなければ売れないという状況である。今後もその辺りを懸念している。
(東北)	やや良くなる	商店街（代表者）	・本格的行楽シーズンとなる。また、新規に開店したスーパーもあり、動きは活発になろうかと期待される。
		商店街（代表者）	・10月に向かい、イベント、観光政策等での集客が見込まれる。衣料品、アパレルを中心に秋物の動きが活発になることが見込まれ、飲食関係は集客によりますます活性化していくだろうと予想される。期待度もかなり大きい。
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・被災地へ国の予算が出たので、秋くらいからは2回目の震災特需が始まるだろうと多くの客が話している。
		一般小売店〔寝具〕 (経営者)	・来客数や電話の回数が増え、布団仕立ての注文が多くなってきている。
		百貨店（売場主任）	・冬本番を迎えるにあたり、ほぼ昨年並みの気温とともに、今控えている消費意欲が一気に上向くと予想される。
		百貨店（経営者）	・異常な気温が2、3か月先も続くとは思えないことと、今月買われていない方の需要が先にずれ込むとみられることから、多少良くなる。
		百貨店（売場担当）	・9月の秋物の売上は前年比で大きく落としている。この反動が10～12月でくることが期待できる。ただし、9月同様に、天候や気温に大きく左右されることは明らかであり、10月が例年よりも暖かかったり、12月の降雪などにより、プラスにもマイナスにも転じる。しかし、少なくとも来月に関しては9月の未来店顧客の動員と秋物の動きの反動が期待される。
		コンビニ（経営者）	・震災パブルも終わったかにみられたが、例年とは違って9月が8月より売上が好調ということは初めてであった。工事関係者はまばらだが、夕方から夜の動きが良い。なお、買上点数もかなり伸びている。特に注目すべき点は「1番くじ」という趣味の世界の売上が良好なことである。これは1点の金額も高く、買上点数も多い。多少はそういった趣味の方にお金を回せる余裕ができてきたようである。
		衣料品専門店（店長）	・秋冬物の需要が増える時期を迎える。また、出かけやすい気候になる。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金の駆け込み需要があまり大きくなかったため、秋以降の新型車イベントの効果などにより新車販売は上向いてくると予想する。
		乗用車販売店（経営者）	・11月に軽の新型車が発売となり、かなり期待できる。これにより集客が期待でき、相乗効果で他車種の拡販に繋がると予想している。また、自社の拡販施策も展開し、盛り上げを図る。
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・いい意味での良くなるではなく、年末年始近くは現状より良くならなければおかしい。ただ政治が不安定で、この時期に選挙が行われるとなると状況は大きく変わってくる。売上を上げるための企業努力は怠れないが、どこまで消費者が購買意欲を高めてくれるかなど不透明で怖い。
		その他専門店〔靴〕 (従業員)	・早い降雪を望む。
		高級レストラン（支配人）	・被災があった前年に比べると、年末年始に向けた気持ちと金銭面に余裕があり、購買、旅行、飲食など外に向けた個人支出が伸びる。
一般レストラン（経営者）	・当店では忘年会や歓送迎会などが比較的多いので、例年通りであればやや良くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・少し早いようだが、年末に向けての動きが出てくる。当店においても年々、忘年会の予約がくるのが早くなっている。それと同時に、時期を早くする会社も出てきており、年末に集中はするが、それ以外の月や平日にも分散してきているといった良い傾向が見受けられる。
		観光型旅館（スタッフ）	・10月下旬から11月中旬にかけて、既に満室の日もあり、予約が順調に伸びている。これからは、売れる日をいかにつめて売り切るか、売れない日をいかに売っていくかが勝負になる。
		競艇場（職員）	・年末年始にかけて客の購買量が増えることが予想される。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・米の価格上昇に引上げられた好景気感が年明けまでは続くともっている。
		住宅販売会社（経営者）	・新エネルギー事業に伴う、大規模プロジェクト参加も予定されている。
	変わらない	商店街（代表者）	・当地域に限っていえば、現在の小康状態がしばらく続くと思われる。ただし、客単価が上がってこないと上昇には乗ってこない。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・客単価の動きが低減傾向にある。動いている商材もあるが、まだまだ厳しさが残っている。他の商材で、エコポイントなどでも動きが出ているようだが、明るい話題よりも暗い話題が多いので、モチベーションも上がらない。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。世の中不安要素が多すぎる。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・当店の顧客の年齢層は高齢であり、全体の約60%が60代以上である。そのため、来店頻度が減っていく傾向にある。しばらくはこのまま変わらずの状態が続くとみられる。
		百貨店（総務担当）	・景気が良くなる要素が見当たらない。また、政局や海外情勢の不安定な要素等は顧客の購買行動の心理に影響するので、先行きは不透明である。
		百貨店（企画担当）	・この時期のファッション消費の落ち込み分は10月にずれ込むとみている。その分の伸びは期待できるものの、高額商品については新商品提案にも、前年既に購入したからとの声も聞かれ、一服感も感じられる。その後の年末クリスマスシーズンへの期待の声もあり、全体的には横ばいと判断する。
		百貨店（営業担当）	・前年の震災特需に対する売上減も一段落するとみられ、消費者の購買意欲も衰えていないことから、今後も急激に業績が悪化することはない。
		百貨店（経営者）	・来客数の改善が見られない。買物市内循環バス等も利用者が減少している。
		スーパー（店長）	・来客数の落ち込みはさほど大きくはないものの、点数及び1点単価が落ち込み、客単価トータルでの落ち込みが目立つ。年末を控え、買い控えの傾向がますます強まる。この状況は変わらないとみている。
		スーパー（店長）	・商圏内競合店の数は変わらず、競合同士のチラシディスカウント合戦は変わらないとみられ、現状は横ばいと予想される。
		スーパー（店長）	・高単価商品の動向が良くなると客単価が増加していかない構図になっている。来客数の増加策として販促強化を行うものの、来客数の増加分も客単価下落で大きくプラスに作用していない。
		スーパー（店長）	・周辺の競合店の状況及び来客数の状況が変わらないため、変わらない。
		スーパー（総務担当）	・震災需要はすっかり落ち着いている。来客数は微増だが、1点単価の下落は歯止めが掛かっている。客単価も下がっており、この状況が続くのではないかとみている。
		スーパー（営業担当）	・来客数及び売上アップ対策として、チラシ等で価格を打ち出し、買上率を上げる対策を打つが一過性にすぎない。無駄な買物はしない購買動向はまだ続くとも予想される。
		スーパー（物流担当）	・今年の新米の価格高やアメリカの干ばつによる小麦の価格高騰など、直接家計に結び付く与件もあり、客の購買動向は今以上に価格を意識したものになる。消費動向は現状より良くなることはない。
		コンビニ（経営者）	・市内は復興需要も一段落している。求人は多いがミスマッチが多く、就職率は上がらないと考えられる。
		コンビニ（エリア担当）	・特に大きくトレンドが変わる要因が無い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・競争店の出店が今後も続く様子である。
		コンビニ（エリア担当）	・復興需要工事は継続するものの、それ以外では買上点数にシビアになると予想される。
		衣料品専門店（経営者）	・当社でも新卒を採用したいが現状は厳しく、現有社員と短期パートでしのいで行く方向である。
		衣料品専門店（経営者）	・客との会話でも、いまだに買い控えが頭の隅にあるような様子が見られる。
		衣料品専門店（店長）	・このままの気候で中期予報通り一気に寒くなると、秋を飛ばして冬物商材需要となり、秋物商材の滞留が懸念される。
		衣料品専門店（店長）	・紳士服市場のマーケットの縮小は続いている。さらに、競合同士での下取りなど価格の争いによって客単価が低下している。
		衣料品専門店（総務担当）	・客の購入が、何があるからそのために必要なものといったように、目的買いになっている。特にアパレル商材がそのような状況であり、嗜好品の要素の物は今後厳しくなるとみられる。
		家電量販店（店長）	・政府が対策をしていない。国際問題などの情勢も不安である。
		家電量販店（店長）	・先行き不透明な政治の不安定要素がぬぐえない限り、景気の回復は見込めない。
		乗用車販売店（店長）	・エコカー補助金が終了となり、販売量の減少は免れない。しかし新型車が発表されることでその効果が期待されるため、結果として景気の変化はあまりないとみている。
		住関連専門店（経営者）	・新築住宅の完成時期になるが、絶対数が落ちているため、現状維持は難しいとみられる。
		住関連専門店（経営者）	・今からシーズンに入ってくるが、耐久消費財なので、品定めをきちっとしていく客はそう多くなく、奪い合いになるのだろうと思う。販売量は変わらないかもしれないが、客単価を上げていかなければいけないと考えている。付加価値の追求になっていくと思う。
		住関連専門店（経営者）	・当店は小規模なので、大規模店に比べると企画力も無い。このままそう大きな売上もないまま推移していくとみられる。3か月先も現在と同じ状況が続くとみている。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・衣食住にお金を普通に使える状況ではないように感じる。一番に子供優先で次は食費。次にいくら余裕があるかという状況のなか、一般消費者のなかでは市場を変えるほどお金が動くことは考えられない。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・農業関係者も収穫を終え、飲食店も一定の動きがあるとみられるが、これからも地元での利益が減り、都市部が若干増えるという厳しい状況が続くと予想される。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・従業員1人にかかる金額が下がってきているようである。また出入りの激しい業種だとレンタルへの切替え等も進んでいる。販売だけの業種は難しくなるであろう。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・秋の観光シーズンから、冬場の需要期に向かって、震災の風評被害で観光がどうなるのか、また、農産物の需要が原発の影響をどの程度受けるのかなど、不安材料が山積している。気温の推移次第で、大きく需要が変動するので、今冬の気候が気になる。冬場のタイヤ商戦は前年の震災特需のようなものが無いため、非常に厳しいものと予想されている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・現状と比較して外部環境が大きく変わる予見が確認されない。
		高級レストラン（経営者）	・緩やかに上向くとはみているが、数字に反映されるほど良くなるとは思えないので変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・レストランという業種が日常的な範囲を超えてしまっているような気がする。何か特別なときにはレストランでという風潮も大分増えており、財布のひもが固い状況が続いている。このような状況は今後も続くと予想される。
		観光型ホテル（経営者）	・年内の入込客数はようやく前年並みになっている。復興支援の客は同じ地に2年は続かず、今年は他の観光地に行ったのではないかと。
		観光型ホテル（スタッフ）	・本来は年間で1番の繁忙期を迎えるが、特に、遠方からの団体客が少なくなっている。今年は暑さのせいで、紅葉も多少ずれる傾向にあるが、シーズン本番に向けて今後の回復に期待している状況である。
		観光型旅館（経営者）	・現在の売上傾向でほぼ一定してきた感がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（経営者）	・宿泊に関してはある程度着地目標が立てられる現状でもある。その点については良い流れのなかで変わらない。ただ、全体的に会合の数が減少しており、料飲及びレストラン部門を含め、宴会の見込は決して良くない。婚礼については、東京電力福島第一原子力発電所の問題もあり、総体的な数字の落ち込みがあるので、判断材料としては除いている。これらを総合すると、そうそう大きくは変わらないものの好転もしないとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・秋田県内のいろいろな団体が東京に行き、秋田に来てください、秋田のものを買ってくださいといった運動をした。しかし、客のイメージとしては秋田といったら田沢湖であり、角館であり、そういったイメージを持っているので、全体的な広がりには厳しいと感じている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今後も幅広い視野から動機付けや購買意欲のわく商品を作り出していけるか、更にリピートいただける仕掛けや仕組みをいかに構築していくかである。常に他のホテルに先駆けてスピードを上げてターゲットを絞った商品と幅広い層を狙う商品を提供できるかである。販売ジャンルの選択も重要な要素である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・製造関連大手企業の業績悪化に伴い、定例化している労働組合関係の忘新年会、各種会合の取り止めの話が出ている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・当地では、震災復興に伴う宿泊、イベント等の利用がまだまだあり、繁忙であった前年同時期に順ずる売上が続いており、数か月先までも予約が見込める。
		旅行代理店（店長）	・個人消費が減速する危機感と、これからの復興関連需要、除染関連需要の活況が見込める好況感が同居しており、産業ごとに分かれている様子がみられる。
		タクシー運転手	・繁華街は人も多く、夜になるとタクシーも人も集まってくるので、現在のやや良い状況が続くとみている。
		タクシー運転手	・働きたくても働く場所が無いという話をよく聞く。働く場所が無いのでは、景気は良くならない。
		通信会社（営業担当）	・政局不安や震災後の復興は決まっているものの、雇用も安定しておらず、非常に不安な年末になるのではないかと。
		通信会社（営業担当）	・新しい景気回復策もなく、上昇する要因が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・これと違って景気が改善するような材料が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・景気が良くなる材料に乏しく、現状を抜け出せそうにない。
		通信会社（営業担当）	・大手通信会社による激しい顧客の奪い合いが続いており、中小の通信会社もその波に巻き込まれている。引き続き厳しい状況が続いているが、新商品の導入や魅力アップで顧客の解約防止や新規の顧客獲得に努め、現状維持することが精いっぱいだと予想される。
		テーマパーク（職員）	・復興支援を目的とした団体予約は入っており、入込人数は固い数字を維持できる見込みだが、元々安い料金設定の客であり、消費単価はあまり上がらないことも予想される。
		観光名所（職員）	・天候に恵まれ、来客数の伸びは順調だが、今後上向いていくための理由が見つからない。あまり変わらないとみられる。
		観光名所（職員）	・復興でこちらへ目が向いていて、首都圏などからの来客は増えているようであるが、地元客の動きが良くない。
		遊園地（経営者）	・夏の少雨の反動で雨が多くなる恐れがある。また、政治の不安定さなどから、復興需要関連以外では期待できるところが少ない。
		美容室（経営者）	・震災から1年半が過ぎ、客の動向も落ち着いてきたようである。年末まで同じような状況で続いていくのではないかとみている。
		設計事務所（経営者）	・しばらく今の状況が続くとみているが、現場では人手不足とコンクリートがなかなか入らない状況のようで、仕事をしなくてもできず、工期は遅れ気味である。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・本来であれば、年末にかけて大きな予約が入ってくる時期であるが、いまだ動きは全くない。先行き不透明である。
		商店街（代表者）	・商店街という形態が客から見放されている。
		商店街（代表者）	・総選挙、消費税問題と景気を押し下げるムードが続き、加えて領土問題で中国、韓国からの観光客が減少と、好ましい材料が見当たらない。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・震災直後売上は大きく下落したものの、それ以来1年半の間、結局多少の上下があるものの方向性なく横ばいで推移している。当店自身、震災後から店舗の建て直しまでは費用を惜しむ余裕も無かったが、このように売上が落ち込んだまま回復する目途も立たない状況では、とにかく外注を絞るなど経費節減を徹底させるしかない。同様の事業所も多いだろうと想像し、よって景気は下降線上にあるとみる。
		百貨店(買付担当)	・復興需要の鈍化、政権交代、消費税増税などが想定されているため、消費の盛り上がりのプラス要素が見当たらない。
		スーパー(経営者)	・6月下旬～7月上旬くらいで、下降局面に入っていたようである。
		スーパー(経営者)	・10月は、9月の推移傾向がさらに進み、価格競争も一層強まり、売上高の伸び率は停滞し、収益環境の悪化がやや進むのではないかと懸念している。東アジア諸国との領土問題は、じわじわと輸出、観光業界に、そして東アジアに製造拠点のある企業の業績に影を落とし、国内へも強く影響が出てくることを懸念している。
		スーパー(店長)	・10月末にスーパーマーケットを中心にした大型のショッピングタウンの出店があり、当初は近隣だけでなく、周辺の市まで影響があると予想される。
		コンビニ(経営者)	・前年から今年にかけて放射能の影響がまだまだ見られる。下げ止まったような感もあるが、少しずつだが人口が減っている。
		コンビニ(経営者)	・この先の景気が上向きになる要素が見つからない。客との会話でも良い話がない。
		コンビニ(エリア担当)	・前年の震災後特需の影響が続くことに加え、同業他社の新規大量出店によるシェアの縮小が予測される。
		コンビニ(エリア担当)	・残暑も過ぎ、好調に回復していた来客数の前年比も夏前の水準に戻ることが予測される。
		コンビニ(店長)	・中国の情勢がここきて悪化してきており、各業界で先行き不透明だという雰囲気が顕著になってきている。コンビニ、流通業もこの先の計画やアジア向けの戦略を変更せざるを得なくなっている。先行き不透明になった分、株価の下降も顕著なので、やや悪くなっていくのではないかと懸念している。
		衣料品専門店(経営者)	・領土問題等で政治経済が混乱している状況では、消費者の購買意欲も上がるわけがない。
		乗用車販売店(経営者)	・年末にかけて、新車販売の主体は一部の新型車発売に支えられるとみているが、エコカー補助金の終了に伴う反動で今後、約10～20%前後の前年割れが続くものと考えている。
		乗用車販売店(従業員)	・エコカー補助金が終了したため、今後は販売量が少し落ちると予想している。
		乗用車販売店(店長)	・エコカー補助金が切れ、本格的に需要が減ってくると予想している。低燃費が売りの新型車を投入してば回を回すのが効果は未知数である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(営業担当)	・原発問題及び中国、韓国との関係悪化によりやや悪くなる。
		高級レストラン(支配人)	・復興需要が一巡した今後が本当の勝負の時である。新しい需要をどうやって掘り起こすのが勝敗の分かれ目になる。
		一般レストラン(経営者)	・尖閣諸島の問題もあり、日中関係も若干悪くなるのではないかと懸念している。景気もやや悪くなるかとみている。
		一般レストラン(経営者)	・客の様子を見てみると、復興関係の職業の方は忙しいようだが、その他はかなり景気が良くないという話をよく聞く。この先も忙しくなるような心配は感じられない。
		スナック(経営者)	・4月に薬品メーカーによる医師接待の自主規制が強化されてから、売上がどんどん悪くなっている。一般の接待の方も回数が減ってきており、売上もかなり減少傾向にある。このままのペースでいくと、この先2、3か月、また更に厳しい状況になるのではないかと心配している。
		旅行代理店(経営者)	・今の販売の状況を見てみると、団体旅行は今と変わらない推移になるとみるが、個人旅行については若干良かっただけに今後は落ち着いて、そういう意味では悪くなっていくのではという感じを受ける。
		タクシー運転手	・震災の影響はある。お盆過ぎからは、乗り控えが非常に目立ってきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・不透明な政治により、経済の復興が見えない。また、中国の領土問題争いが今後経済へ与える影響も懸念され、景気は悪化すると予想している。
		通信会社（営業担当）	・全体的に消費は冷え込んでいる。尖閣国有化に伴う日本製品不買の影響が東北の企業へ及ぼす影響度合いは予測できないが、対中国ビジネスを展開している地元企業への痛手は小さくない。
		美容室（経営者）	・パーマやカラーリングをしたいが、予算がないのでカットだけ注文するという客もいる。また、結婚式に着物で出席したいが、着付け料金がかかるのでフォーマルドレスにするという方もいた。まだまだ景気が回復したとはいええない状況である。
	悪くなる	百貨店（経営者）	・国内景気が良くないことに加え、政治の無責任状態が長く続き、政争に明け暮れている。経済政策に期待は出来ない。また、中国、韓国との情勢悪化も今後の日本経済に大きな打撃となることが予想される。世界的にも景気の悪化は明白となりつつある。
		スーパー（経営者）	・2014年4月、15年10月の消費税増税等を含め、先行きに不安要素があるということに加え、ガソリン、小麦、油を始め、すべてが値上げの状況になっていくので悪くなる。
		乗用車販売店（経営者） 自動車備品販売店（経営者）	・エコカー補助金の終了を受け、車両販売の悪化が予想される。 ・ここ数年は10月より売上減少傾向の流れにある。好材料が無い現状ではこのまま通年と同じ傾向で前年比マイナスで推移すると予想される。
企業 動向 関連  (東北)	良くなる	—	—
	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・住宅着工数の伸びに期待でき、販売量、収益共に改善が進むと判断される。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年末になり繁忙期に入ってくるため、例年通りの受注増が見込める。今よりは景気が良くなると判断している。
		土石製品製造販売（従業員）	・震災後、耐震工事や老朽化したマンション、家屋を新しくする方が増えてきており、この先も新規発注工事が増え続けていく傾向にある。
		建設業（従業員）	・遅れ気味ではあるものの、議会承認期限等の関係もあり、年末に向けて大手建設業向けの公共事業が多数出件すると予測される。また、資機材高騰については供給サイドの施策が功を奏せば、ある程度の供給は確保できる見込みである。このため労務費高止まりに対する懸念はあるものの、景気は上昇傾向になっていくものと推測される。
		建設業（企画担当）	・第3四半期以降に遅れていた国、県案件の出件が多く予定され、受注増が期待される。
		輸送業（従業員）	・貨物がわずかながら仙台空港に戻っている。仙台空港の国際便は中国及び韓国が主要な位置を占めるので、懸念材料として、日中韓関係の紛争がある。
		司法書士	・消費税増税を見込んだ住宅地の購入の動きが散見される。
		コピーサービス業（経営者）	・政局が落ち着くとみているが、そうなれば、先の見通しが立ち、市場は活性化し、景気も好転してくる。我が社の場合は、受注の多い商品、少ない商品がカテゴリー別に分かれているのが現状なので、それが政局の安定とともに一挙に解消すると思われる。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・県からの原発関連の補助金が各家庭に入ったため、しばらくは家計に余裕が出ている。そのため、多少景気は良くなるのではないかと。
変わらない	農林水産業（従業者）	・今はぶどう及びなしの最盛期である。高品質ではあるが、もも同様、風評被害があるとみられ、不安である。	
	農林水産業（従業者）	・米の価格は値上がりしているものの、農業者戸別所得補償制度の米価変動補填交付金の支払はないので、変わらない。	
	食料品製造業（経営者）	・はっきりとした理由は分からないが、ここきて再び牛タンの人気が出てきているようである。アメリカからの30か月齢の牛タンの輸入についてはのびのびになっているが、今現在、相場と関係なく、売上は順調である。現在の好調は12月のお歳暮の時期まで続くともみている。	
	食料品製造業（総務担当）	・本来であれば需要期であるが、需要の低迷が続くと予想される。	
	食料品製造業（総務担当）	・今後受注が好転する要因が見当たらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（企画担当）	・開発品種の縮小で販売量も伸びる兆しがない。ただし、必要と判断された投資は行われており、総合的には変わらない状態が続くとみられる。
		建設業（経営者）	・リフォーム工事のほかに最近では新築の話も出ている。当地方では消費税増税の影響はまだ出ていないようである。
		輸送業（経営者）	・現状がしばらく続くものとみている。
		通信業（営業担当）	・予断を許さない状況には変わりはないが、現状維持の傾向となる見通しである。
		通信業（営業担当）	・政治、施策が変わらなければ何も変わらない。
		金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因はない。
		金融業（広報担当）	・エコカー補助金の終了により好調な自動車販売の反動減が予想され、製造業においては、海外動向も懸念されるが、総じて大きな変動にはならないと考える。
		広告代理店（経営者）	・市町村に震災記録のための予算が落ちてきているが、競争は激しく粗利は低い。大きな変化は望めない。
		経営コンサルタント	・東北では経済のファンダメンタルは毀損されており、復興景気というデコレーションがはげ落ちれば、厳しい現実が姿を現す。
		公認会計士	・復興予算の執行状況が表だって現れてこない。まだ、2～3か月はこのような状況が続くとみられる。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・清酒定番商品の出荷が好調である。特に飲食店向けの出荷が高い水準で安定しており、秋冬の需要期を控え、順調な品出しが期待できる。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・原子力発電所の運転再開が来年夏以降の見通しと報道されたことから、この冬の節電も考えられ、その影響で電化システムの販売量の伸びは当分持ち直せないと考えられる。
		やや悪くなる	
出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・本格的な農産物の収穫時期になったが、風評被害がまだまだ影響している。その影響で、景気は悪くなるのではないかとみている。		
通信業（営業担当）	・消費税増税、景気回復の遅れによりやや悪くなる。		
広告業協会（役員）	・大型小売店などは猛暑の関係で秋冬物の出足が鈍いこともあり広告を控えているので、10月以降は引き合いが少ない。好調の自動車販売、住宅販売は広告をしなくても売れるので期待できない。		
その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・悪くなる要因は企業間の競争もあるが、やはりスーパーの価格の安さ、卸問屋の納価の安さである。それ以上に消費者の目が肥えてきて、とにかく安いところ安いところと購買が先走っているようであり、今後はなおさらそういった傾向が強くなるのではないかと。それにより、我々も販売が厳しくなる、そういう状況である。		
金属工業協同組合（職員）	・受注量の減少が顕著に表れてきている。また、雇用調整を実施する企業が出てくるなど、今後の受注見込みも非常に厳しくなっている。		
悪くなる		一般機械器具製造業（経営者）	・円高の定着と中国問題が長期化することが懸念されることから、輸出環境が更に悪化するものと予測している。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・短期的な受注が多く、半年先はまだ埋まっていないところが多い。受注量自体も減ってきており、景気は悪くなると予想される。
雇用関連 (東北)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・雇用のミスマッチが続いているが、1～3月の契約終了月の前後には、年度末とも重なり人材市場にも動きがあると予想される。派遣登録スタッフからは派遣と紹介予定派遣の両方への問い合わせも多くなり、直接雇用を派遣会社へ期待する者も増えてきている。
		人材派遣会社（社員）	・大卒採用で内定辞退が出た企業で、前年までは追加募集の動きは見られなかったが、今年は数を確保するために追加募集に踏み切る企業が増えてきている。
		人材派遣会社（社員）	・採用のミスマッチが顕著であることから、各社下期に入る10月以降、求人依頼も増加すると予測している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年末にかけて、このまま少しずつであっても地元の求人等が増えて回復傾向に入れば、少なくとも前年比較ではやや上向きの感はある。ただし、業種によって天と地の差があり、全体的な回復とはいえない状況である。
民間職業紹介機関（職員）	・多業種にわたり求人が増加している。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・市が企業誘致に積極的だったコールセンターがらみの求人は過当競争気味でニーズが継続している。また、警備、建設、飲食業、ホテル、アミューズメント及び自動車関連製造業に関しては、復興需要の期待感から求人ニーズは堅調と予想される。
		アウトソーシング企業（社員）	・特に変化を感じない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今年の秋から始まるプレデスティネーションキャンペーンを皮切りに、数年間にわたり様々な観光イベントが開催される。雇用の面では期待しているが、東日本大震災や領土問題が長引けば、相殺されるのではないかと。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・震災以来冷え込んでいた景気は、底を脱した感はあるが、特に大きく動いている様子はない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は引き続き前年同月比増で推移すると考えられるが、円高、原油高及び欧州の信用不安の影響により、製造業を中心に企業整理の動きも懸念される。
		職業安定所（職員）	・製造業の大手企業の生産拠点再編により、大量解雇者が発生しており、その影響による景況感の悪化から、一般求人、学卒求人共に減少している。
		職業安定所（職員）	・復興関連の求人や建設業の求人、小売業、飲食店、介護施設などの新規オープンにかかる求人等もあり、求人は引き続き高水準で推移するものとみられるが、現状の求人数が非常に多い状況であることから、更に良くなるとは考えにくい。
		職業安定所（職員）	・管内市町村の復興計画によれば、次の宅地造成等々の動きまでには時間を要するというところであるため、当面求人の大きな増加要素については、宅地造成の状況待ちということが考えられる。
		職業安定所（職員）	・求人数が大幅に拡大するような材料に乏しく、産業別の温度差もある。
		職業安定所（職員）	・求人数は3か月前と比べれば良くなっているが、前月とほとんど変わらない。高止まりで推移し、3か月後については現状とそう変わらないのではないかとみている。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・10月からの労働者派遣法改正に伴い、30日未満の期間の派遣が禁止され、その注文発注で企業側に不安感が蔓延している。また、規制強化事項が多々あり、今後2、3か月先は様子見で注文が微減となると予想される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・前年は県外からの被災地支援関連広告出稿が大きく伸びたが、今年はそれもほぼ終了の気配を見せている。地元の企業からも新規、追加の広告出稿の話は今のところない。
		職業安定所（職員）	・中国での企業活動の影響や、半導体業界の不振などで、多少悪化していくのではないかと推測される。
		職業安定所（職員）	・今後も管内で小規模なリストラが起こることの情報もあり、雇用状況は悪化するのではないかと危惧している。
	悪くなる	○	○

### 3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (北関東)	良くなる	○	○
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・気温低下に伴い、秋物の動きが活発になる。
		コンビニ（経営者）	・秋になり、地域の運動会の予約なども入り始めた。また、観光客が週末等にも来るため、しっかりと取り組んでいけば何とかなる。
		コンビニ（店長）	・9月は、連日の暑さにもかかわらず大変苦戦した。年末商戦に期待している。
		乗用車販売店（販売担当）	・原因はよく分からないが、中古車の販売台数が徐々に伸びてきている。また、中間クラスの輸入車の新車が受注残となっている。注文はあるが即納車の車がないため残ってしまうが、そういう車が出てきているため、この2、3か月はやや良くなっていくようである。夏休みが終わり、観光地で利益が出たホテルや商店街の人が、車を買っていることもある。とにかく今月はかなり良くなっている。3か月受注残高が残っているため、ここ2、3か月は上向きでいく。
乗用車販売店（統括）	・今後、新型車の投入があるためである。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		自動車備品販売店（経営者）	・エコカー補助金も終わり、車の必要性を感じた時に購入するため、ある程度先が読めるようになってきた。将来的には車の販売なども、ある程度良くなりそうである。
		一般レストラン（経営者）	・秋の行楽シーズンと、各種イベントの開催で来客数が増える。年末に向かって、集客を図る計画も増えてくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・2、3か月先は忘年会、新年会の時期になるため、希望も込めて、今以上に良くなるのではないと思うが、いずれにしても非常に厳しい。尖閣諸島や竹島など、いろいろな問題で客が財布のひもを締めているため、これからどうなるか分からない。毎日が非常に大変な日々であるが、忘新年会で今より少しは売上が伸びる。
		都市型ホテル（営業担当）	・根本的な景気の回復によるものかどうかということはまだ別の問題であるが、例年、年末に向けては稼働が良くなってくるため、期待している。
		旅行代理店（所長）	・自治体の福島第一原子力発電所の事故による風評被害対策として、今年度も一定の予算を配分してもらい、秋冬のイベントの告知、キャンペーンの効果に期待したい。
		住宅販売会社（経営者）	・税率アップ後が心配であるが、消費税増税の特需が増加しそうである。
	変わらない	商店街（代表者）	・このままの環境では変わることはなく、不況が続く。新しい景気対策が欲しい。
		商店街（代表者）	・秋らしい季節に早くなって欲しいと年配の人が話している。残暑の厳しい日が続くと商店街に人が来ない。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・10月から原材料の品不足で、物が値上がりしてくるが、買い占めの様子はなく、買い控えの状態である。食欲の秋になるが、夏の暑さの影響はまだまだ続くため、食品を扱う商店はつらい。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・徐々に商品の値上がりも見え隠れするなか、消費者への消費税増税がどう影響してくるのが微妙である。寒波予想でも出てくると、季節商材に多少の期待が持てる。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・以前にも増してイベント等、商戦を一生懸命やることによって、何とか販売等も維持していけそうである。
		百貨店（営業担当）	・消費マインドは相変わらず低調で、3か月後は変わらないか、若干落ちそうである。
		百貨店（販売促進担当）	・相変わらず不要不急な物以外は動きが鈍く、気温の高さもあり秋物衣料が特に不振である。今後の気温の推移が気になるところだが、堅実消費の流れは早急には変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・好転する要因は見当たらない。不要不急品の購入を見送る傾向は継続する。
		百貨店（店長）	・消費税増税や年金改正などの将来不安に加えて、経済や外交の動きも大きく不安材料として、消費者心理に影響を与えている。
		百貨店（販売担当）	・先行き不安な事案が多いため、なかなか良くならない。
		スーパー（店長）	・3か月先は年末商戦になるが、近隣を見る限り、業績の良い企業は見当たらない。1次産業も価格安で良い話は聞かない。良いとはいえない今の状況がしばらく続きそうである。
		スーパー（店長）	・曜日ごとの客数は数か月間変化がない。
		スーパー（統括）	・日替わりの目玉商品や朝市、夕市などの価格を意識したセールに消費者の目が向いており、生活防衛型の消費に大きくシフトしていく。
		コンビニ（経営者）	・2、3か月先、特別に行事があるわけではないためである。
		コンビニ（経営者）	・これから年末のクリスマス商戦等が始まるが、夏のピークからすると、売上、来客共に若干少ない感じで推移する。
		コンビニ（店長）	・ここにきて出店関係の噂はなくなってきているため、あまり変化はない。同業他社関係も落ち着いているため、今の状況からは大きく変わっていくことはない。
		衣料品専門店（統括）	・景気はなかなか上向きにならないのが現実である。しかし、ここ2、3か月は各地でお祭り、各種イベントがあり、若い人たち、また地域の消費は多少多くなってきている。先日までの暑さで一般商品の動きは非常に鈍く、また、商店街の来街者はあまり多くなかった。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（販売担当）	・3か月前からずっと変わらない悪さである。トータルの上は金額的には変わらないが、客数が増えた感じがある。ただ、やはり客単価が低いため、トータルでは売上が変わらなくても、何か自分を抑えながら買物を続けているようであり、この状況は今後も変わらない。無理をしてクレジットカードで買っても先行き不安が残るので使わない、というような状況も変わらない。
		家電量販店（店長）	・テレビ関係の回復、あるいは好調な商品群が構成比を増やせるかが鍵となる。好調な商材として、白物家電、調理家電、理容美容の関連商材、スマートフォンなどに期待している。
		家電量販店（営業担当）	・地上デジタル放送での回復ができない状況が続いている。また、産業用の太陽光の動きは多いが、投資できる企業は少ない。申請しても大手電力会社の動きが悪い状況である。
		乗用車販売店（経営者）	・2～3か月は反動減が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金も一段落し、話題はまた中古車商談に移りつつあるが、収益はあまり見込めない。
		乗用車販売店（管理担当）	・ユーザーの台替えがほぼ終わっている状況である。受注はさほど伸びない。
		住関連専門店（統括）	・中国、韓国等の領土問題に端を発し、経済環境の悪化が考えられる。また、中国からの商品入荷の遅れが予想され、売上に影響が出ると考えられる。
		住関連専門店（仕入担当）	・石油関連商材、ペットフードの仕入価格は、今後高騰傾向にあるが、市場価格は据え置き、もしくは下落気味と現状よりも厳しい運営が容易に予測される。
		一般レストラン（経営者）	・円高、デフレ、この状態はまだまだ続くと思うため、良くもなく悪くもなく、変わらない。
		スナック（経営者）	・これ以上落ちようがないと思うが、全く分からない。不景気なニュースが続くと本当に落ち込んでいくため、中国関係など結構心配である。
		スナック（経営者）	・変わらないを選択したが、これ以上悪くなって欲しくないという変わらないである。良くなる要素はほとんどないため、今後非常に心配している。
		観光型ホテル（営業担当）	・県内でも特に近隣観光地への入込客数は、前年と比較して減少傾向であり、そのようななかで売上確保には相当な努力を強いられそうである。
		旅行代理店（副支店長）	・中国、韓国との政治問題や国内の情勢を踏まえたうえで、観光産業としては、先行きが読めず厳しい。
		旅行代理店（営業担当）	・尖閣諸島や竹島の領土問題で、中国や韓国への渡航客のキャンセルがマイナス要因となっている。日本を取り巻く国際情勢が緊迫しているため、海外旅行の売行きも今一つ伸びない。
		通信会社（局長）	・中国との関係が、今後の経済にどのように影響するのか、不安材料として影を落としている。
		通信会社（総務担当）	・消費税増税など景気の先行きが不透明なため、個人消費も低迷している。
		テーマパーク（職員）	・猛暑であった反動が、冬季にあるのではないかと心配している。
		ゴルフ場（支配人）	・秋のゴルフシーズンに入るが、手放しでの集客は過去の話である。プレー料金を下げ続け、会員権価格も下がり、続くのはデフレだけだろうか。
		ゴルフ場（業務担当）	・今月については、入場者、売上共に上回ったが、単価は目標数字を下回り、単価維持に苦勞した月である。土日の雨によるキャンセル等でマイナス分もあり、プラスアルファの売店等の売上が伸びなかったため、総体の売上に結び付かなかった。向こう3か月については、結構引き合いがあるため、前年並みの入場者、売上を確保できればいい。しかし、客のほとんどが安いプランを選択する。
		美容室（経営者）	・残暑が厳しく客の動きが少ないため、これから秋に向かって旅行、お祭り、イベント等が多くなってくるが、来客数が良くなってくるのには時間がかかりそうである。
		その他サービス〔清掃〕（所長）	・必要な物以外の購入は控える傾向は変わらず、景気が変わる要素は見られない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（所長）	・小規模ながら物件の依頼がありそうな気配があり、併せて共同受注した物件が本決まりになり、多少は良い方向に向かいそうである。しかし、これは一時的な現象のような気がする。周りの雰囲気は決して良いとはいえず、今より良くなるという結論は出せない。
		設計事務所（所長）	・上期は無事目標を達成したとしても貯金がないため、下期スタートが順調とはいえない。イベントなどを実施し集客、受注に結び付けたい。
		住宅販売会社（従業員）	・豪雨災害のダメージは短期間には払拭できない。
		住宅販売会社（経営者）	・来店数、問い合わせ数などが、前月と変わらない。
		住宅販売会社（経営者）	・予測等については分からないが、依然として不動産価格の下落が続いている以上、このデフレを止めないことには不動産関係は良くならない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅購入支援策が続いている間は、このまま推移するようにも感じられる。しかし、円高、中国との関係悪化、世界景気の停滞等、不安要素も根強く残っている。特に当地域は、自動車メーカーの影響が大きいと国の賢明な対応をお願いしたい。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・行楽の秋から贈答の年末に期待をしたいが、このところ続いている客単価の下落が心配である。
		百貨店（店長）	・欧州、中国経済失速に対する懸念、また領土問題の影響などネガティブな材料に事欠かず、良い話題が全くない。
		スーパー（総務担当）	・エコカー補助金も終わり、消費税増税、中国との摩擦、円高、株安と景気回復の材料がない。
		衣料品専門店（店長）	・高額品が比較的売れる冬物の実売期であるが、商品価格の低下傾向が強く、利益の取れない商売が続くそうである。
		乗用車販売店（従業員）	・今月エコカー補助金が終了し、今までの好調の反動が今後発生するのではないかと危惧している。
		一般レストラン（経営者）	・これからの時期に、行政による山菜の放射能汚染による自粛指導が出ており、客への影響が心配である。
		一般レストラン（経営者）	・解散総選挙後、どこが政権をとっても国民は全く信用しないだろう。国民ありきの政治をして欲しい。
		観光型旅館（経営者）	・良くなる材料が見当たらない。
		都市型ホテル（支配人）	・福島第一原子力発電所の事故による風評被害が依然と続いており、当地域の空港の国際線の一部がストップしたままである。また、他の国際線利用者の減少等で2～3か月先、団体を含めて外国人の予約が入ってきていない。
		旅行代理店（経営者）	・政局がまだ安定していない。また、中国、韓国との関係も良くないため、今年は見通しが立たない。
		旅行代理店（従業員）	・中国や韓国との領土問題が長期化しそうなためである。
		旅行代理店（副支店長）	・領土問題が長引けば長引くほど、安近短の海外旅行への影響が出てくる。受注も海外旅行の旅行地の変更ではなく、取り止めになるケースが多く、売上等に響きそうである。国内旅行はほぼ平年並みの受注を受けている。
		タクシー（経営者）	・景気が悪いと、この先も悪い。
		通信会社（経営者）	・下半期に入っても、流れは変わらない。この半期で弱小零細企業は淘汰されてしまうのだろうか。リーマンショック、東日本大震災、政治の空転、地方の状況は悪くなるばかりである。
		通信会社（販売担当）	・冬商戦が始まるまで、市場が冷え込む時期である。また、中国問題で長期化するようなら、景気にも影響が出るのではないかと懸念している。
		ゴルフ場（副支配人）	・3か月先の予約状況は、前年度よりも更に悪い。来年1月中旬で当クラブはクローズになってしまう。今の来客状況並びに景気は、やや低迷気味である。
		競輪場（職員）	・オールスター競輪が行われたが、期待したほど売上が伸びていない。今後も厳しい状況が続く。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・この3か月ぐらい同様な傾向が続いており、客数、単価、売上金額自体も減少の傾向にある。この傾向が変わるようなポイントが見つけにくいと、このまま進んでいくのではないかと懸念している。
		その他サービス [立体 駐車場] (従業員)	・月ぎめ契約の解約台数が、前月、前々月と比べ約6%増えている。また、来客数も減っていることから、売上も伸び悩んでいる。各テナント、ホテル、映画館等についても入場者数が減り、売上が減少しているため、やや悪くなる。
		設計事務所（経営者）	・中国や韓国の領土問題の影響は、これから様々なところで出てきそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	設計事務所（所長）	・ここ数か月、非常に情報が少なく、好転する材料もない。
		商店街（代表者）	・冬物は扱わないため、この時期になると販売する物がなくなり、良くない。悪くなっていくばかりである。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	・良くなる兆候がまったく見えず、底打ち感もない。
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・地元の運動会関係の売上も悪いが、観光客の状態もあまり良い話は聞かない。全く人が来なくて悪い状況がずっと続いている。そのような状況のため、良くなる要因は見当たらない。
		スーパー（経営者）	・依然として購買意欲が弱い。
		コンビニ（経営者）	・当店から1キロ以内に、6店ほど新店がオープンした。また、天候が非常に不安定であり、今後、売上は多く望めないため悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・全て悪くなる方向に物事が動いているような感じがする。
		通信会社（経営者）	・消費税増税までまだ1年半あるが、今と同じような経済状況で増税に踏み切ると、増税後は多くの中小零細企業が破綻するだろう。円高は止められず、化石燃料は高値でしか買えない。この先、日本はどうなってしまうのか心配である。
企業 動向 関連  (北関東)	良くなる	その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・環境装置の他に、年明け3月までに大手電力会社との契約に間に合うよう、太陽光発電の申請をする計画を立てて進めている。600kwの発電のため、併せて成功見本となり地域への経済効果の呼び水にもなればと願っている。
	やや良くなる	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・季節的要因で、多少良くなるのではないかと期待している。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・試作品関係の注文が少しずつ出てきている。
		広告代理店（営業担当）	・年末商戦へ向けては、チラシなどの広告宣伝の引き合いが増えてきている。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・最近のWebの販売動向も悪く、今後も予想が立たない。
		金属製品製造業（経営者）	・受注量は多くならないが、仕事は安定してきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先は5社あるが、3社が好調で2社が低調である。特に自動車関連で、全く仕事がなくなってきた。理由は分からないが、全般的に車が売れなくなったようである。年末に向けて住宅関連の仕事が増える見込みだが、トータルすると変わらない気がする。また、中国関連のことがあるため、先行きが全く見えない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・客先の新機種動向が不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・全体的に製造加工業は比較的安定している状態が続くが、当社は仕事確保のための営業が忙しい。
		輸送業（営業担当）	・今後、大きく景気が上向くような材料はないが、涼しくなるにつれて、例年並みに冬物商材が動き、家電、衣類や雑貨等の物量は確保しそうである。そのなかでインターネット通販、ホームセンター向けの物量が伸びているが、運送コストである燃料価格の高騰により、利幅は厳しい状態が続いている。
新聞販売店〔広告〕（総務担当）		・前月に続き、景気は後ろ向きであると話す店主が多い。また、政情不安から旅行会社では、中国、韓国への海外旅行のキャンセルが目立ち、新たな申込も減っている。今回は長引きそうだと話している。	
社会保険労務士		・円高が是正され、賞与もそこそこ出れば良いが、あまり期待できそうにない。	
経営コンサルタント	・秋物などの季節需要が、どれだけ盛り上がるかにかかっている。		
やや悪くなる	化学工業（経営者）	・中国とのトラブルによって製品の出荷が止まり、操業に支障が出てきている企業や、半導体不況の影響で操業ダウンなどの話もあり、近隣地域への出荷がじわじわと悪くなってきている。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・中国の問題があるため、先行きが不安である。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・2～3か月後は今月よりやや悪くなる。それが長期に続いているため、採算が悪化しており、赤字すれすれのところまできている。これ以上受注量の減少が続けば、思い切った対策を取らざるを得ない。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（営業担当）	・12月までは何とか受注量を確保しているが、物件が少なく、1月以降はかなり厳しい状況になりそうである。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先と競争相手の様子等は、非常に仕事があるという会社は少なく、あまりない、忙しくないという状況になってきたような気がするため、変わらないかやや悪くなる。
		金融業（経営企画担当）	・尖閣諸島、竹島の領土問題による中国、韓国との摩擦発生により、観光業の宿泊施設においては、既に中国旅行客のキャンセルが発生している。製造業においてもその影響が懸念される状況である。
		金融業（役員）	・中国問題が非常に長く尾を引くと思う。また、円高も企業の足かせになっている。
		金融業（調査担当）	・国内の政策効果の一巡に加え、近隣諸国など海外需要の鈍化が予想される。
		不動産業（経営者）	・円高継続、消費税増税、年金負担増の話が挨拶代わりになっている。周囲では個人事業が継続できない人も見られる。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・引き合い、受注量から推測すると、情報化投資が抑制され、量的にも伸びが見られない。客が先行きに不透明感を感じ、様子見の状態が続いている。
悪くなる		食料品製造業（製造担当）	・尖閣の影響で、中国の農作物がどういう影響が出てくるのか、不安要素が多すぎて、先行きが本当に予測できない。いまだにシカゴ相場では高値で推移している。併せて原料が高騰している状態にあるため、利益を出していくのは大変難しくなっている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・相変わらずの利益低下と仕事量の減少が続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・パワーショベル向けの仕事に関して、更に大幅な減産が避けられず、社内においても暇な部署と比較的忙しい部署が明確に分かれている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主力大手自動車メーカーからのコスト要請が、非常にきつい状況にある。関西系大手自動車メーカーの海外移転により、関西系企業との競争が激しくなっている。そのなかで、コストダウンと共に受注量が月を追うごとに減少しており、非常に収益的にも厳しくなっている。12月あたりは厳しくなりそうである。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・東日本大震災後、前年の秋口は上昇に転じていたが、今年は7月頃から低迷が続いており、前年比ダウンが続いている。
		建設業（総務担当）	・当社は公共工事主体で土木、舗装工事を行っている。東日本大震災の影響と現政権の執行が遅いため、県、市町村との発注が遅れている。受注が厳しいなか、現在は下請工事も行っている。利益確保が難しい状況にもなっている。
		通信業（経営者）	・日韓、日中関係の悪化により経済状況はもっと悪くなりそうである。政府開発援助や国連分担金を見直して予算を作り、早急に憲法を改正して、戦闘機や空母を国内生産できるようにしたら、内需拡大になるだろう。
不動産業（管理担当）	・年内の予定についても未定になったり、価格引き下げの話がきており、今後更に厳しくなっていくそうである。		
雇用 関連  (北関東)	良くなる やや良くなる	—	—
		人材派遣会社（経営者）	・依然として電子関連については、底冷えか、少し上向きかという少し期待を持っている状態である。動きはまだはっきり分らないが、住宅関連は、非常に活発さを見せてきている。小売、販売も年末に向けての募集要件や、製品関係の切替えが見込まれており、少し伸びてくるようである。
		人材派遣会社（管理担当）	・住宅設備関連の派遣取引が確定したためである。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・10社ぐらいの会社と付き合いがあるが、今のところ景気の良い会社はほとんどない。
		人材派遣会社（社員）	・周辺企業や同業他社と話をしても、良くなる材料、悪くなる材料は特にはない。個別の宿泊先の客については、良いところと悪いところがあるため、全体的な評価はなかなか難しいが、それほど大きな変化はない。
人材派遣会社（営業担当）		・円高のためである。	
	求人情報誌製作会社（経営者）	・今の景気低迷の状態がしばらく続くため、求人募集に対しても厳しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・8月の新規求人数は前年比20.5%の増加となっている。特に多いのが情報通信業、運輸、郵便業、卸小売業だが、窓口及び企業訪問時に確認すると、新規店舗のオープンや事業拡大等は非常に少なく、景気が良いので採ると感じが少ない。卸小売業は退職者の欠員補充が多く、情報通信業では選考基準の高い即戦力の募集が多い。製造業ではスポット的な求人が多く、建設業関連でも東日本大震災に伴う復旧工事は堅調であるが、あくまで一過性のものであり、依然厳しい価格競争も続いていることから、今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年比23.6%増となっているが、建設業の復興関連の臨時的な割合が多く、求職者の希望する製造等が極端に少ないため、就職に結び付きにくくなっている。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・求職者数の減少は継続しているが、求人申込に鈍化傾向が現れてきており、雇用環境は厳しさが増してくる恐れがある。
		職業安定所（職員）	・中国、韓国との領土問題のためである。
		職業安定所（職員）	・管内大手企業の希望退職者を募るリストラは、予定どおり進んでいる。退職予定者がすべて当安定所で求職するわけではないが、相当数の求職者が今後、手続きするようである。
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・政治不信や経済の不安定で、市内の車関連の企業はかなりダメージを受けている。その反動が、周辺の飲食店をはじめ小売店にも影響が出始めている。

#### 4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (南関東)	良くなる	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・当店の営業方針を大きく変えたため、それが功を奏して良くなっていったようである。
		衣料品専門店（店長）	・気温が下がり、スーツ、コート、冬物の需要が高まれば、今月より更に良くなる可能性がある。
		観光名所（職員）	・観光地であるため、2～3か月後はトップシーズンとなる。9月に比べて、より多くの旅客が訪れてくれることを期待している。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・若干希望的観測ではあるが、カードの取扱高がここ数か月前の流れより回復基調にあり、客の財布のひもがゆるくなってきたようである。ただ、アジア情勢により、アジアの富裕層の客足が止まると売上にひびく。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・秋らしい気温となり、爽やか天候になったら客数も回復してくるのではないかと思う。秋はイベントやお祭り等が多いため、天候に恵まれれば、かなりの売上が見込める。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・今月の後半のような荒れた天候ではなく、安定した天候であれば、やや良いのではないかと考えている。今月の前半は天候に恵まれたことにより非常に良かったので、そのような点から良くなると判断している。
		百貨店（販売促進担当）	・気候が涼しくなったからの動きが活発になっているため、期待も込めてやや良くなる。
		スーパー（店長）	・今後は気温や季節が関係してくると思うが、年末商戦に向けて今の景気や店舗の状況よりは良くなると期待している。消費者は年末になると必要ではない物でも買うようになると思われる。
		コンビニ（経営者）	・一部に非常に心配、不景気だと言う人もいるが、相対的には購買意欲は非常に強いと思うため、やや良い。
		衣料品専門店（経営者）	・年間で一番売上が期待できるシーズンのため、今よりは良くなるだろう。ただし、商品単価が一段と安くなったことが心配であるのと、中国からの商品が順調に入ってくるのかが気がかりである。
		乗用車販売店（販売担当）	・東日本大震災の復興で、本格的な活動が始まりつつある。ダンプカーやクレーン車、ミキサー車など、建設関連の車については受注も多く、今後もまだ売れそうである。また、政治絡みで選挙があれば、選挙の年は多少良くなるという期待感があるため、やや良くなる。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・ホリデーシーズンは現在よりも盛り上がると思うが、昨年ほどの勢いはないようである。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・気温の低下に伴い、前年比100%以上の回復基調に転じれば、景気の底堅さはみられる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・12月ごろは歓送迎会や忘年会があり、今よりも良くなる。
		旅行代理店（経営者）	・残暑が厳しかったせいか、なかなか8月は思うように動かなかったが、彼岸が過ぎたので客も一段落し、問い合わせ等が大分多くなってきている。いよいよ秋の行楽シーズンに入り、味覚狩りや家族旅行などの問い合わせが大分多く来ているため、やや良くなる。
		通信会社（経営者）	・客に節約疲れがあるように感じる。欧州の信用不安等いろいろ言われても、個人の生活にあまり影響が感じられず、消費に向かう。
		通信会社（管理担当）	・政権交代の可能性があるため、景気が上向く期待がある。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・年末に向けて催事の予約が好調に推移しており、来客増が期待できる。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・今が悪すぎるためである。
		設計事務所（所長）	・一般消費者や事業主が建て替えや新築などへの関心を示しつつあるため、何か動き出すのではないかと考えられる。
		設計事務所（職員）	・消費税増税前の駆け込み発注に向けた案件数の増加に期待する。
		住宅販売会社（従業員）	・これから3か月は、消費税増税の影響で需要が見込め、それに対応できる仕入を確保することによって良くなる。市況は緩やかに下降しているが、早期販売を心掛けていければ良さそうである。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税のニュースにより、来場数が増えてきた。例年、年末、年度末に向かい動きが出てくるため、景気はやや良くなる。消費税増税前の駆け込み需要が少しずつ出てきそうな状況である。
		住宅販売会社（従業員）	・来場者数が増えており、例年に比べても多くなっている。
	変わらない	商店街（代表者）	・今のところ急速に景気が上向く気配がない。ただ今後、新政権が発足した後、過去の景気の良さがまた少し戻ってくるような期待をしている。
		商店街（代表者）	・これからの日本の首相が誰になるかによって、少しは変わっていくと思う。東北を思い切って変えていかないと今の状態がそのまま続く。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・良くなる理由が見当たらない。消費税増税や負担するものが増えて、購入意欲が削がれる。LED照明や太陽光に期待をかけるところである。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・これは商売だけではないと思うが、現在、日本が置かれている立場や、我々の身近に不安材料が非常に多いと感じる。そのため、あまり大きな買い物はせず、必要最小限の物しか購入しないのではないかという感じがある。もう少し購買意欲が増すような環境になって欲しい。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・イベントの多い、10月に期待したいところである。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・良くなるような要素がないため、現状と変わらない。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・いろいろな意味で、政治的にも不安定要素が多すぎる。当社は郵便局がメインの客だが、10月に会社が変わるということで、今後どうなるのか見えてこない。また国会が空転しているせいで、予算が下りてこない。実際予算はあるのだが、特例公債法案が通らないと、いろいろな意味で役所関係の大口の予算が執行できないということで、今困っている。それがいつになるのか、さっぱり分からない状態である。政治的に少し安定してほしい。
		百貨店（売場主任）	・今の政治の情勢や諸外国との不安定感から、景気が上がる見込みがない。
		百貨店（総務担当）	・景気自体は大きく好転する要素がない。当社としては来客数を増やす施策を講じていくことが急務であり、リモデルも含め考慮していく必要があると考えている。
		百貨店（総務担当）	・基本的に経済的な要件が上がってきたり、ファンダメンタルズが良くなってくる状況はない。また、ヨーロッパの経済不安や、中国、韓国の問題等があるなかで、消費税増税が決まっていくということでは、今後についても、当面景気は決して良くなる環境にはない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（広報担当）	・大型商業施設の新規開業や百貨店各店の大型改装も一段落し、年内は主体的に景気にインパクトを与えるような状況は見当たらない。また、与党の党首の交代も無かったことから、消費税や財政的な変化も見込めず、何とか現状を維持していく。
		百貨店（営業担当）	・例年に比べると、気温が高く夏日が続いていることが主要因で、秋物衣料の動きが悪く、厳しい状況が続いている。また、尖閣諸島の国有化に伴う中国情勢の悪化も影響している。ただ、月末から気温も例年並みに下がってきており、秋物衣料の動きも良くなってきている。
		百貨店（営業担当）	・9月の不振が、気温の影響のためなのか、消費に関する傾向が変化したためなのか、見極めが難しい。2～3か月先は年末商戦となるため、現在は傾向をつかむのが非常に難しい。
		百貨店（営業担当）	・中国との貿易にも影響が出始めている。加えて大手企業の大規模人員削減も、消費に少なからず影響が出てくる。
		百貨店（販売管理担当）	・売上対策の一環として優待販売を強化しているが、その効果は徐々に薄れてきており、消費者の購買意欲に活発さが無い。しかし、残暑が長引いた反動で、今後、秋冬物に一定の動きがあると考えられる。
		百貨店（副店長）	・長い残暑、天候不順に加えて世界経済の情勢、日本の領土問題などによる消費者心理の冷え込み等がある一方で、天候の安定、政局のリフレッシュによる期待などに伴う、消費者心理の好転も期待できる。
		百貨店（営業企画担当）	・天候にもよるが、暖冬などの影響もあれば今後も苦戦が予想される。
		スーパー（経営者）	・ずっとやや悪い状態が続いており、この先も同じような傾向ではないかと思う。7月末に競合店ができて、それほど大きな影響はないのだが、今までよりは少し悪くなっているようである。しかし、全体的には変わらない。
		スーパー（店長）	・3か月後の予測は変わらない。今が底だと思うが、オーバーストア状態のなかで、チラシをまいてもなかなか安い物しか買わなかったり、不必要な物は買ってもらえないという状況である。そのため、今の底のままで毎月が終わっていき、明るい展望が見えない。
		スーパー（店長）	・日常生活の節約志向は相変わらず続いており、より安くといった志向が変わらないため、単価、点数の上昇を望むにはあまりに難しく、状況はさらに厳しくなるようである。
		スーパー（店員）	・現在来客数は伸びているが、来客数に伴う取引点数は思ったほど伸びてはいない。また、点数、平均単価も部門によりばらつきがある。価格訴求指定に対しては販売数は伸び、支持率が上がっているが、それ以外のところでは横ばいが現状である。
		スーパー（総務担当）	・当店では、頻度品中心のため消費税増税が決まっても、まだ直近にならなければ数字としては変わらない。また、世の中の予見等で大ヒット商品や傾向が見られず、新商品についても、以前は富士山型だったのが、今では、すぐ売れてすぐ売れなくなるというペンシル型が続き、大きく売上を伸ばしていくことは見られない。
		スーパー（営業担当）	・円高、株安の影響もあるが、将来に対する不安がやはり押しよこされておらず、一番大きな要因である。
		スーパー（仕入担当）	・中国からの輸入加工品が多いため、領土問題による中国との摩擦は、今後、影響が表れてくる。
		スーパー（仕入担当）	・来客数や買上点数は前年並みを維持しているが、1品単価の落ち込みにより、売上自体は横ばいもしくは下降気味である。
		コンビニ（経営者）	・11月ごろ、近隣にスーパーの出店があり、影響があると思う。スーパーの時給が高く、スタッフも集まりにくくなりそうである。また、当地域の最低時給が上がり、営業費の負担が増える。
		コンビニ（経営者）	・同業他社の出店攻勢が続いているが、今後数か月程度はセール等の力を借り、現状維持が見込まれている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・客の来店状況を見ていると、バスで最寄りのターミナル駅、当店近くの駅に出てきてから買物をし、そのなかで店に寄ってくれるという客も大変増えている。そのため、集客力は店独自だけではなく、コミュニティ全体で上がっているようである。ただし、買上については、いろいろな店が進出してきているために競争も大変激しく、客単価が若干落ちている。総数にして客数は増え、客単価が落ちているため、変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・前年と比較すると悪いが、現在のトレンドがそのまま続くと予測している。
		コンビニ（店長）	・コンビニという業種の、地域のなかでの役割を更に追及していかなければいけないと感じている。そして、このウォッチャー調査がそのきっかけにもなるため、大変有り難く思っている。
		コンビニ（商品開発担当）	・伸張の兆しが全く見られない。
		コンビニ（商品開発担当）	・来店客数、客単価が上昇する好材料もなく、消費者の動向も大きく変化することが見られない。
		衣料品専門店（経営者）	・衣料品は中国製が非常に多く、今までと同じように計画的な入荷があるか、今後に変化があるか、不安がある。
		家電量販店（統括）	・新型スマートフォン以外に、市場を大きく動かす家電商品が見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	・当社は自動車の整備と販売をやっており、整備は順調に入っているが、販売はエコカー補助金が終了したことで、前年比3割減となっている。
		乗用車販売店（経営者）	・今まで停滞していた中古車の売上が、少しずつ伸びる。
		乗用車販売店（販売担当）	・新車販売のエコカー補助金も終了だが、補助金が無くなったとしても客数はあまり変わらず、来客がある。商談数もそれほど落ち込んでいないため、この状態が続く。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・野党政権が成立すれば、若干上向きになる。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・将来的に見ても環境に左右されることがこれからも多々ありそうである。
		高級レストラン（店長）	・宴会予約の推移で判断して、変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・尖閣問題などが中国の観光客に影響するように、韓流ブームも下火になり、政治の流れが大きく影を落とし予断を許さない。
		一般レストラン（経営者）	・やはり3か月後も今と変わらない。消費税増税もあると思うが、もし解散総選挙などで政治が安定してくれば、多少は何か、経済も良くなるような気がする。今の政権だとやはり不安材料が多すぎるため、どうしても消費は低迷する。
		一般レストラン（経営者）	・まだまだ売上、客数とも前年に追いつけない状態で、下げ止まっていない。飲食店を運営しているが、この先消費税増税の問題が大きく影響してくるようで、大変心配である。
		一般レストラン（店長）	・とにかく物や食料品が値上がりし、仕入価格も厳しくなっている。そのなかで来客数も伸びず、当店として先があるのかといえ、全くない状態である。
		一般レストラン（スタッフ）	・当店は50年やってきたため、売上はそれほど落ちていない。しかし、支払等が増えてきているため、売上は落ちてはいないが、純利益としては少なくなっている。他のことでも、テナントが空くなど家賃も入ってこない。政府も景気を上げるように何かしてくれればいいが、何もしてくれないので、これでは大変である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊の予約は、入り方がますます遅くなり、間際の安い料金がインターネットに出るのを待っている様子があり、先の予約がなかなか伸びない。また、付近での催しもなく団体予約も伸びない。レストランも、七五三は予約が特定の日に集中して、もう伸びる余地はなく、平日利用の予約も間際まで入らず、宴会は忘年会の予約は少しずつ入ってきているが、前年同時期で予約人数が下回っている。新年会の予約は、本年の1月とほぼ同人数の受注ができています。
		旅行代理店（従業員）	・領土問題で海外旅行から国内旅行へ切替える団体旅行が相次いでいる。国内旅行は特需的な感じで、北海道や沖縄方面が好調である。ただし、海外旅行から国内旅行にシフトしたため、販売額が減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・先行受注は前年比120%以上で進んでいたが、尖閣諸島問題等で日中関係の渡航がキャンセルになったり、先行の受注が入ってこなくなり、先が見えない。
		旅行代理店（支店長）	・やはり今は東京スカイツリー関連の仕事が非常に多く入っている。ただし、発注のピークは少し過ぎたようであり、2～3か月後も同じ状況であると思う。また、冬になれば、業界としても秋のシーズンより全体は下がるため、変わらない。
		タクシー運転手	・この先の不安が一番大きいことが尾を引いている。
		タクシー（団体役員）	・景気が良くなる要素が見られず、今後も厳しい営業環境が続く。
		通信会社（経営者）	・12月より新商品の販売が開始される予定であり、テレビ、インターネット販売のきっかけとして期待しているが、需要増大には今一つと考える。
		通信会社（経営者）	・客のコストに関する考え方は相変わらずシビアで、営業活動が好調に推移するとは思えない。
		通信会社（社員）	・良くなる要素が見つからない。地上デジタル放送への移行後、落ち込んだ加入数がここ2か月は安定してきているため、悪くなっていくとも思わない。低めで安定している。
		通信会社（営業担当）	・政治は不透明感があり、景気の先行きに不安があるため、消費者は買い控えをしている。
		通信会社（営業担当）	・特に良くなる材料が見当たらない。むしろ中国、韓国との関係悪化による、経済への影響が懸念される。
		通信会社（局長）	・ボーナス時期に向けて、企業の好調要因からの新聞記事が発表されれば、年末年始の期待感から、上向きになる可能性があると思うが、年末年始の海外旅行の反響もごく一部の富裕層に過ぎない。
		ゴルフ場（支配人）	・販売量、来場者数、3か月間横ばいである。
		パチンコ店（経営者）	・低玉貸しを導入したことで少し客数は増えたが、安く遊べるということで、トータル的な売上はさほど変わらない。やはり客があまりお金を使わないで遊ぶ傾向になっている。先行きにそれほど大きな変化は感じられないため、変わらない。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・政治の迷走が相変わらず続いており、消費税増税の決定も拍車をかけ、消費マインドを低迷させている。
		その他レジャー施設 [スポーツ施設]（支配人）	・先行きが不透明である。外交的な不安要素からくる景気低迷や政治に対する不安などのため、変わらない。
		その他レジャー施設 [アミューズメント]（店長）	・直近数か月の状況が予想以上に悪化しており、回復の兆しが見つからない。
		その他サービス [保険代理店]（経営者）	・年末で顧客の購買心に期待をするが、まだ先が見えない景気状況にあり、零細企業まで景気回復が及ぶのはまだまだ先のようなのである。
		その他サービス [学習塾]（経営者）	・9月からの入塾者数は昨年とほぼ同じである。
		設計事務所（経営者）	・仕事を取るために構えていたのでは変わらないと思っている。いろいろチャレンジし、工夫をし、そしてPRをし、そういった結果によって、当社では今、仕事がさばききれないほどになっているが、これから先となるとただ構えていたのでは伸びないと思う。前後を見ながら更なるチャレンジする心構えが必要である。
		住宅販売会社（従業員）	・今後、消費税増税前の駆け込み契約が増加すると見込まれるものの、着工はまだ先のことであり、完工高の増加には結びつかないため、収益は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税で、そろそろ先取り意識により、受注に動きが出てくるかもしれないが、確実に表れるのは来年以降であるため、しばらくは横ばいである。
		その他住宅 [住宅資材]（営業）	・建材関係は好調だが、どんどん良くなるというよりは、このペースを維持する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・間接的ではあるがやはり中国、韓国と、今思うような形で取組ができておらず、経済もそういう意味では、中国人観光客がかなり減っているなど、皆、商売に対して閉塞感を感じているようである。今後これを何とかしていかないと、消費税も8%に決定していることもあり、買物に対する雰囲気は非常に悪くなってきている。ぜひそのあたりは、国のほうで何か良い案を出してもらえるとありがたい。
		商店街（代表者）	・一般家庭で電気料金やその他いろいろな価格が高くなり、今の世情からは輸出がかなりダメージを受けていくと思う。それが徐々に響いてくるため、多少悪くなっていく。
		一般小売店〔家電〕 （経理担当）	・主力で売れる商品がなく、消費者の購買意欲も衰えている感じがする。単価の安い商品が売れている程度である。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・ようやく涼しくなってきたが、今年は近年まれに見る暑さのため、夏から秋にかけて売上金額も昨年より激減している。このままでは昨年にも追いつかず、ますます売上が減ってきてしまいそうである。
		百貨店（総務担当）	・先行き不安である。
		百貨店（営業担当）	・天候も、長期予報では暖冬の予測である。また、選挙等も考えられ、良いニュースが全くない。
		百貨店（店長）	・現状の消費動向を見ていて、積極的に買い物をしているようには見えない。
		コンビニ（経営者）	・近隣に大型スーパーができたことに加え、競合店が増えたためである。
		コンビニ（経営者）	・国内的には政局不安が続くようであり、それに伴って経済政策の遅れが懸念される。また、国際的には非常に問題が山積しており、民情不安が影響してくる。
		コンビニ（経営者）	・先行き不透明な状態が続いているためである。
		衣料品専門店（経営者）	・昨今の領土問題に発して、経済的にもいろいろな問題が起きている。そのような関係上、なかなか消費に関心が向かわない、余裕がない、景気が悪い、ということが続く。
		衣料品専門店（経営者）	・世の中が落ち着かず、不安な状態である。さらに、中国から働きに来ている人達が、反日感情の影響が極端に買物が減少していることもあり、しばらくは良くならない。
		衣料品専門店（経営者）	・暑さや大雨等の天候不順で、なかなか秋物衣料に目を向けてくれない。イベントで顧客の動員をはかる予定だが、的確な商材手配が読みにくい。点単価、客単価の低下も予想される。
		衣料品専門店（店長）	・消費税増税が決定してから、少しずつ実用衣料の比率が上がってきている。本当に必要な物以外は控えようとしてきている。
		衣料品専門店（営業担当）	・日本には今まで四季があったが、最近では春と秋がなくなってきたようである。メーカーも作り込みを怖がり、物を作らない。売れ筋も見つからず、厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（営業担当）	・不況が定常化して買い控えが広がり、高齢者の財布のひもが固いようである。
		家電量販店（店員）	・これから年末に向け、物量の動きが多くなっていくなか、極端な値下げが景気の悪化へと拍車をかけてしまう。
		家電量販店（営業統括）	・中国との関係悪化に伴い、中国人観光客の減少だけでなく、製品供給やメーカーの企業体力の消耗などが、消費に悪影響を及ぼす危機感を感じている。特に訪日観光客の減少では、10月の大型連休だけで終わればいいが、来年の旧正月まで長引くと影響は少なくない。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金申請の受付が9月21日に終了し、その反動減が既に次の土日から出ている。今月、来月とかなり苦戦が見込まれる。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型車発売効果も、長続きしないと思う。さらに、中国との問題がエスカレートすれば大事になり、自動車業界はもとより、各業界へも景気の悪化につながるのではないかと心配である。
		乗用車販売店（渉外担当）	・エコカー補助金の終了、エコカー減税は平成27年4月まで継続中のなか、駆け込みの受注はここ1か月あまり見られない。今後、多少影響はあるにせよ2年前のような、前年比20～25%減にはならないと思う。環境や燃費の良いHV・PHV車を中心に客のニーズに合った丁寧な提案をして、総合営業を続けていく。
		住関連専門店（店長）	・暖冬予想のため、やや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住関連専門店（統括）	・景気が伸び悩んでいる状態で、消費も抑えられているのが現状である。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・ドラッグストアの競合だけでなく、調剤薬局も競合が増えてきているため、客の取り合いになるのは目に見えている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・天候の影響もあるが、9月に入ってから衣料の動きがかなり悪く、先行きが懸念される。
		高級レストラン（支配人）	・中国、韓国関係で影響が出るのは必至である。近隣企業、特に商社やメーカーでは、両国との取引や工場がある企業が多いため、すでに影響が出始めている。
		一般レストラン（経営者）	・子ども手当の廃止や消費税増税など、今後、家計の負担が多くなるのが確実に分かっているため、徐々に心理的に冷え込んできている。財布のひもが固くなっているようである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・解散総選挙がいつになるのかと、政局の不安定さが経済を停滞させると思うため、少し悪くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・年末にかけて忘年会やイベントなど目白押しとなるが、特に例年に比べ、イベントの動きが悪く厳しいスタートである。この時期レストランは高単価販売ができるが、例年販売数が減少し単価も下がる傾向にあるため、見直しが必要である。高単価商品の売行きが悪く、利益を圧迫してきている。
		都市型ホテル（統括）	・サラリーマン1人当たりの小遣いが、1か月当たり4万円を切るなど消費縮小傾向に向かいそうである。
		タクシー運転手	・秋は気候も良く、健康志向の動きもあり、2～3キロくらい平気で歩く人も増え、需要が減る。あまり期待はできそうもなく、12月を待つのみである。
		タクシー運転手	・中国や朝鮮との問題もあるが、それによってなお一層、また景気の落ち込みが加速するのではないかと予想している。非常に厳しい状態が続く。
		通信会社（営業担当）	・通信については顧客のニーズが固定して、スマートフォン、次世代ワイヤレスブロードバンドと多様化しており、競争も激化している。若干の下振れが見込まれる。
		通信会社（局長）	・モバイル系の販売数は増えていくと思うが、それをけん引するのは若年層であることから、必需品とはいええないケーブルテレビの契約数自体は伸び悩む。
		通信会社（営業担当）	・価格での競争が激しくなっており、改善する要素が少ない。
		美容室（経営者）	・周りの商店街が徐々に減ってきているような気がする。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・東日本大震災の後、電車等が止まることが多く、近くの塾に通う子供が増えた。いろいろ災害が多く、地震も予知され、また先月や最近の電車の事故後も、小学生が主だが、近くの塾に通う、電車に乗って通わせたくないという父兄が出てきている。人数は減少の一途をたどっているおり、景気の回復は見込めない。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	・政治の不安定さ、あるいは国際政治、特に領海問題等、経済にも様々な影響を与え始めている問題が続いている。経済界や消費者の間にも先行きに対しての不安材料が増えている状態であるため、消費については大分弱気なマインドになっている人が多いと思う。その意味で、3か月後の状況としてはあまり良くない。
		設計事務所（所長）	・今年に入っていまだに民間の仕事がないことを考えると、先行きが不安になる。とにかく耐震改修の仕事を確保することを考えて今はやっている。
		設計事務所（所長）	・今の状況下、新築物件が非常にない。ほとんどがリニューアルや改修工事、耐震補強で、これも普段のように厳しいなか、なかなか計画どおりに発注されないのが現状である。先々明るい光が差すかという、非常にその点は難しいという実感である。
	悪くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・とにかく客の所を回っても、本当に良い話等を聞くことはなく、設備投資の話などもなく、全体的に品物自体が動いていない気がする。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・9月も厳しい暑さが続くなか、消費税増税や電気料金の値上がりなどで客の買い控えが続き、売上も前年割れの状況である。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・政治、特に外交や、経済が共に不安定な要素が多く、あまり期待はできない。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・次の競合店出店の計画も進行中のため、影響はしばらく続く。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・可処分所得が減る一方で増える兆しがない中で、いろいろな社会的な問題、政治的な混乱がまだ続いている状況のため、本当に心配である。もっと悪くなるのではないかと心配している。
		スーパー（ネット宅配担当）	・サラリーマン所得の減少や消費税増税の決定により、ますます節約志向が高まる。圧倒的な安さや、多用途などの購入理由をより打ち出していけないと売れない。
		コンビニ（経営者）	・中国との摩擦や欧州の信用不安など、不安材料が多いためである。
		乗用車販売店（経営者）	・需要の先食いとも思われるエコカー補助金が終わり、反動減でさらに販売は厳しくなる。
		乗用車販売店（店長）	・9月の新車販売台数が、全国的に見ても45万台を下回るの は、過去10年間でも最低の水準となる。10月以降も販売の勢いが戻る要因は見当たらず、その理由としては政局の不安、経済の停滞、また10月以降、自動車保険の改定等いろいろな問題が山積されている。
		タクシー運転手	・尖閣諸島と竹島の領土問題で紛争が起きているが、特に中国との貿易問題が懸念されており、徐々に悪影響が出てきているため、景気は悪くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・政権交代なのか、とにかく一度決着をつけるべきである。早く安定した政治を行ってほしい。
		美容室（経営者）	・よく分からない。
		住宅販売会社（経営者）	・政府は景気対策を後回しにして政権争いに没頭しているように思う。このように国民不在の政治の中では先の見通しは全く立たずに、ますますデフレ経済から脱却することは遠のくばかりである。
企業 動向 関連  (南関東)	良くなる やや良くなる	—	—
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・当社のトラックの場合は、9月が良ければ今年は大丈夫だろうと先月も言ったが、材料がどんどん動いて、4月からやや良くなってきて、9月が今までで一番良かったようである。このまま年内は大丈夫だと思うが、ちょっとした例えば中国の問題、そういうこともみんな影響してきて、すぐ減速してしまう。しかし、トラックのほうは、今年は大丈夫そうである。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・夏の商品出荷量が多かったこともあり、冬の出荷量も見込めている。
		不動産業（総務担当）	・期待含みだが、新規テナントの入居問い合わせ件数が増えてきているため、空室率の改善が見込める。ただし、賃貸料の希望水準は想像以上にシビアな状況で、交渉が難航、長引く傾向にある。
	変わらない	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・10月に入れば、例年だと仕事増が見込める。
		食料品製造業（経営者）	・しばらくこういう状況が、停滞気味のまま続く。
		食料品製造業（経営者）	・政治が安定しなければ、購買意欲が沸かないと思う。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・年末の繁忙時期までは、必死にこらえるのが現状である。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・経費削減、低価格の風潮がこのまま定着すれば、将来の利益幅増は見込めない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・法人関係の得意先は売掛でやっているが、店頭に来る個人客の需要はそれほど変わらないと現場で感じている。同じ法人関係の客でも、業界によって大変上がっている所と下がっている所があり、はっきりと違いが出てきたと感じている。電力関連は下がっているが、薬品、メディカル関連は上がっているようである。同じ法人関係でも上下があるため、これからあまり変わらない見通しである。
化学工業（従業員）	・販売先や仕入先の廃業があり、話を聞くと、今年になって仕事がなく、今後も仕事がないため、廃業とのことである。このため商品の動きがつかめず、良くなる要因がない。		
金属製品製造業（経営者）	・売上、受注量とも減少し、過去の悪いレベルにきた。大手の取引先も活気がなく、しばらく同じ状況が続くようである。		
一般機械器具製造業（経営者）	・良くなるような気配が全体から感じられない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・国内や海外の景気動向を見ても良くなる要素が見当たらない。特に中国との取引に関する冷え込みは厳しい。来年、中国の展示会に出品する予定だが、今後の動向によっては中止せざるを得ない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・選挙を控えて、ここへきて当分景気が良くなる要素がない。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・このところの動きからは、大きく変化することはない、この状況で安定してきているようである。ただ、最近の傾向としては、メイドインジャパンという言葉を得意先でどんどん使ってきている。中国産などのなかにおいて、国産というものが再度認められてきているような気がする。
		建設業（経理担当）	・消費税増税の話題が多く出てくるようになってきたため、建築を計画している客が早めの発注へと動き出すことを期待している。しかし、景気が良くなっていないため、ここで新たに計画をしてくれる客は望めない。
		輸送業（経営者）	・当業界では、いくら気をもんでも得意先の取引によって影響が出てくる。荷主からは、いろいろ慰められながら一生懸命仕事しているが、荷主も大変受注が少なく困っている。
		輸送業（経営者）	・相当の金融緩和と経済対策がはっきりと打ち出せないまま推移している関係もあるためか、一気に景気が良くなるという期待感は少し薄れている。
		金融業（統括）	・今後の見通しがまだまだはっきりしていないため、当面は変化がない。
		金融業（従業員）	・全体としては持ち直しつつあるが、力強さを欠いている。設備投資の低迷にも歯止めがかかっていない。建設業、不動産業が回復しつつあるが、小売業の業況は依然として厳しい。
		不動産業（経営者）	・年末から動きが始まらないとどうしようもない。上昇を祈るのみである。
		広告代理店（経営者）	・変動要因が見当たらないため、現在の延長である。
		広告代理店（従業員）	・受注予想などから、増減はない。
		社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。
		経営コンサルタント	・良くなる材料がない。
		税理士	・良くなる材料が見当たらない。消費税増税は確実に上がったが景気が良くなる材料とはならない。
		経営コンサルタント	・今月で締め切られる多くの企業の24年度上半期の業績は、回復、好調は少ないのではないかと思う。この先も、不透明感が強く、経営環境の変化を読み取れない歯がゆさがある。復興需要で潤っている一部業界は別にして、多くの中小企業は悲観的な見方をして、控えめな下期計画を策定している。
その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・年末に向かうものの、特に新規の予定がなく、相変わらず厳しい状況が続く。		
その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・インターネット対応のマンションにグレードアップするための営業において、他社との競合がさらに激しくなっている。		
やや悪くなる		繊維工業（従業員）	・開催される予定だった上海の展示会が中止となった。尖閣諸島問題にからみ、中国における消費者の日本製品に対する購買意欲が削がれ、国内消費にも影響が出ることを懸念している。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・周囲の景気状況は特に大きく変化してはいないが、今後どのような景気変動があるのか予測できない。むしろ予断を許さない状況である。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・長期化する円高に加え、尖閣問題に端を発した中国との関係に不安を感じる。しかし、中国進出した顧客が国内回帰に向かえば、一時的にでも受注増加の期待感がある。
		一般機械器具製造業（経営者）	・中国向けの輸出に急ブレーキがかかり、注文が減っている。他の物にも影響が出てくるのではないかと心配している。今年前半に円高のため、アメリカに大きいロットのものが持って行かれた。中国と問題が起きているようなので、これからまた中国の物がさらに減るのではないかと、心配している。
		精密機械器具製造業（経営者）	・隣国との関係悪化、世界的市場の停滞感のためである。
		建設業（経営者）	・厳しい価格競争になっている。材料も値上がり傾向にあり、先行きが見えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（営業担当）	・反日暴動で中国に進出している取引先メーカーが、中国での営業を見合わせている。その影響で日本における設備投資も見合わせており、見込みを立てている案件についても、いつ発注されるかが分からない状態である。
		輸送業（経営者）	・4月から下がってきた軽油価格が8月より再び上がり始めている。今後も値上がりの気配が強く、経費の負担増が懸念される。
		輸送業（総務担当）	・今後も出荷量が確定していない。また、増産により出荷が増えても、東北方面から首都圏に来る車両が少なく、自社の車両で片道運送のため採算がとれない。燃料価格が8月下旬より値上がりして、高値の状態が続いている。
		通信業（広報担当）	・外需が弱く、その影響でこの傾向はしばらく続く。
		金融業（渉外・預金担当）	・中国等の問題による影響を懸念しており、実際に減産も発表されている事から、景気は悪化するとの声が多い。
		金融業（支店長）	・為替、株式のマーケットも極めて狭い範囲で動いている。今のように停滞している状況下こそ政治に期待したいが、現在の政局では当面回復は望めない。
		金融業（役員）	・報道されている外交問題の影響で、輸出関連企業は売上が落ちることを心配して積極的な行動をとらない。消費税増税をにらんで、長期の不動産開発プロジェクトは敬遠される傾向にある。
		金融業（支店長）	・取引先の客の見通しを聞くと、まだまだ売上に対する見込みがないということ、相変わらず運転資金等のストックが少なくなっているということで、やや売上が悪くなっているようである。また、消費税増税や電気料金が値上げで、売上がないなか経費が増すことを考えると、やや悪くなる。
		広告代理店（従業員）	・取引先の車販売会社で、エコカー補助金が終わってしまい、売上の落ち込みがありそうである。
		広告代理店（営業担当）	・中国、韓国の情勢が悪いためである。
		税理士	・北米の景気は良くないが、中国を始め新興国に対する輸出等が良かったため、そのバランスでやってきたが、尖閣諸島の問題で不買運動などが生じており、中国に対する売上減が大きな要素である。また内的要因として、政治が迷走しており、政権がしっかりしないところに景気問題も随分あるため、そこがどんな展開をしていくかにもかかっている。
		経営コンサルタント	・政局の混乱、尖閣諸島などの国際関係の問題など不安要因が大きい。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・この秋に客先の廃業、事業縮小が続いている。今後も同様な動きが予想され、厳しい状態が続く。
		悪くなる	金属製品製造業（経営者）
金属製品製造業（経営者）	・中国との領土問題による日本製品への影響、円高など、製造業にとって良いと思えることがない。		
建設業（経営者）	・相変わらずの投げ売りで東日本大震災の復興による職人不足であるため、関東周辺では業界的に市場が不安定な状態になっている感がある。		
建設業（経営者）	・景気対策が実行されていないため、経済の空洞化が進む。		
その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・円高の長期化と欧州の信用不安のため、悪くなる。		
雇用関連 (南関東)	良くなる	—	—
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・ここ数年、新卒の採用数を手控えてきた企業が、年齢構成のいびつさを解消しようとする動きが見え、前年より採用数は増加すると思う。広報費は増えそうである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・徐々に求人数が増えてきているようである。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・参加企業はそれほど多くないが、合同企業説明会の開催通知が県内及び東京、また地方から、多く届くようになっている。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・製造業の中小企業のトップと話をしたが、中国生産を本格的に他へ移そうと考えている人が何人もいた。非常に不安を持っているようで、他の東南アジアの国々に動かしたいという所が多い。また、家電の不況によって注文が大幅減っているという所が多く、冬に向かって幾らか良くなると話していたが、あまり望みがないような所が多い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		人材派遣会社（営業担当）	・雇用形態において終身雇用制が復活するか、給与水準が上がらないと景気回復は難しい。		
		職業安定所（所長）	・雇用関係の指標は明らかに改善の方向に進んでおり、有効求人倍率も上昇カーブを描いている。また、飲食店などからの求人も増加している。しかし、国際的な情勢からは、景気が良くなるとは考えにくい。		
		職業安定所（職員）	・前年は東日本大震災の影響で離職者も多く、求職者も当然増えていたが、現在は、前年に比べるとやはり減少している。求人も確かに増えているが、円高や中国の問題、また新しい会社の新規進出等は少しも見られないため、変わらない。もしかしたら今後2、3か月の影響を考えると、今よりやや低下している可能性もある。		
		職業安定所（職員）	・中小零細の事業所は、経済動向の様子見しながら採用に慎重な事業所も多い。		
		職業安定所（職員）	・採用者数の動きに変化が見られない。		
		職業安定所（職員）	・求人増加割合が減少している。その中でも、やはり建設関係、介護や医療関係の求人は増えているが、製造業が伸びてこない。		
		民間職業紹介機関（経営者）	・中国の尖閣諸島領有権主張デモの影響で、現地日系企業の生産がストップしたり、日本製品の不買運動などで、日本企業の生産活動の先行きが見えない。また、中国に進出する企業もこの先の展開を見直すか、今の為替では工場が日本に戻って来るとは考えにくく、雇用の先行きは不透明である。		
		民間職業紹介機関（職員）	・求人数、採用数において、大きな変化が見られない。		
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・新規採用計画、追加募集など、当初の予定より採用状況を変化させている企業はさほど多くはなく、獲得求人数に関しては前年並みの予想である。		
		やや悪くなる		人材派遣会社（社員）	・10月の労働者派遣法の改正施行に伴い、派遣できる労働者が減少し、クライアントからの依頼に対応しきれない可能性がある。
				人材派遣会社（社員）	・中国経済の影響を懸念している。現地法人の休業が長引けば、国内への影響も出始める。得意先からも不安視する声が多い。
				人材派遣会社（支店長）	・労働者派遣法が改正されることで使い勝手が悪くなり、企業の派遣離れが更に進む。
				人材派遣会社（営業担当）	・基本的に変わりはないと思うが、労働者派遣法の改正が施行されることにより、工場や作業系がしばらく低迷する。
人材派遣会社（営業担当）	・企業の業務量減少に伴い、期間満了による終了が増えている。そのため派遣後任案件が減少しており、全体の派遣利用人数は減少傾向にある。				
人材派遣会社（支店長）	・10月の労働者派遣法の改正に伴い、企業側からみると派遣や直接雇用のパート、アルバイトの利用が抑制されるようである。また、円高や政治の不安定は十分に景気を抑制している。				
求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数は低調のままで横ばい状態だが、募集業種がこの春先に比べると減少しているようだ。資格が必要な業種の募集は堅調だが、営業やサービスなど、求職者のだれもが就業できる職種の件数が少なくなっている。				
求人情報誌製作会社（広報担当）	・アメリカ、中国の景気の減速、悪化の影響を受ける企業が多い。アメリカの干ばつの影響等で、日本でも食費等の値上がり等があり、景気悪化が進む感じがする。				
新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年末にかけては減少の一途をたどるのが例年であるため、10月にどれだけ多くの注文をもらえるかである。また、年末にかけて期間限定や正社員の募集を少ないながらもどれだけ取れるかということに掛かっているが、やはりどうしても今と比べると相当減少する。				
職業安定所（職員）	・管内企業からの希望退職募集の動きや、近隣の職業安定所からの離職者情報が多くなり、離職予定者数も今までより多くなってきている。求職者はこのところ落ち着いていたが、今後増加に転じることが懸念される。				
民間職業紹介機関（職員）	・求人市場は、景気動向指数、鉱工業生産指数との連動性もあり、そちらを見ている限りにおいては、下降トレンドにあり、このままの状況が続いていくかは微妙な状況になってきている。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	—	—

### 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連  (東海)	良くなる	—	—	
	やや良くなる	商店街（代表者）	・寒くなってくると売上は増えてくる。	
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・個人飲食店の開業が続いており、今後非常に期待が持てる。	
		百貨店（売場主任）	・取引先の話では、名古屋では高額商品を購入する客がまだ多いようである。今回入荷した20万円近い靴が、10足ほど売れている。5～6万の靴を買う予定でも、履き比べて10万円ほどの靴を買う客もいる。今後もこのような客が増えれば、売上も確保できる。	
		百貨店（販売促進担当）	・夏には買い控えがあったため、これから秋が深まるにつれて、購買意欲の増加が見込まれる。	
		スーパー（経営者）	・12月になれば、近隣の有名神社へのお礼参りが期待される。	
		スーパー（店員）	・客の様子から単価が微妙ながら上がっていると感じられ、少しばかり景気が上向くと期待できる。	
		スーパー（総務担当）	・残暑が厳しく、ビール、飲料水の売行きが好調である。	
		家電量販店（店員）	・前年の傾向から見ると、底を打ったようにも思われる。今後も住宅関連の商品が伸びて、前年を上回る。	
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金の終了に伴う反動が終わり、少しずつ新型車も出てきて、回復に向かう。	
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・遅れていた季節の変化がここにきて急に始まり、それに伴い商品の需要も変わってくる。	
		その他小売〔ショッピングセンター〕（営業担当）	・前年の自粛ムードが解けきり、年末に向けて、派手な買い回りが多少は期待できる。	
		スナック（経営者）	・暑さがやわらぎ、多少の予約が入っている。今月と比べると良くなる。	
		タクシー運転手	・11、12月には寒くなり、忘年会等で人が集まる機会も増える。	
		タクシー運転手	・景気は悪くても年末であり、夜の街には多少の人出がある。	
		通信会社（サービス担当）	・新築ビルからの注文や転居に伴う光回線への変更の注文が増えれば、景気も良くなっていく。	
		通信会社（営業担当）	・今年度中は現在の増加傾向が続き、良くなる。	
		美容室（経営者）	・今夏は暑過ぎて客足は悪かったが、1、2か月先は紅葉の季節になるため、少々良くなる。	
		美容室（経営者）	・年末はイベントが多くなるため、おしゃれをして出掛ける機会も多くなり、少しは良くなる。	
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・年末に向けて、レンタル受注は上向く。	
		変わらない	商店街（代表者）	・良くなりそうな要因は、全く見つからない。
			商店街（代表者）	・今のような閉そく感がある時期には、変わる兆しは見えない。秋口の商店街は祭りなどでにぎわうが、消費には結び付いていない。
			商店街（代表者）	・乗客数の減少が一番の理由であるが、客が必要な物以外は買っていないことも大きい。
			商店街（代表者）	・当店や原材料販売業者の販売量等を見ると、若干良くなる兆しは見られるが、依然として低調である。
			商店街（代表者）	・物が売れる状況には、全くなっていない。地方都市の小さな商店街は、壊滅状態である。
			一般小売店〔生花〕（経営者）	・中国の問題もあり、しばらくは良くならない。
			一般小売店〔薬局〕（経営者）	・他の薬局で事務員を1名求人したら、31名の応募があったとのことである。世の中の景気の悪さを見せつけられている。一部の裕福な人を除いて、皆金がない。当地方では、廃業、倒産もまだ多い。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・地ビールの売上は年々増えており、長期的にはこの流れが続くが、数か月先のことは分かりにくい。	
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・外交問題も重なり、明るい雰囲気陰ってくると、客の購買意欲も上がってこない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔書店〕 (経営者)	・前月はそこそこ良いと思っても今は元に戻ってしまっているが、悪いなりに変わらない状態が続いている。政治の世界では総選挙が遠のいたようであるが、政治が変わらない限りこの閉そく感は変わらない。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・特に好転する環境にない。政治不安が大きな要素として影響している。
		一般小売店〔惣菜〕 (店長)	・大きな物産展や催事でも、前年と比べると良くなっておらず、下降傾向にある。
		一般小売店〔果物〕 (店員)	・3か月ほどでは変わらない。
		百貨店(売場主任)	・暑さのせい、大型催事を仕掛けて一時的に盛り上がっても、長続きはしない。相変わらず、財布のひもは固い様子である。
		百貨店(経理担当)	・電気料金の値上げ等による将来不安から、消費マインドは良い方向に向かっていていない。暖冬などの影響により、更に悪化する恐れもある。
		百貨店(販売担当)	・今後、大きな購買につながるきっかけはある。冬の防寒物、クリスマスセール、お歳暮、正月、卒入学と入社の新生活、引越し等であるが、先行き不安を映し出すように、これらを省略、簡略化したり見送り、延期したりする動きになる可能性もある。何かのきっかけが欲しい。
		百貨店(販売担当)	・高額品、特価品には動きがあるが、客層が変わっていないので、変化はない。
		百貨店(販売担当)	・残暑が長く、秋物の動きは悪い。
		百貨店(経営企画担当)	・景気が良くなるような新商品や話題商品は特になく、衣料品を始めとする商品の価格も下落傾向が続いている。その一方で、高額品の需要が続くのではないかとというプラスの要素を見込むと、今後も現状維持が続く。
		百貨店(営業企画担当)	・大きな好転要素、悪化要素共に見当たらない。
		スーパー(経営者)	・年末にかけて売上を期待したいが、今後も現状の一番悪い水準で変わらない。
		スーパー(店長)	・低価格や各種企画による集客だけでは、前年同月を上回することは難しい。スーパーの出店は明らかに過剰であり、コストを構造的に改革したり、商品の仕入れを差別化したりできない限り、現状からの脱却はできなくなっている。
		スーパー(店長)	・消費税増税によって、消費者の関心は大型耐久消費財に向かつており、毎日消費される食品への関心は薄い。
		スーパー(店員)	・この数か月間は変わっていない状況であり、今後の見通しも良くならない。
		スーパー(営業担当)	・アジアの近隣諸国の状況は予断を許さず、不安定な状況である。また、近隣の大手自動車メーカーが低迷しており、経営難に陥っている大手家電メーカー関連の中小企業でも状況が悪化していることから、景気は悪くなる可能性がある。
		スーパー(営業企画)	・中国、韓国との外交関係の先行きが不透明であり、良い動きは相殺されて、全体として大きな変化はない。
		スーパー(販売担当)	・客が来ないことには、売上は増えない。この先も減るのかわいか全く予想がつかず、先行きは読めない。
		スーパー(支店長)	・良くなる要素は全く見当たらない。
		コンビニ(エリア担当)	・コンビニの主要商品の伸びが良くない。低単価商品の動きは良いが、高単価商品の動きが鈍い。ただし、高単価で美味しい商品のリピート購入率は上向き傾向にある。
		コンビニ(エリア担当)	・現在の景気状態は急激には変化せず、当面は継続する。
		コンビニ(店長)	・景気の低迷は長く続いており、余程のことがない限り、消費行動に変化はない。財布のひもは固い。
		衣料品専門店(経営者)	・年末の駆け込み需要はほとんどなくなっており、12月だからといって売れるわけではない。
		衣料品専門店(経理担当)	・前年同月比で売上は2%増えており、来客数は9%増えている。売上の増加は、主に大型家電量販店のセールによるものである。この店の売上は、前年同月比7.9%増である。
		家電量販店(店員)	・来月はパソコンの新OSが発売されるが、問い合わせはあまりなく、盛り上がりには欠けそうである。
		乗用車販売店(経営者)	・消費税増税もあり 良くなる兆しは見えない。
		乗用車販売店(経営者)	・景気が良くなる要素は見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・今の悪い状態は、当分変わらない。エコカー補助金が終わり、景気が良くなる要素は全く見えない。
		乗用車販売店（従業員）	・現状以上に良くなるという予想は立てにくい。現状並みが続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・エコカー補助金は終了したが、新型車の投入は今後も続くため、変わらない。
		一般レストラン（従業員）	・これ以上悪くなることはない。景気は低い水準での安定が続く。
		スナック（経営者）	・年末は忘年会等があり、人通りは多くなると思うが、先行きが不安な状態のなかで個人が使えるお金は少なく、忘年会でも団体客は見込めない。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・例年ならば年末にかけて消費意欲は高まってくるが、一過性で継続性がないことが懸念される。
		観光型ホテル（販売担当）	・今回の日中、日韓問題は少々長引くと思われるため、影響はまだまだ続く。当ホテルでは今のところ、一般宴会には影響は出ていないが、この先はわからない。忘新年会等の予約がキャンセルになるのではないかと不安で一杯である。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断すると、変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・領土問題が落ち着くまでは、安定しない。
		タクシー運転手	・2、3年前から、繁華街の飲食店に来る客が少なくなっている。今までは終電前に駅まで利用する客がそれなりにあったが、最近はもっと早めに切り上げて、駅まで乗っていく人も少ない。街中には人出が全然ない。
		通信会社（企画担当）	・中国向け出荷量の減少、消費税増税、政治情勢などがあり、景気回復はまだまだ難しい。
		テーマパーク（職員）	・平日も含めて、一般客や団体客からの予約件数、問い合わせ件数は少なめである。ただし、スマートフォンの浸透により、ホームページへのアクセス数は増えている。
		ゴルフ場（企画担当）	・現時点では、2、3か月先の予約数は、前年同月よりも少し足りない。ただし、ゴルフシーズンでもあるため、そこそこの来場者は確保できる。ここ数か月間の客の動きから、景気が大きく変動するとは思えないが、天候等によっては来場者数は大きく左右される。
		その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・取扱業務の内容を語学以外のコースにも広げつつあり、広告宣伝の対象もそちらにシフトしている。
		住宅販売会社（従業員）	・しばらく横ばい状態が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税を契機に動き始めた人が、増税の実施前には来店するはずである。しかし、中国との問題が長期化する可能性もある。製造業も含めて、景気は一時的に悪化することも予想される。そのため、買い控えが起きる。全体としては、プラス・マイナスゼロで終わる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税への反応はまだなく、住宅投資への意欲はおう盛になっていない。
	やや悪くなる	一般小売店〔食品〕（経営者）	・景気はじりじりと落ち込んできている。それに対する解決策は何もなく、客は節約生活を選ばざるを得ない。景気は更に減速していく。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・給与、所得が増えず、交際費が使えないことで、贈答品店の売上のうち返礼の売上が落ち込んでいる状態は今後も続く。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・中国、韓国、欧州と問題が山積しているが、これらが良い方向に解決するとは思えない。景気は今よりも悪くなる。
		百貨店（企画担当）	・今月を含めた数か月間は継続して、来客数は前年同月を上回っている。しかし、売上はなかなか前年同月を越えられない。消費者の購買意欲の低下や購買単価の低下が見られる。この傾向は、今後も続く。さらに、近隣諸国との領土問題が経済に影響してくることも懸念される。
		百貨店（販売担当）	・領土問題は簡単には片付きそうにないため、観光客の減少だけでなく、製造業への影響も顕著になりそうである。製造業が多い当地域には、直接的な影響が出そうである。
		百貨店（営業企画・販売促進）	・政治情勢がますます不安定になりそうな気配のなか、景気が上向くとは考えにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・年末も、国内の消費は良くならない。輸出も伸びず、景気はまだ悪くなる。収入が増えないため、お金をあまり使わずにビデオでも借りて家で過ごす人が増える。消費に使うお金がない家庭がどんどん増えているため、景気は悪くなる。
		スーパー（店長）	・商品値上げが発生してきており、米の値上げも進んでいる。基幹商品の値上がりは、客にとって先行き不安につながる。また、中国問題によって、当地方の基幹産業である自動車産業に大きな影響が出てくることも、先行き不安につながる。今後の景気は悪くなる。
		スーパー（店長）	・11月には他地域のスーパーが当地域に初出店し、自社の新店も出店することから、影響を受けるのは必至である。
		コンビニ（店長）	・良くなる理由は見出せない。大手との価格差が拡大している。食品業界では、デフレがますます進む。
		コンビニ（エリア担当）	・良くなる要素は見当たらない。来客数、客単価共に悪化傾向にあり、今後もこのまま続く。これだけ厳しくても、競争店が出てくる。商圏はますます小さくなり、売上は厳しくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・過当競争は、更に激しさを増す。
		コンビニ（店長）	・残暑が終わり秋風が吹き始めると、飲料水、アイスクリーム関係が徐々に売上を落としていく。それらに代わって、中華まん等の温かい商品がよく売れていくとは思えない。
		コンビニ（商品開発担当）	・競争店の出店などにより、来客数の減少に歯止めが掛かっていない。この状況は続くため、やや悪くなる。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・尖閣問題で輸入量が減り国産品が動いても良さそうであるが、実際には中国製の安い商品が相変わらず輸入されている。天候も暑い日が続いているため、商品は動かない。
		家電量販店（店員）	・選挙の関係もあって、中国問題に解決の糸口は見つからない。
		乗用車販売店（営業担当）	・これまで車の定期点検をしてきた客が、お金がないという理由で、点検をなしで済ますというケースが増えてきている。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金の終了により、前回のよう2、3か月間は、販売台数は大幅に減少する。ただし、駆け込み需要が少なかったため、前回よりは影響は小さいと見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	・例年ならば、秋から年末にかけては需要期に入る。しかし、需要の先食いにより、客の動きは鈍い。受注が先行して登録を待ただけの車種は限られてきており、即納車にどれだけ関心を持ってもらえるかが今後のカギになる。
		乗用車販売店（従業員）	・前回と同様に、エコカー補助金の終了に伴う反動減が出る。かなり無理をして前倒しで販売したところもあって、商談は減っている。実際に、補助金対象車の販売は減ってきている。新型車は、値引きが少ないことが影響して、予定以上に売れるわけではない。年末まではじり貧の状態が続く。
		乗用車販売店（経理担当）	・販売の伸びは、鈍化してきている。前回のエコカー補助金終了後の反動減ほどではないにしても、今後は厳しくなる。
		乗用車販売店（総務担当）	・エコカー補助金の終了に伴う影響が、少し出るのではないかと。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・内政、外交共にうまくいっておらず、政権が変わって安定しない限り景気は良くならない。
		高級レストラン（スタッフ）	・来客数が安定的に増加していく兆しは見られない。客単価の上昇が限界になれば、直ちに減収となる。
		観光型ホテル（経営者）	・現在は中国、韓国との問題によるキャンセルは出ていないが、製造業に影響が出始めると、来年の予約に影響する可能性がある。2、3か月前での予約が多いため、この状況が続けば景気を冷やす要因にもなる。一般的には良い傾向にあるが、領土問題はそれを打ち消すため、尾を引かないことを願う。
		都市型ホテル（経営者）	・業界での様々な施策によって客単価は回復しつつあったが、来客数が伸び悩み、減少傾向にある。
		都市型ホテル（支配人）	・中国との問題がどうなるか次第で、海外からの旅行客数は大幅に減少する。
		都市型ホテル（経理担当）	・中国、韓国からの旅行客数が減少する。
		旅行代理店（経営者）	・韓国、中国、台湾等の近場の海外旅行を申し込む客は、相当減少する。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・10月から年末年始にかけての動きが、非常に悪い。問い合わせはあるものの、確実な手応えはない。景気に先行き不安があるようである。
		旅行代理店（経営者）	・竹島、尖閣問題は長期化しそうなので、今後も影響は出る。また、全体的な景気も悪化している。
		旅行代理店（経営者）	・中国経済の停滞を他の新興国で補いつつ、TPP参加や規制緩和が行われない限り、当地域の産業空洞化は進み、復活できなくなる危険性が高まる。地方行政や国政の責任者はそのことを自覚し、危機感を持たなければならない。決断すべきことを国民の責任に転嫁するのではなく、勇気ある決断が必要なのか、広く理解が得られるような議論を展開する必要があるが、不足している。
		旅行代理店（従業員）	・日中、日韓関係の問題によって、中国、韓国への旅行客数は間違いなく減ってくる。これまで海外旅行はある程度順調であったのが、陰りが見えてくる。
		旅行代理店（従業員）	・中国、韓国への旅行は、減少が続く。国内では、国体関連の宿泊や交通手段の申込が、人数、取扱金額の両面で期待外れに終わりそうである。国内旅行、海外旅行共に、政治情勢の良し悪しによって需要に敏感に反応が出るため、今後はやや悪くなる。
		通信会社（営業担当）	・野党の新総裁は今後の日本の景気を左右すると思われるが、過去の判断力や決断力を見ると、とても大きな期待は持てない。
		テーマパーク（経営企画担当）	・経済は不安定であり、領土問題等によって訪日外国人旅行客数も減少する。
		パチンコ店（経営者）	・値下げ競争は、依然として続いている。
		理美容室（経営者）	・客との会話では、給料が増えずあまりお金を使えない様子であり、景気はどんどん悪くなっていく。
		美顔美容室（経営者）	・今回ホームケアセットを購入した人は、年末ごろまで購入しないため、売上は減る。
		美容室（経営者）	・客からは、あまり良い話は聞かれない。
		設計事務所（経営者）	・案件数が少ない上に、設計料の減額も要求されている。
		設計事務所（職員）	・総建築費は下がっているのに、材料費は下がっていない。なかなか着工までいかない客が多い。
		住宅販売会社（業務担当）	・外交問題が大きな影響を与える。
		悪くなる	
一般小売店〔時計〕（経営者）	・中国との摩擦により、経済は冷え込む恐れがある。		
スーパー（商品開発担当）	・現状は、自動車産業が好調で残暑等の追い風があるなかでも、前年同月を大きく下回ってきており、厳しさは更に増しってきている。総合スーパーよりも食品スーパーのほうが一層悪く、日用品の節約傾向は強くなってきている。		
コンビニ（企画担当）	・韓国や中国からの旅行客が大幅に減少し、年末年始は一時的に大きく落ち込むのではないかと。また、国内から韓国、中国への旅行が控えられても、国内消費には回らず、目的地が東南アジアやハワイに変わるだけではないかと。		
乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金が終了し、新型車の投入は年末になるため、ここ2、3か月間は販売台数は落ち込む。		
その他専門店〔貴金属〕（店長）	・相変わらず販売量に勢いがなく、先行きへの期待は感じられない。消費はますます低迷するのではないかと。		
一般レストラン（経営者）	・国際情勢にも何とも言えない不安があり、それが出費を妨げることになる。		
都市型ホテル（営業担当）	・良くなる要素は見当たらない。		
理容室（経営者）	・これからは景気は良くならない。		
住宅販売会社（経営者）	・経済の先行きが分からないため、消費者は買い控えている様子である。		
企業動向関連 (東海)	良くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・新設住宅着工件数が増加している。
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・11月～12月までは季節的な要因により、需要が増加することが見込まれるため。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年末の繁忙に備える企画が、今後ピークとなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		窯業・土石製品製造業（社員）	・リチウムイオン電池製造用の消耗品を順調に製造できるようになれば、売上の上乗せが見込める。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・年後半にかけて、現在の受注状況よりも上振れする可能性が高い。ただし不確実性が増しており、非常に読みづらい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・パーラー関係の取引先が11、12月に設備投資の予定があるため、今後は良くなる。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・生産計画では、もう少し後に生産率が上がるようになっていく。
		建設業（経営者）	・懸念材料はあるが、消費者マインドは確実に上向きである。また、土地の仕入れ価格も上昇気味である。消費税増税の影響かもしれない。
		不動産業（開発担当）	・消費税増税や税制、施策等に伴う駆け込み需要等はあるものの、以前ほど大きくはないと思われる。
		経営コンサルタント	・愛知県を中心に、アパートへの入居状況は改善傾向にある。製造業を中心に、生産回復の見通しが立ってきている。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・米国では10月から新しい会計年度が始まり、様々な計画が動き始めるため、引き合い件数は増える。しかし、今の水準の円高が続けば、価格競争に勝てないか、利益がほとんど出ない状況で受注するか、どちらかという状況になってしまう。
		電気機械器具製造業	・設備投資意欲には改善の兆しが見られるものの、非常に鈍い。その一方で、小さな市場を奪い合う、出口の見えない競争がいつまでも続くような雰囲気がある。
		建設業（営業担当）	・3か月先はまだ分からない。当地域では国体が開催され、人は動く。しかし、節約できる部分は削りたいという雰囲気がある。もう少し個人の給料が増えていかない限り、景気は良くならない。
		輸送業（エリア担当）	・派遣法が改正され、人件費がかさむようになり、利益は更に圧迫されてくる。
		通信会社（法人営業担当）	・円高、株安、欧州経済の落ち込み、中国、韓国との政情の悪化、生活保護世帯の増加、政治不信、先が見えない、希望が見えないことなどがある。
		金融業（企画担当）	・個人のみならず、法人の投資意欲も高くない。これらが高まらない限り、景気は良くなってこない。
		不動産業（経営者）	・今後も現状維持が続く。
やや悪くなる	不動産業（管理担当）	・ここ2、3か月間は変わらないが、中国との関係で経費削減が続くと、事務所等の経費圧縮といった影響が出てくる。	
	広告代理店（制作担当）	・景気が良くなる要素はほとんどないため、当分の間は現在と同じ状況が続く。	
	新聞販売店〔広告〕（店主）	・消費税増税が現実になってくると、新聞購読者の心理状態がどうなるか心配される。	
	行政書士	・今後も現状維持が続く。	
	その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・回復が遅い。発注は少なく、問い合わせも少ない。	
	食料品製造業（経営企画担当）	・中国における反日の動向が懸念される。現地法人を持つ企業はもちろんであるが、世間一般にも先行き不安はまん延しており、消費意欲が減退することも考えられる。一刻も早く平静な状態に戻ることを期待する。	
	印刷業（営業担当）	・現状を見る限り、景気は良くならない。消費税増税もあり、先行きはあまり見えてこない。	
	化学工業（企画担当）	・尖閣問題から派生して、中国経済への懸念がある。為替動向では、対ユーロは落ち着きつつあるものの、対ドルでは円高傾向にある。また、株価も低下傾向にあることから、景気はやや悪くなる。	
	鉄鋼業（経営者）	・国内需要が増加していないことに加えて、中国や韓国への輸出も、国際情勢の悪化により減少が予想される。そのなかで、中国向け自動車の減産に関するニュースがあり、当地域のマインドは一気に冷え込んでいる。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	・日中関係の悪化によって、中国工場からの出荷に影響が出ないか不安である。	
	電気機械器具製造業（営業担当）	・現状が好転する要素は見当たらない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・当社で生産しているモーター等は、最終的には製品に組み込まれて、主に海外に輸出している。中国、韓国との領土問題や中国の景気の悪さを勘案すると、今後は円高の影響も受けて、生産は減少するのではないかと。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・海外に生産拠点を持っている大手企業の景気が良くならない限り、中小企業には回ってこない。色々な問題を解決する力のある政治家が日本にいない状態で、国民の生活が良くなるとは思えない。力強い政府が生まれることを願ってやまない。
		輸送業（経営者）	・製造業の取引先を中心に、発注量が減少する予測が出てきている。
		輸送業（エリア担当）	・北陸方面から名古屋港までトラックで輸送し、中国へ輸出していた製品が、少しずつ減ってきている。国内工場へ納めるプラント機械などの輸送も、前年と比べると半減している。また、中国との領土問題による影響で、特にコンテナの輸出入が減少しないか、非常に心配である。
		輸送業（エリア担当）	・中国との領土問題が通関に影響し、取扱量は減少すると予想される。
		輸送業（エリア担当）	・9月は多くの企業で上半期の決算月であるが、前年同月と比べて荷物量は減少している。この状況を見る限り、景気の先行きはやや悪くなっていく。半期の決算月に荷物量が動かないということは、今後の景気の支えがないことを示している。
		金融業（従業員）	・今月まではさほど影響は出ていないものの、中国進出などを考慮すると、先行きは良くない方向に向かう。
		金融業（法人営業担当）	・地元自動車メーカーの10月以降の生産計画では、約2割の減産が予定されている。エコカー補助金の終了に伴う国内販売の反動減に加えて、中国での反日デモの影響による自動車輸出の減少が要因である。これに伴い、自動車部品の生産も減少する。
		会計事務所（職員）	・消費税増税に関連して、一部の業界には期待できる面もあるものの、消費税を転嫁できない中小企業が多いため、経費の節約傾向は一層強くなる。
		会計事務所（社会保険労務士）	・ガソリン価格が再び上昇するなど、経費は増加する傾向にあるが、売上が増える要因は見当たらない。時間外労働の削減を監督署から指導された顧問先は、受注を断ることによって時間外労働を削減している。賃金が減る従業員は、消費を控える。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・取引先から、下期の要員が余剰になりつつあるとの報告を受けている。規模が小さい企業から、仕事は減っていく。
悪くなる		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・中国との関係は悪化するばかりで、改善には向かわない。そのため、自動車販売も減少し、段ボール製品の販売も低調になる。
		化学工業（人事担当）	・現在、中国企業と薬品のライセンス契約について交渉中であるが、日中関係の悪化による影響が懸念される。
		金属製品製造業（経営者）	・取引先から、発注量は大きく減少するとの見込みを伝えられている。大きな在庫調整の局面に入っている。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・尖閣問題によって中国では日本製品への買い控えが発生し、日本車も売れなくなる。それに伴い、部品も売れなくなる。
		輸送業（従業員）	・最大の貿易相手国との関係悪化、家電の販売不振、自動車の停滞、円高、石油製品の価格の高止まりなど、暗い材料ばかりであり、明るい材料は全くない。また、来年度から定年年齢が65歳に上げられることから、新卒の未就業者の増加が懸念される。
		企業広告制作業（経営者）	・総選挙を控えて、政治は混迷する。領土問題、貿易問題、原発問題ばかりか、東日本大震災からの復興も進まない状況では、消費を促すような明るい気分は生まれない。
		公認会計士	・新政権の継続性に疑問がある。金融円滑化法の期限切れに向けた各金融機関の動きが定まっていない。
		雇用関連（東海）	良くなる やや良くなる
変わらない		人材派遣会社（経営企画）	・取引先の研究開発需要はおう盛であるが、採用条件が厳しいため、対応できる人材の確保が難しい。また、人材流出しやすい環境になっているため、人材不足になりやすい。
		人材派遣会社（経営者）	・企業は、ピンポイントの人材や即戦力を欲しがっている。そのような人材は募集してもなかなか採用できず、結局すべての案件で人材不足の状態が続いている。
		人材派遣会社（社員）	・企業から、人材紹介の求人が増えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（営業担当）	・景気回復につながるような、明るい材料は見当たらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・景気にとって良くないニュースが流れる一方で、下期の需要は例年並みに増加すると予測されるため、全体的には横ばいである。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・今後は、尖閣問題が中国や国内の自動車生産にどのように影響するかによって、大きく左右される。先行きは不透明である。
		職業安定所（所長）	・エコカー補助金の終了や海外における諸事情により、自動車部品等を生産する事業所からは、新規求人は減少する。ただし、介護等のサービス産業からの新規求人は、現在でも増加している。今後の新規求人は、現状維持かやや減少で推移する。
		職業安定所（職員）	・製造業では、円高による影響が続いている。中国との関係悪化による影響もあるため、当分は今の状態が続く。
		民間職業紹介機関（支社長）	・新規求人などの先行指標の動きを見ていても、景気が良くなる要素は見られない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・長期採用の展望が見えず、契約社員や派遣社員といった採用形態を検討せざるを得なくなっている。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・婚礼の予約状況は例年並みであるが、法人関係の予約状況があまり良くない。
		人材派遣会社（営業担当）	・日中関係の悪化に伴う影響によって、需要は一時的に弱まる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・中国問題と円高によって、今後はやや悪くなる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・円高の長期化、新興国経済の減速、消費増税などの影響によって、先行きは不透明である。
		職業安定所（職員）	・雇用保険受給資格の決定件数が、前年同月比で増加に転じている。
		職業安定所（職員）	・エコカー補助金の終了に伴う影響が始まる。また、中国経済の景況が減速していることから、その影響も出てくる。
		職業安定所（職員）	・円高の継続、エコカー補助金の終了、中国との関係悪化といった懸念材料が多く、先行きはますます不透明になっている。小零細企業では、対応不可能になる状況が迫っている。
	職業安定所（次長）	・液晶ディスプレイ用の部品を製造する企業が、生産拠点の海外移転に伴い、年末ごろに数百人規模の雇用調整を行うとの情報がある。製造業における雇用の先行きに、不安がある。	
悪くなる	—	—	

## 6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・冬支度や、冬本番へと季節の変わり目に入るため、婦人の高級カシミアニットやコートが動きが見られる。
		コンビニ（店舗管理）	・政局の大きな動きは近未来に対しての期待感が増し、一時的なものではあろうが閉塞感は薄らぐ。
		衣料品専門店（総括）	・年末に向けて必要なものが増えてくる。必然的に消費は増えると考えられる。ただし、消費は増えても今月よりは良くなるだけで、根本的な解決にはならない。
		通信会社（社員）	・新型の携帯電話によってスマートフォン需要が喚起されると思われる。
		通信会社（営業担当）	・新商品が年末に控えており、年末商戦も絡んでくる。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税の影響がある。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場来場者の変化が目立ち始めてきた。消費税アップ前の駆け込み需要が増えるものと期待される。
	住宅販売会社（従業員）	・消費税アップ前に建築したいという客が確実に増えている。慎重な客は多く時間がかかるが契約数アップは確実に見込める。いかに早く契約するかで、契約量アップの割合が変わると思われる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・暖冬の予想が出ており、コート類が苦戦しそうだ。
商店街（代表者）		・これといった流行もなく、一部の携帯端末以外に目新しい商品も見当たらない。購買意欲をそそるような商品がない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔精肉〕 (店長)	・客数は落ちているが、客単価は少しずつ上がっているようにも思う。どうなるかは、いろいろな要素もあるためまだ分からない。
		一般小売店〔事務用品〕 (役員)	・元々経済状況は良くない時期だと思う。中国や韓国との領土の問題など、いろいろな意味で大きな会社に影響が出てくると思うのが3か月後である。見込みの件数が少ない今年度だが、そうした要因で受注の時期がずれたりするような気もするので、心配な時期ではある。年末なので、比較的物が動く時期なので、なおさらそういう心配をしている。
		百貨店 (売場主任)	・消費マインドが極端に上がることは想定しづらいが、ターゲット顧客の来店促進が安定した動きを見せている。
		百貨店 (営業担当)	・生活にとって使用頻度が高いのか低いのか、価格に対して機能などの付加価値が低いのか高いのか、こういうところに消費判断自体がきているような気がする。そういった意味では、これからの季節、コートなども含めて冬物のファッションなどはちょっと先行きは暗い。どこかで買物ストレスを発散するというのでは、高額な絵画・美術、宝飾が不思議なことに売れている。
		百貨店 (営業担当)	・消費税の増税、電気料金の高騰などを踏まえると、客の購買意欲はかなり抑えられてしまう。今以上に節約に入ってしまうと思われる。
		百貨店 (売場担当)	・気温の変化と共に、秋物、冬物の衣料品の動きが良くなると思うが、客単価が下がる傾向は続いている。ウォーム関係商品も横ばいと思われる。景気が良くなる見通しはない。
		スーパー (店長)	・今は同業他社の閉店があるが、今後その場所にまた違う企業が入るという事もあるため、そこでプラスマイナスはゼロということ考えている。
		スーパー (店長)	・客単価情報からも言えるが、気温の温暖化が続く限り、その時期の商品が売れるべき時に売れないという、タイミングの悪い傾向が続く。この状況に変化がなければ、現状は変わらない。
		スーパー (総務担当)	・全体としては緩やかな回復基調と思われるが、中国、韓国との領土問題も含んだ政治の安定が無い状況は不安をさそう。
		コンビニ (経営者)	・現在の状況が劇的に変わるという要素は、良くも悪くも見出されていない。ちょうど契約更新の時期を迎えている2号店のクローズも視野に入れている。
		コンビニ (店長)	・近隣で行っていた工事が前年までに完了し、その後新たな工事が無いため、前年同月比だけで見ると、工事関係者の需要が少なくなった分、確実に下がって行くものと思われる。ただ、10月においては、前月に工事が終了するといった要因はないため、これ以上悪くなるということは考えにくい。また、周囲の企業の動きが非常に良くなる、一見客や営業マンあるいは工事関係者の利用が前月から減少しており、増える要因が見当たらないため、変わらないと判断した。
		衣料品専門店 (経営者)	・現状から急に売上が良くなるという事は想定し難く、今のようない進一退が続いていくものと思われる。
		衣料品専門店 (経営者)	・先々明るくなるとは思えない。ただ積極性で打開していくしかない。土木や建築、設計関係の友人達によると、企業の一部、あるいは単独で、東北に出稼ぎに出ている人が増えているそうである。これから3年は出稼ぎブームになるという説がある。
		家電量販店 (店長)	・これといった起爆剤が見当たらない。
		家電量販店 (店長)	・必要な商品しか客は購入意欲がない。スマートフォンなど販売数を大きく上げている商品群はあるが、カバーしきれない。
		家電量販店 (管理本部)	・新しい商品やサービスの展開が当分見込めない。
		乗用車販売店 (経営者)	・補助金や減税に加えて、メーカーと販売会社が連携した販売施策などで販売を押し上げた分、反動減をいかに抑えるかがこれからの課題である。
		乗用車販売店 (経営者)	・エコカー補助金での駆け込み需要が予測より多くなかったことから、反動減はあまり無いと思う。11月からの新型車発売なども控えており、あまり変わらない状況が続くと予測される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（役員）	・尖閣諸島の問題で中国との関係がギクシャクしており、政治の方も停滞したままなので景気の浮揚には甚だマイナスである。
		自動車備品販売店（従業員）	・冬季商品の期待はあるが、新車需要に伴う用品販売では各ディーラーが契約時に力を入れており例年を下回る予測をしている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・今後2～3か月で、客の購買意欲が変わるとは言えないため、このまま変わらないと思われる。
		その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	・客の買物動向は必要な物だけを買う傾向があり、店内の滞在時間が短くなっている。低価格志向が続いており、化粧品など高額商品の動きは低調である。
		高級レストラン（スタッフ）	・好材料はないが、昼も夜も徐々に単価が上がっているため売上は安定している。最近台風などの災害の少ない地域ということが、旅先の指定につながるようである。
		一般レストラン（店長）	・予約の入りが悪い。
		一般レストラン（スタッフ）	・日中関係の悪化で、安いより安全な国産食材などを購入するとも聞くが、一部の企業を除けば一般消費者にとってはほとんど影響がない。台湾や中国、韓国からの旅行客は減少するが、修学旅行や家族旅行などが国内に変更になることで、秋の行楽シーズンもさほど影響はないと思う。
		スナック（経営者）	・国際的な様子により変化があり、明るい将来が見えない現状においては、皆引き締めており、先々もこの状態が続くのではないだろうか。
		観光型旅館（経営者）	・東北支援や東京スカイツリーなどの影響か、秋の旅行シーズンに向けても集客に苦戦している。
		観光型旅館（スタッフ）	・9、10月は、85%の予約保有となっている。東北支援、東京スカイツリー、九州新幹線の影響が出ていると考えられる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は、全体的に低調に推移しており苦戦を予想する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・景気の変動に関する積極的な理由が無く、2～3か月先の宿泊やレストランの予約状況についても、例年の範囲内に留まっている。
		タクシー運転手	・秋の行楽シーズンでもマイカーやレンタカーなどで、タクシー利用はあまり期待できない。また衆議院が解散し、総選挙が実施されれば、夜の街も暇になってくるのではないかと。
		通信会社（営業担当）	・スマートフォン需要は確実に増加の一途をたどっているが、新商品が発売され顧客の反応をみても変化を感じられない。
		テーマパーク（職員）	・予約状況をみると、依然として団体客を中心に予約の動きが鈍くなっており、現在の状況が続くものと思われる。
		競輪場（職員）	・ここ数か月の売上平均、客数平均共に約1%の増減しかないため、今後も同様の動きになるとと思われる。
		美容室（経営者）	・客の消費マインドが上向きになる兆候が感じられない。
		住宅販売会社（従業員）	・企業の収益が、個人の所得に結びついてはおらず、購買意欲が持続するとは考えにくい。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要が期待できないため、変わらないと思う。
	やや悪くなる	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・政局の混迷が今の市場の動きをものごとく、良くなる要素はない。
		スーパー（総務担当）	・食品部門において、各社とも価格競争（EDLP＝Everyday Low Price）を始めているため、今後、一層客単価が低下しそうである。さらなるデフレスパイラル現象が発生する恐れがある。
		コンビニ（経営者）	・今、売上の中でも前年同月実績をクリアしているのが、弁当類やデザート類といった特に力を入れている部分だけである。それ以外の商品に関してはずっと下回っている状態が続いており、この部分が上がってくることは、今のところは考えられない。また、たばこの売上もここ1年は前年同月実績を下回っている状態が続いている。
		住関連専門店（店長）	・まだ落ちていきそうである。消費税増税が近づいてきたら変わってくると思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・今までコンスタントに、どんな時でも売れていた商品が、回転が悪くなったとか、売れなくなったとか、そういうことがあるため、この先大変不安である。いつ何時、商売をやめなければならないかというような、酷い目にあう可能性もさらに高まってきたように思える。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・前年の秋に実施した追加投資や施設店舗改装効果が、一巡することが非常に大きい要因として予測される。
		タクシー運転手	・必要以上のものにはお金を使わなくなったようで、また消費態度が戻ったような気がする。
		通信会社(職員)	・より価格競争が激しくなることが予想され、業績悪化につながることに心配される。
		通信会社(役員)	・大手通信業者が提供する高速インターネットサービスの料金値下げ報道があり、今後の当社の新規獲得件数に確実に影響が出ると見ている。
		その他レジャー施設(職員)	・今後、総会員数としてプラスになる入会を見込む事はなかなか難しい。
	悪くなる	旅行代理店(従業員)	・相変わらず個人客の動きが弱く、その上、中国旅行の団体の取消や延期などが業績を直撃している。個人客の動きだけでは、この穴埋めはできない。
企業 動向 関連  (北陸)	良くなる やや良くなる	—	—
		通信業(営業担当)	・消費税増税による駆け込み需要的な意識が出ているように思えるが、対中国の経済動向も不安定なため、今設備投資をすべきかを危ぶむことで、契約に至らないと感じている。
		金融業(融資担当)	・消費税率引上げを逆にとり、大型耐久消費財の販売で、現在、業者が仕掛けているところに、ようやく消費者側が反応し始めるということが予想される。こうしたことから、将来の消費税率引上げ後の、消費を先取りする格好の底上げが期待されるものと思う。
	変わらない	不動産業(経営者)	・法人の客に聞いたり、同業者にも聞いたりしたのだが、この後2～3か月先には、いろいろと問い合わせが来たり、動きが出るというような話であったため、やや良くなる。
		食料品製造業(役員)	・同業者の状況が前年同月比で物量の低下が続いている。商品構成が異なる当社としては現状の販売品目の強化を図り、物量的に変化の無い状況、あるいは増増を今後も維持していく営業展開を進めている。
		繊維工業(経営者)	・生地を輸出し縫製を中国で行い最終製品として輸入するビジネスモデルがあるが、通関での遅延状況や円高の状況によっては、大きく変化すると思っている。
		プラスチック製品製造業(企画担当)	・今のところいい話も、悪い話もどちらも無い状況なので、3か月先にはまだ変わらない。
		一般機械器具製造業(経理担当)	・新興国の景気低迷により下支えとなっていた輸出にまで減速感がでてきている。
		精密機械器具製造業(経営者)	・業界的には秋の新商品のシーズンであり、全体としては生産量が増えてくる時期であるが、今年の産地の状況は、各社とも数量を絞っているせいか、さほどでも無いようである。
	やや悪くなる	司法書士	・何代か続いている会社の解散、清算が多い。
		繊維工業(経営者)	・内外の市況悪化に加え、中国との領土問題などでどのような影響がでるのか不安があり、先行きに対して期待ができない。
		一般機械器具製造業(総務担当)	・中国、韓国、台湾と日本を取巻く国々との領土問題などで、日本製品の輸出が落ち込んでくると考えられる。平和な世界であってこそ経済活動が自由に行なえるのに、政治は逆行している。企業存亡の危機とも思える。
電気機械器具製造業(経理担当)		・スマートフォン関係が市場に行き届くにつれて、非常に景気が悪くなってくると考えている。客の中には、事業所の統廃合という動きもあり、今後新しいものが出てこない限りは、縮小傾向になると考えている。	
建設業(総務担当)		・全体的には、決して明るい方向には向かっていない。しかし、一部で見積依頼案件が増加傾向にあったり、設備投資への取り組みを検討する企業の動きが見られたりするなど回復への兆しが見られる。	
輸送業(配車担当)		・中国との関係が今後2～3か月以内に急速に改善するとは考えられない。	
金融業(融資担当)		・中国の反日デモ、その後の政策的な影響が懸念される。明確に数字には現われていないが、徐々に表れてくるものと思われる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞販売店〔広告〕 (従業員)	・流通関連以外のチラシ広告出稿量に落ち込み傾向が見られる。
		税理士(所長)	・やはり、中国の問題がある。当初予定していた設備投資の計画が、突然方向修正され生産活動が委縮する。また、中小企業で中国などに生産ライン設備を輸出している関与先をはじめ、そのほかの製造業でも多いのだが、生産設備を作る際に、さらにボルトやネジや鉄板といった基礎部品が中国から入っている所が結構が多く、中国からの部品の輸入に不安感が出てきている。そうすると、生産活動自体がどうしてもいたるところでブレーキがかかってしまう。この先の見通しが非常に心配だということである。
	悪くなる	金属製品製造業(経営者)	・2～3か月先の分の、受注の入り具合を見て悪くなる方向にあると思った。
		建設業(経営者)	・受注している業者は年末に向けて出来高が上がり資金需要が増し、一方、受注できない業者はギリ貧の中で固定費をまかなわなければならない。しかし、銀行は建設業者には貸さない姿勢をより強め、経営破たん陥る建設業者が増えると予想する。
雇用 関連  (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・求人広告の件数がやや増えており、堅調に伸びていると思われる。
	変わらない	人材派遣会社(役員)	・スキルのある人材が少なく、手配が難しい。
		職業安定所(職員)	・新規求人数は依然として増加傾向で推移しているが、パートや臨時的な求人が多い。また、従業員100人以上の規模の企業からの求人は減少している。
		職業安定所(職員)	・今後の景況や受注などの先行き不安により、求人を見合わせる声がある一方で、欠員求人や技術継承という観点での長い目でみた求人も見受けられ、総じて状況に変化はないものと思われる。
		職業安定所(職員)	・最近では新規求人数が増加または横ばいで、新規求職者が減少傾向にあり変わらないが、製造業大手で工場再編による300人規模の離職者がこの先発生するため、現状維持か多少悪くなると思われる。
	やや悪くなる	民間職業紹介機関(経営者)	・改正派遣法が施行されたが、規制がやや強まり、一層派遣離れが進むことに危惧を感じる。
		人材派遣会社(社員)	・日中や日韓の関係悪化が、日本経済にマイナス影響を及ぼしかねない。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	・今月、急に求人数が伸びたが、伸びた要因がはっきりしておらず、このまま続くと思えない。	
悪くなる	—	—	

## 7. 近畿(地域別調査機関:りそな総合研究所(株))

(-:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (近畿)	良くなる	—	—
	やや良くなる	商店街(代表者)	・季節商材に力が入り、購買意欲を高めるイベントも多く開催される。来客数を増やすことができれば、うまくいく。
		百貨店(営業担当)	・前年に競合店の出店があったが、その影響が一巡し、客の動きも安定してきている。
		百貨店(売場マネージャー)	・秋物衣料商戦の遅れや残暑の反動が出てくる。また、賞与についても前年を割るというような流れが少なくなりそうで、結果として実需を中心とした需要が生まれる。
		コンビニ(経営者)	・コーヒーの販売が近日中に開始されるなど、ファストフード系の売上が更に伸びていく期待が持てる。
		衣料品専門店(販売担当)	・少し肌寒くなってきたので、秋冬物が売れてきそうな感じである。
		家電量販店(経営者)	・消費税の増税を控え、単価の高い節電商品、太陽光発電、電化リフォームの動きに弾みがつき、景気は上向く。
		高級レストラン(スタッフ)	・今月のような動きが、今後も増えてくることを期待する。
		高級レストラン(支配人)	・今月中旬から販売量が徐々に増え、10月の予約件数も9月よりは増えている。観光シーズンと重なり、今後はやや良くなる。
		一般レストラン(経営者)	・年末の一見客から新規顧客につながる時期に向けて対策中である。
旅行代理店(店長)	・政治も変わりつつあり、期待が持てる。		



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		通信会社（社員）	・毎年落ち込みがみられる8、9月が好調であったため、年末にかけてもこの流れでいけるのではないかと考えている。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税の駆け込み需要が多少あるのではないかと予想される。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・アンケート回答者の傾向をみると、消費税増税を見越して、1、2年以内に家を建てたいという実需客が増加している。
		商店街（代表者）	・今月のようなパターンが長く続いており、今後も続く。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・月末に台風が近畿地方直撃というニュースが流れた。具体的な様子はまだまだはっきりしていないが、自然災害に神経質になっているのは確かであり、平均年齢の高いこの地域ではどれだけ気持ちの立て直しができるかが課題である。購買意欲はなかなか出てこないため、今後も厳しい。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・大手電機メーカーの再建策など、気の滅入る記事ばかりで、政治の方も良くなる気配がない。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・現状と変わらず、寒さが増せば少し売上に変化の兆しが出てくる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・今の状態では景気が良くなるということではなく、商品が売れることはまずない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・まだまだ一般市民の景気が良くなるのは先になる。
		一般小売店〔花〕（店員）	・売上も伸び悩み、先行きには売上アップが見込めるような材料もない。今後も変わらず、厳しい状態が続く。
		一般小売店〔酒〕（店員）	・来客数は前年を上回る日が多いものの、客単価が依然厳しく、売上は先月までのマイナスを取り戻すことはできず、今月の売上目標や前年の売上も下回っている。千円前後の商品を求める客が目立つ。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・10月も販売量が回復するとは思わない。売上増は見込めず、前年をクリアできればよしとせざるを得ない状況が続く。
		百貨店（売場主任）	・所得の伸びが期待できない環境下、消費額が伸びるとは考えにくい。
		百貨店（売場主任）	・大きな環境の変化がないので、大きくは今と変わらない。
		百貨店（売場主任）	・円高や東日本大震災の影響、国内景気の不安定、雇用の不安定、長期見通しもはっきりしないため、国内需要の安定や景気対策が必要である。
		百貨店（企画担当）	・気温に左右されるファッション部門は、相変わらず先がみえない。天候の変化でも大きく売上が左右される。
		百貨店（営業担当）	・梅田地区の百貨店改装オープンなどで競争が更に激化すると思われるが、様々な企画と百貨店がマスコミに注目される宣伝効果によって、売上の落ち込みは少なく済む。
		百貨店（サービス担当）	・今後は、秋物商材や防寒商材の展開強化と北海道物産の恒例開催のなかに集客施策を盛り込む。また、おせち料理の予約販売といった年末商材の展開強化により集客につなげていくことで、前年実績の確保に努めたい。
		百貨店（販促担当）	・中国、韓国との外交情勢や政治の変化など、予測が難しい状況にある。先行きがみえにくいなか、衣料品、身の回り品については、引き続き慎重な購買行動が予測される。多くはないものの、中国、韓国からの観光客の減少も懸念材料ではある。一方、政治の変化により株価が上昇すれば、上得意客の購買の後押しとなる可能性もある。
		百貨店（商品担当）	・中国、韓国との領土問題が収束しなければ商品供給に影響が出て、混乱が起これかねない。また衆議院選挙に向けても、景気対策をしっかりと行わなければ、景気がより悪化する恐れがある。
		スーパー（経営者）	・地域の競合店と毎日のように値段を競い合っており、客も1円でも安いスーパーを歩き来して買物をしている。
		スーパー（経営者）	・社会保障や消費税の先行き不安に加え、近隣諸国とのトラブルにより更なる足元の景気減速感が漂うなか、節約ムードの改善期待はない。また、このような状況下でも出店競争は活発で、価格競争は更に厳しくなることが予想される。
	スーパー（店長）	・ディスカウント性の強い広告の時は来客数も多いが、低単価傾向は変わらない。敬老の日や冬のギフトの傾向を注視する。	
スーパー（店長）	・消費税増税、原料価格の高騰、社会不安などのマイナス要因が多数出てくるなかで、今後の景気回復はより不透明な状況にある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・季節変動が例年並みの予測で、外部環境の変化がみられない。
		スーパー（経理担当）	・消費増税を見据えた値下げ競争は、早くも過熱気味であり、体力勝負の様相を帯びてきた。収益力のない企業はますます厳しくなり、統廃合の動きが活発になることも予想される。
		スーパー（開発担当）	・消費税の増税や衆議院の解散総選挙の動向が気になるところである。
		スーパー（販売担当）	・客の買い方をみていると、ポイントが何倍とかお買得クーポン、シール、サービスタイムなど、同じ物なら少しでも安い物を買おうという購買動向が非常に濃くみられる。
		スーパー（社員）	・今夏までは、イベント企画やチラシなどで多くの客の来店が実現し、売上も比較的堅調であったが、秋になって客の来店がやや鈍っているほか、競合店の増加も予定されており、厳しい見通しである。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・客がスーツ離れしているようで、販売量が悪いまま、良くなりそうな要素がない。
		乗用車販売店（経営者）	・在庫台数が少ない。販売、修理のすべてにおいて減ってきている。
		乗用車販売店（営業担当）	・年末商戦に向けていろいろなキャンペーンが企画されるはずであるが、先行きの不透明感が今までより大きくなっていると感じている客が増加している。
		乗用車販売店（営業担当）	・特に変化は感じられない。車検などの平均単価は徐々に下がっている感があり、目標に達するためにはその分を件数でカバーしていくしかない。そのせいか景気が良くなっている感じはない。
		住関連専門店（店長）	・特別に良くなり、安定する要素は全くないが、政治に期待感が出れば一時的な回復は望める。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・消費が増える要素がない。生活に必要な商品を販売していても、周りの環境が良くないので、何かにつけて購買意欲が落ちる。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・今後も景気は変わらない。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・購買意欲を大きく上振れさせる案件がないので、今後も平行線をたどる。
		一般レストラン（経営者）	・年末は消費者がなるべく出費を抑えるため、あまり期待できない。
		一般レストラン（スタッフ）	・根本的な景気回復とは思えないが、8月に続き、9月の来客数の前年比も順調に推移しており、若干消費に積極的になっていると期待している。
		一般レストラン（店員）	・特に悪い材料もないが、10月から厚生年金保険料の料率も上がり、家庭の負担は増えるため、多少は影響する。
		スナック（経営者）	・客の会話では不景気という言葉の口にする人が少なくなってきたため、景気は少しは上向いていると期待できる。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・残暑の影響で一時的な消費はあったものの、秋、冬に向けて消費拡大の好材料が見当たらない。
		観光型ホテル（経営者）	・今後は行楽シーズンになり、旅行会社からの団体客や、秋のバイキング、各種イベントを通じての予約は既に多いが、単価が全体的に下がってきているので、売上が低迷している。
		観光型ホテル（経営者）	・不安定な政治や消費増税の影響がのしかかっているほか、経済政策で大きな方向転換の実感もなく、今後景気が良くなるとは思えない。
		観光型ホテル（経営者）	・これから10、11月と観光シーズンを迎えるが、宿泊単価は相変わらずシビアである。
		観光型旅館（団体役員）	・宿泊単価が非常に厳しい状況にあり、総じて収益を圧迫してくることになる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会、宿泊共に季節限定プランの先行予約が好調であるが、昨年並みの受注は期待できない。ただし、単価自体は下がると予想するが、来客数は大型宴会で増加傾向にある。宿泊部門では、東南アジアからの団体の取り込みが難しくなり、国内旅行客の集客を図るため、安価なプランで対応せざるを得ない状況である。
		都市型ホテル（客室担当）	・秋の行楽シーズンを迎え国内旅行の需要は見込めるが、日中関係がうまくいかないと東南アジアからの団体が戻ってこなくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・中国向けは元々ボリュームがないので心配していないが、韓国向けは人数が多いだけにこじれないでほしい。景気の先行き不透明感はずっとあり、その影響は心配だが、株価も少しずつ上がっており、大きな事件がない限り旅行需要は根強い感じがする。
		タクシー運転手	・得意先の動向をみても、ハイヤー予約をはじめとして、今まで往復利用であったものが片道になるなど、利用を控える傾向が定着している。とても景気が良くなる方向に向いているとは言い難い状況である。
		タクシー運転手	・これから旅行シーズンになり神戸にも観光客が増えるので、その需要に期待しているが、気候が良くなると通常の乗客は乗らなくなるので、プラスマイナスで横ばいとなる。
		通信会社（社員）	・10月には少し販売も落ち込むだろうが、2、3か月先には冬モデルの発売や、ボーナス商戦もある。
		テーマパーク（職員）	・選挙も迫ってきており、今後の状況が読みにくい。領土を巡る問題で海外からの旅行客も減少傾向にある。このような状況では消費動向が拡大に向かうことは考えられず、見通しは暗くなる。
		観光名所（経理担当）	・今月も連日真夏並みの残暑が厳しく、耐え難い暑さであった。当地もこの暑さではとても来てもらえる所ではなく、来客数は前年同月比で減っているが、ガラスの製作体験教室は前年を上回る来客であった。ここ数日の、朝夕の秋の気配と共に観光バスの台数が増えてきたが、前年前月の実績には届かない。ただし、特別な昨年は差し置いて、例年の実績と比べると、ほぼ変わらない数字となっている。
		観光名所（経理担当）	・夏場の落ち込みに続き、イベントを開催しても秋、冬と苦戦すると思われる。予算カットも検討しなければならない。
		美容室（経営者）	・夏に比べれば季節的にパーマ客が増加すると思うが、客足が遠のいている（来店周期が伸びている）ため、あまり期待できない。
		美容室（店員）	・来店周期がずれているだけなので、来月は変化がない。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・依然として景気の先行きが不透明なため、生命保険の加入を検討する客は伸びない。
		住宅販売会社（経営者）	・引き続き受注客の着工、見込み客のフォローと仕事の予定は入っているが、来年度の見込みが読めない。
		住宅販売会社（従業員）	・国内や欧州の景気動向、領土問題など、企業業績の低迷要因に改善の兆しが無い。
		住宅販売会社（従業員）	・マンション販売に関しては、年内は好調な状況が続く。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・不動産の取引件数は3か月前と変わらないと思うが、経済に対する政策にも変化はない。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・関西経済においては、大手電機メーカーの経営不安による影響が心配される。南大阪エリアでの住宅購入検討者では、関連業種の従業員で検討の見合わせが発生するなど、影響が出始めている。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・消費全般が沈滞しているなか、国会の解散風が吹いており、経済活動への影響が大きい。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・政治の転換期でどのような政策が取られていくのか先行きが不透明で、消費者の財布のひもも固くなったままである。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・中国との関係が少し心配である。これから先、旧正月へ向けては中国からの観光客が日常の消費に与える影響も大きな時期となるが、中国からの観光客は目に見えて減っている。また、消費税の動きも気になる。
		一般小売店〔雑貨〕（店長）	・今後も客の高齢化が続くので、売上は徐々に減少していく。
		一般小売店〔花〕（店長）	・中国問題で少し後退する。
		百貨店（売場主任）	・梅田地区の競合店の増床オープンによる影響を受ける。エリア間競争がますます激しくなり、そもそも財布のひもが固い消費者のモチベーションを上げるのに苦労する。
		百貨店（売場主任）	・同業他社の新店がオープンするなど、地域間の競争激化が更に強まる可能性がある。一時的な傾向になる可能性もあるが、客の流れが変わることが予測される。さらに、近隣諸国との領土問題もあり、外国人客の来店、購買が抑制されることも予測される。景気が良くなる要素が直近では見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・近隣地区での競合店の増床により、一時的な来街者の減少が予想される。
		百貨店（店長）	・日本の政治環境や世界の経済情勢の影響により、すべてに不透明感がある。
		百貨店（マネージャー）	・政治問題や中国問題、消費税の増税など、社会を取り巻く様々な不安要素が顕在化し、消費に直接影響を与えるようになり、目に見えて動きが悪くなる。特に、年末から年始にかけての消費者の動きは例年と大きく変わってくる。
		百貨店（外商担当）	・競合先の大型店が来月増床を完成させ、大掛かりなオープンを迎えることから、当店の売上が落ち込む。
		スーパー（経営者）	・乗客数、買上点数は維持できているが、客単価が下がっている。特に、月後半、給料日前になるとその傾向が強まる。
		スーパー（店長）	・これまでの政治経済における懸念材料に加えて、ここへきて新たに中国問題が浮上してきており、更に不透明感が増大しそうな気配がある。
		スーパー（店長）	・日常性の高い商品での競合激化も含めた減少傾向は、政局、領土問題、増税意識などの影響もあり打破できない。
		スーパー（店長）	・暖冬予報が出ており、冬物商材の動きに影響が出そうである。また、業績悪化による所得の減少から、デフレが更に進行する。
		スーパー（管理担当）	・消費税増税の余波、節電志向の継続、加えて競合地域への他社の出店が懸念材料である。
		スーパー（企画）	・先行き不透明ななか、個人消費が改善する要素が見当たらない。
		コンビニ（経営者）	・デザートは売出しの時に買われ、菓子類も新商品が出た時に買われることが多いなど、必要な物だけを購入する傾向になってきている。
		コンビニ（店長）	・気温が下がり来客数が減っていくほか、ここ数年は減少傾向にある年賀状、お歳暮などの年末商材も伸び悩む。
		コンビニ（広告担当）	・中国との領有権問題による悪影響が長引く傾向にあると思う。中国での生産品や中国人観光客の減少のほか、従来からの原材料高騰による値上げ、先々の増税などの社会不安による買い控えなども懸念される。
		乗用車販売店（経営者）	・確かに中古車は動いているが、客の要望はエコカーであったり、低燃費であったりと、趣味のための車は動くことがない。
		乗用車販売店（経営者）	・円高ドル安が続き、ここへきて中国との領土問題も懸念される。中国のお陰で伸びてきた経済なので、こういう問題が起きると大変なことになるのではと心配しており、非常に残念である。
		乗用車販売店（経営者）	・国内では大きな選挙を控えており、選挙結果によって景気動向が左右される。政治面では、竹島問題、尖閣問題を抱えており、国民は今が国難の時代だと感じているので、今後の動向を見極め、落ち着いてから消費に向かう。ここしばらくは、景気は良くならない。
		乗用車販売店（販売担当）	・一部車種のマイナーチェンジはあるものの、全体を引き上げる好材料とはならない。
		乗用車販売店（販売担当）	・繁忙月の9月が終了し、販売量が減少する傾向がある。
		一般レストラン（経理担当）	・企業の収益環境については、中小企業で厳しさが続き、大企業も悪化が見込まれているため、景気のけん引役は大企業のなかでも限られている。また、中国問題に端を発する輸出環境の悪化が改善に向かわなければ、厳しい状況は今後も続く。
		都市型ホテル（支配人）	・対中国問題やオスプレイ問題のほか、政権交代もあり得る。中国進出企業の撤退など、経済政策の見直しが近々の問題である。
		都市型ホテル（総務担当）	・宿泊の予約は、10月以降は今月までと比べて申込数が減少している。稼働率を維持するために販売単価を落とさざるを得ない。
		都市型ホテル（マネージャー）	・客室部門では中国、韓国からの観光客の減少が見込まれ、国政選挙の時期も予想が立たず、企業の需要と個人客のマインドの低下が予想される。10月後半からの国際会議により、短期間の宿泊需要の上昇は期待できるが、長期的には不透明である。
		タクシー運転手	・悪くなる一方で、何も良いことがない。
		通信会社（経営者）	・中国問題が影響してやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（企画担当）	・日中関係の悪化で中国からの安価な製品の輸入が減り、インフレが懸念される。
		競艇場（職員）	・購買単価の長期低落傾向に歯止めがかからない状況で、景気浮揚策などが遅れており、1人当たりの可処分所得にも余裕がないので、良くならない。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・中国、台湾からの観光客の減少が予想される。
		その他レジャー施設 〔球場〕（経理担当）	・プロ野球シーズンが終了し、クライマックスシリーズ、日本シリーズの開催もなく、この時期は企業イベント等、集客が少ないイベントが主となる。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・取扱アイテムの見直しなどを進めるにも、画期的な代替アイテムもなく、苦しい状況が続く。
		住宅販売会社（総務担当）	・土地価格が下落傾向で先行きが読めず、顧客の動きも鈍い。
	悪くなる	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・冬場になっても衣料品が売れるとは思えない。消費者の購入先が小売店から大型店に移行しているのは分かるが、どうやって小売店に目を向けてもらえるかが分からない。加えて、社会経済も明るい話題がなく、これから先が不安である。
		一般小売店〔自転車〕（店長）	・中国との外交問題で、部品類、仕入れ、貿易面などのすべてに影響が出ている。販売面でも、9月は中国人留学生在が例年来るが、今年は来ない。ガソリンも高騰しており、現在は上向く材料がない。
		衣料品専門店（経営者）	・政治が不安定なため購買意欲が削がれている。先日、神戸で自民党総裁選の街頭演説があった時はひどかった。
		衣料品専門店（販売担当）	・ますます単価の低下や買い控えが進む。
		家電量販店（企画担当）	・特に、東南アジア企業の勢力がアップしている。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金の駆け込み需要はなかったがここ数年間にわたる補助政策の反動が徐々に出てくる。
		自動車備品販売店（営業担当）	・新車のエコカー補助金の終了が響く。
その他専門店〔宝石〕（経営者）		・韓国、中国との領土問題によって我が国の経済にマイナスの影響が出てくる。	
その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）		・行き過ぎた接客態度が問題となり営業停止となった会社の影響により、資金繰りがうまくいかず共倒れする同業者が出てくる。	
都市型ホテル（スタッフ）		・尖閣問題は急転するような状況ではなく、宿泊は少なくとも年末まで厳しい状況と思われる。パーティーも大型案件が先行しているが、全体的には件数減が続く。施策的に会議や研修を先行受注させて、収入よりも利益率確保に動いている。	
競輪場（職員）	・政局の停滞、日中、日韓関係の冷え込み、環境税の導入のほか、様々な物が値上がりするが賃金は上がらないため、依然として景気が上向かない。		
企業動向関連 (近畿)	良くなる やや良くなる	—	—
	食料品製造業（営業担当）	・2～3か月先には年末商戦やクリスマスなどがあり、今月より景気はやや良くなる。	
	家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達の依頼が詰まってきている。	
	出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・印刷・出版業界は、これからますますペーパーレス化が進み、インターネットと紙の融合が進んでいく。我々としてもこの流れに対応していかなければ生き残れないことは明白である。	
	化学工業（経営者）	・昨年は東日本大震災の影響もあり動きの止まっていた物件も、ここにきてようやく動き出した。国際情勢など不安も多いが、前年比では多少は良くなる。	
	建設業（経営者）	・今月の状況と、繁忙期を迎えることを勘案して、今後は受注が増える。	
	広告代理店（営業担当）	・領土問題の騒ぎは、時間が経てば落ち着くので、2か月ぐらい経てば戻ってくる。	
	その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・中国などとの地政学的な問題がクリアされれば、出遅れ感のある日本経済の評価が見直される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・受注の傾向がやや良くなる。
		食料品製造業（従業員）	・秋から暮れにかけては例年売上が伸びる時期になるが、良い情報は聞かれない。一部凶作により農産物の原材料価格が上がってきたものもあるが、製品価格に反映できないため苦しい状況になる。また、中国から輸入している農産物もあるが、中国との不穏な動きに影響されないことを願っている。
		食料品製造業（経理担当）	・世間全般が閉そく感に包まれ、活気がない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・顧客からの情報では、生産増につながる案件が少ない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・国内外の政治問題をはじめ、大手電機メーカーの大きなリストラ等を考えると、景気を押し上げる要因がない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・やや悪い状態が長く続いている。大型受注がなく、売上も伸びない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・良くなる要因がない。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・季節的には良くなるころではあるが、今年はあまり積極的な計画が聞かれない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・大きな変化があるとは思えない。
		その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	・新商品を開発しても反響が少ない。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・国内生産への切替がみられるものの、デフレ圧力によりメーカーの利幅は薄くなっている。
		建設業（経営者）	・東北の本格的な復興が始まれば、全国から建設関係者が吸い寄せられ、職人不足、賃金高騰が予想される。
		輸送業（営業担当）	・中国で生産していた部品を国内工場での生産に切り替えたメーカーの荷物が増えている。一時的な動きかもしれないが、来月もまだ荷物が増えそうである。
		輸送業（営業所長）	・新規案件も乏しく、先行きが不透明である。
		金融業（営業担当）	・まだまだ先行きへの不安が多く、財務内容の悪化と、金融機関からの借入も元金が増加傾向であることなどが、景気不安材料である。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	・購読数が落ちていて、新規の開拓も伸び悩んでいる。折込件数も前年並みである。	
	広告代理店（営業担当）	・ここ数ヶ月の売上は前年を辛うじて超えている状態が続いており、先行きに好転、悪化する材料もないので変わらない。	
	広告代理店（営業担当）	・年末に向けても、良い情報はクライアントから聞かれない。	
	司法書士	・不動産の動きも感じるができず、今の状態が続く。	
	コピーサービス業（店長）	・年賀状の印刷を中心に進めている状態で、乗客数、売上共に増加する時期ではあるが、それ以外の目立った変化がないこともあり、ベースアップまでは難しい。	
	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・これといって大きく変わらない。	
	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・領土問題は長期化し、国内経済にも今後大きく影響しかねないことから、しばらくは購買意欲の低下に伴い、消費支出が伸びることはない。	
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・先の受注量が増えるめどもないし、料金アップも見込めない。清掃パートを多数雇用しているが、最低雇用賃金のアップばかりで利益が目減りする一方である。	
	やや悪くなる	繊維工業（総務担当）	・受注の減少が在庫増になり、生産調整へつながっている。加工業者への支払も減り、全体に資金が動きづらくなっている。
		繊維工業（団体職員）	・年末の需要期に期待しているが、景気の低迷による需要の減少が懸念される。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・デフレによる商品価格の下落から、国内製の製品は、ますます競争力を失うと推測する。
		金属製品製造業（営業担当）	・中国での日本車販売の落ち込みの影響が懸念される。
一般機械器具製造業（経営者）		・顧客の投資計画が停滞しているため、近々の受注は減る見込みである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・引き合いが増えつつあるが、ここへきて中国との関係が不透明であるので、ここしばらくは様子見である。日本とすれば東南アジア方面に目を向けることを急がなくてはならない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・為替や政治面、外交面での不安定さと、天候不良による穀物類の値上げが消費動向全体を抑えてしまう。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・尖閣諸島の領有権問題による中国の行動次第で、影響が出るかもしれない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・海外受注が鈍化（受注した物件の延期、見直し）している。
		建設業（経営者）	・政治や中国、韓国との問題など不安要素があり過ぎて、大きな買物には慎重にならざるを得ない。
		輸送業（営業担当）	・質の悪い客が増えて、対応に時間がかかり過ぎている。
		通信業（管理担当）	・政治が不安定で、中国とのあつれきも大きくなっている。
		経営コンサルタント	・電気業界の関連各社では、まだしばらく良くなるという見通しが立たない。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・日中問題の悪化が長引く場合に、製造業に影響が出るのは必至であるため、大企業を中心に社員の購買意欲が後退することが予想される。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・これから先に予定されているような案件などを含めて、見積り依頼も非常に少ない状態なので、景気が良くなることは考えにくく、悪くなる可能性が高い。
悪くなる		繊維工業（総務担当）	・ソックス製品の安価品は中国から輸入しているが、尖閣諸島に関する中国との問題により貿易上で大幅な遅れを来している。このままでは、売上面や利益面で損失を被ることになる。
		化学工業（企画担当）	・中国への輸出が悪化すると思われるほか、原料価格も高騰する。
		化学工業（管理担当）	・日中関係の悪化及びエコカー補助金の終了に伴い、自動車産業の低迷が予想されるほか、円高及び原材料値上げに伴う輸出不振が予想される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・先がみえなくなるなかでも、無我夢中に前を向いてもがいていると、意外に活気が出てくるものと考えていたが、領土問題に対する政府の対応をみていると、もうしばらくはわずかな希望も持てない。
		不動産業（営業担当）	・神戸から企業が撤退していき、ますます事務所や事業所、住宅のニーズが減ってきている。こういった動きは今後も続くと思われるため、神戸の景気は悪くなっていく。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・政治経済の状況が非常に良くない。
雇用 関連  (近畿)	良くなる やや良くなる	—	—
		人材派遣会社（支店長）	・年度末に向け需要が増える。
	変わらない	民間職業紹介機関（職員）	・建設関係の日雇い求人数は増加傾向にある一方、労働者数の減少がブレーキをかけている状況は続くが、この数か月の動きからすれば、それを超えて求人数が多少は伸びる可能性がある。
		人材派遣会社（経営者）	・下半期に入るところであるが、予想どおり電力やインフラ関係などの会社が悪くなってきている。大手信託銀行が数百人規模のIT技術者を募集したところ、あっという間に人が集まった。これをみても需供のバランスが崩れていることが分かり、今後もこの状態が続く。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・携帯電話などの製造、販売に関するニーズがやや増加傾向にあるものの、それ以外の製造に関しては、海外移転や先行き不透明感が広がっており、全体的には大きな変化はなさそうな気がする。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・中国や韓国などの国際情勢や、それが及ぼす国内情勢への影響を考えると、年内に改善に向かうことは難しい。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・これまでの推移をみた範囲では、国を揺るがすような事態にならない限り、このまま安定的に推移していく。
		職業安定所（職員）	・現時点で求人は増加傾向にあるが、先行きは円高の長期化などによる雇用情勢への影響が非常に懸念される。
		職業安定所（職員）	・求人増加傾向は、しばらくは継続すると思われる。一方、新規求職者数が大幅に増加する要素は現在のところ見当たらない。しかし、中国や韓国との外交問題がどの程度景気に影響するのかわからない不透明であり、製造業にも悪影響が出ていることから、今後、大きく景気が悪化する可能性もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・長引く円高や、欧米に加えて中国の景気減速で景気回復の見通しが立たず、景気が良くなるとは思えない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は、8か月ぶりに前年同月比で6.3%減少している。円高や欧州の信用不安の拡大もあり、先行きは不透明である。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業の採用意欲が活発であるが、景気が領土問題などで左右されることも考えられる。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・個人消費が伸び悩み、安価な物しか売れないなど、デフレからの脱却がなかなかできない。
		人材派遣会社（支店長）	・改正労働者派遣法の影響が、求職者、求人企業双方に出る。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・先の見通しをみても、全く動きが感じられない。大阪駅周辺の再開発などの動きがあるが、全く動きがない。
		職業安定所（職員）	・大手電機メーカーの下請の仕事がなくなることが予想される。
		民間職業紹介機関（支社長）	・上場企業の上期決算が芳しくなく、コスト抑制が促進される。
		民間職業紹介機関（大学担当）	・特に大企業の力が衰えることにより、社会全体の雇用体系に影響が広がりそうな予感がする。景気・経済対策が早急に行われることを期待する。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・中国の問題など不安材料が多い。
学校〔大学〕（就職担当）	・近くに入国管理局もあるが、心なしか人の出入りが増えているように感じる。		
悪くなる	—	—	

## 8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (中国)	良くなる	自動車備品販売店（経営者）	・季節商材の需要が高まる。
		競艇場（職員）	・11月に開催するG1競争で収益が多く見込める。
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・近隣のアウトレットモールや大型商業施設の影響で大きく売上を落としていたが、大型テナントの売上がわずかに回復の兆しがある。アウトレットモールの開業から約1年経過したこともあり、徐々に影響が薄らいできている。
		百貨店（営業担当）	・気温の低下に伴って秋物衣料の稼動も高まってくる。
		コンビニ（エリア担当）	・100円ぐらいのケーキの売行きが好調で、今後も売上は期待できる。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・秋冬に関してスーツの需要が見込める。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・大河ドラマの影響が出始める。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・今から2、3か月後は、観光海産物店にとって一番売上も客も増える月で、今より確実に来客数、売上ともに良くなる。ただ例年とも比較は不透明である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊では年末に向け、大河ドラマの効果が少し期待できる。
		通信会社（総務担当）	・新商品の販売開始並びにPR展開により、販売増に期待できる。
		通信会社（広報担当）	・新商品発売の影響が期待できる。
		通信会社（営業担当）	・新機種の発売で携帯市場が活性化してきていることに加え、2012年冬モデルの登場や冬キャンペーン等もあり、かなり市場がにぎわいをみせて販売数増加が予想される。
	通信会社（工事担当）	・閑散期が終わり今後需要期に入るため、期待も込めて上向くと思われる。	
	テーマパーク（業務担当）	・ガソリン価格が高止まり傾向にあり、自家用車利用の割合が高い当施設にとっては楽観できない状況が続くが、冬のイルミネーションイベント等の期待が持てる。	
	その他レジャー施設（アミューズメント）	・映画館で期待できる公開作品があるため、影響を受けて当店への来客数増に少し期待が持てる。ただ家族客・若者客ともに娯楽への大幅な出費増は期待できない。	
	設計事務所（経営者）	・消費税増税が決まり、住宅などの工事に駆け込み需要が期待され、これから政治の変化とともに動きが出てくる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・良い方に変化する要因が見当たらない。
商店街（理事）		・良くなる材料がなく現状のまま推移する。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・冬物の動きがそれほど盛り上がらない。
		商店街（代表者）	・周りの商店店主同士の会話からも、景気の低迷気味の話が多い。
		商店街（代表者）	・円高、外交問題など、不透明な部分があり、将来に対する明るい見通しが無い。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・秋の観光イベント、地元の祭り等で人が動くので期待しているが、売上は変わらず平行線で推移する。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・地方経済は疲弊しており、客の財布のひもが固くて外食などにお金が回っていない。
		百貨店（営業担当）	・客は何か特徴のあるもの、あるいは今すぐ欲しいものしか購入しない。
		百貨店（販売促進担当）	・先般、駅中へ飲食の集合施設がオープンするなど環境はますます厳しさが強まってきている。10月1日以降は買物袋の有料化も実施されるなど、消費が好転する兆しは感じられない。
		百貨店（売場担当）	・店頭で生活防衛的なシビアな買い方がある一方、まだ高額品のアクセサリや革物が前年をクリアして全体をカバーして推移する。
		百貨店（購買担当）	・秋物の動きがかなり鈍く、気温が数か月後にどのようなかによって商品の動きは変わり、アパレル関係も物づくりに対してシビアになっている。経済情勢、諸外国との調整によって中国製や韓国製の商品を客は敬遠する。経済情勢や気温を見極めながら販売をしていく。
		百貨店（売場担当）	・今月もあまり良い状態ではなく、衣料部門・雑貨部門・食品部門いずれも苦戦が予想される。コアとなる集客要素が減っていく。
		百貨店（電算担当）	・前年比マイナスは変わらない。今まで当たった催事も減少しており、消費に盛り上がりはない。
		百貨店（販売担当）	・好転する要素がない。
		百貨店（営業推進担当）	・当面の間このような状況は継続する。社会情勢等の変化で悪い方に振れることはありうる。
		スーパー（店長）	・良くなる材料も悪くなる材料も見当たらない。
		スーパー（店長）	・大きな政治の変化など、起爆剤がない限り現状のまま続く。
		スーパー（店長）	・地場産業の衰退で節約志向が強い。外部環境の変化はなく景気の回復は見込めない。
		スーパー（店長）	・個人消費の回復や上昇になる要因が見当たらない。更に外交悪化や政権与党への不信感が強く、先行き不安感が大きい。
		スーパー（店長）	・経済状態が悪化している。
		スーパー（総務担当）	・燃料費等価格が不安定で、食費支出も必要外の支出が期待しにくい。
		スーパー（業務開発担当）	・競争激化と単価の下落で現在の悪い状況が続く。
		スーパー（販売担当）	・客の顔ぶれに変化はなく、買上点数と単価を上げるのは難しい。
		コンビニ（エリア担当）	・天候の影響もあるが、7月より来客数は回復している。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数の減少は回復するかもしれないが、単価ダウンの傾向は続く。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・競合店出店の影響が少なくなると予想され、年明けにならないと日販前年比の回復は難しい。
		衣料品専門店（経営者）	・今後の見通しが全く立たない。
		家電量販店（店長）	・デジタル商品の動きは鈍く、小物商品の販売量も増加しない。
		家電量販店（店長）	・10月にはウィンドウズ8の発売が予定されておりパソコン関連は伸びが期待できるが、既存の商品群でヒット商品が乏しく大きな変化は見込めない。
		家電量販店（販売担当）	・ウィンドウズ8の発売、年末商戦と続くので変わらない。
		乗用車販売店（店長）	・今以上に悪くなることは考えにくく、当分この状態が続く。
		乗用車販売店（副店長）	・政局が不安定であり、外交問題も山積しており消費が盛り上がっていない感がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	・ 今後は現状のまま推移し、目立った変動はない。
		高級レストラン（スタッフ）	・ 先の予約状況は昨年と大差はない。
		一般レストラン（経営者）	・ 現状の悪さが続く。政治も混乱しており、将来的に明るい話題がない。
		一般レストラン（経営者）	・ 年末に近づくにつれ、消費は上向き傾向であろうが、昨年と比較し大きく好転しているとは思えない。
		一般レストラン（エリア担当）	・ 来店頻度が減っている状況はまだまだ続く。
		一般レストラン（外食事業担当）	・ アメリカ産の牛肉の規制緩和があり、利益に貢献するかもしれないが、外食においては量の増加はない。
		スナック（経営者）	・ 景気が回復する事を願っているが、このところ回復の兆しが全く見えてこない。政治主導で景気対策をしてもらいたいが、全くしている気配がない。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・ 買い控えが弱くなっただけで、良くなる傾向はみられず、来客数の動きからみて悪くなる様子もない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・ 年末に向けての宿泊予約等も引き続き多い。
		都市型ホテル（企画担当）	・ 政府の更なる景気対策を期待する。
		タクシー運転手	・ 客の言動から良くなる材料はない。
		通信会社（社員）	・ 客の問い合わせで新規加入に関することがない。
		通信会社（企画担当）	・ 単価アップでも商品の内容で、選好される傾向は年内続くと思われる。
		通信会社（営業担当）	・ 円高・増税・原発・政局不安等々先行きへの不安感が強く、良くなる要因が見当たらない。
		テーマパーク（管理担当）	・ 日中韓の外交関係、日本の社会情勢ともに良いとは思えない。
		テーマパーク（広報担当）	・ 回復の傾向はみられるが、領土問題などによる国際的な状況も不透明で、海外からの観光客も期待できない。状況が大きく良くなる要素がない。
		美容室（経営者）	・ 良くなる材料がなく、単価をあまり安くすると景気は良くなるならない。
		美容室（経営者）	・ 秋口から冬にかけて来客数が減少するが、忘年会、年末、正月を迎えるにあたり、髪を切りに来る客は定期的に増える。
		美容室（経営者）	・ 美容の市場は大きくなったが人口の減少、少子高齢化など、今後気にしないといけない問題が多い。
		その他サービス〔介護サービス〕（介護サービス担当）	・ ここ最近身近で景気の変化が全くみられていないことから、今後3、4か月で変化があるとは考えにくい。
		設計事務所（経営者）	・ 消費税増税を受けて一部には受注を伸ばす企業もあるが、全体的には行き渡らないので、すぐには押上の効果ができにくい。
		設計事務所（経営者）	・ 公共料金の値上げ、いろいろな税金の値上げ、年金の引き下げなど景気浮揚の材料は見当たらない。全く進まない行財政改革、首相の椅子を投げ出した方の再登板の噂など地方経済の活性化はほど遠い。
		設計事務所（経営者）	・ 消費税増税に対する意識は高いようだが、駆け込み需要はもう少し先になる。
		住宅販売会社（従業員）	・ 販売量は若干上向きであるが、内容的にはあまり良い状況とはいえない。金額的には1件当たりの金額は落ちてきており、コストは若干増加傾向にある。
		住宅販売会社（販売担当）	・ 県内雇用情勢に好転の見込みがなく、安定的な収入の不安感も続くものと思われる。
		住宅販売会社（営業担当）	・ 変動要素がない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・ 日本を取り巻く環境、経済、国内景気など、どれをとっても明るさがなく閉塞感がある。政治も混乱し、外交も厳しい局面であり、そういったことを客が敏感に感じ、購買意欲が弱くなっている。
		商店街（代表者）	・ 領土問題による世情不安など政治・経済含めていい要素がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・政情不安・景気の不透明、基本的な愛国精神とともに何か日本の誇りと自信を取り戻す施策が必要である。教育と経済とが一体化していることを認識すべきである。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・会社設立の注文が少なく、活発な動きは期待できない。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	・地元の高齢者の来客数が減少し景気は後退する。
		スーパー（販売担当）	・常連客は来店の間隔が少しずつ空く傾向にある。来客数全体が減少傾向にあることから、景気の先行きは思わしくない。
		スーパー（財務担当）	・競合他社の低価格競争により、1点単価の下落及び買上点数の減少が続く。
		スーパー（管理担当）	・ディスカウント店出店における影響は来客数減少に顕著に表れており、年内更に出店する情報もあることから現状として上向きは難しい。
		スーパー（営業システム担当）	・相変わらず客単価が低い。そのうえ市内のショッピングセンターの改装・増築もあり、先行きは厳しくなる。
		家電量販店（店長）	・12月のボーナスがあり来客数は増えるが、依然として客単価が低迷している。
		家電量販店（企画担当）	・スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末には期待したいものの、低迷から脱出するような所までの期待はできない。このまま緩やかに右肩下がりになっていく。
		乗用車販売店（統括）	・9月までのエコカー補助金需要の反動で大変厳しくなる。
		乗用車販売店（店長）	・エコカー補助金は打ち切り前の駆け込み需要もなく終了した。社会情勢不安から景気後退の雰囲気が出ている。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金の効果がほとんどなく、静かな決算商戦だったが、補助金が終了した後の冷え込みがかなり予想される。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・近隣国との外交摩擦や政局の不安定さから、先行きの不透明感が消費者心理にも影響を及ぼし生活防衛心理がさらに根強くなる。
		観光型ホテル（支配人）	・年末までの宿泊予約は前年をかなり下回っており、期待していた外国人旅行者も領土問題の影響でキャンセルの可能性が大である。
		都市型ホテル（総支配人）	・関西・九州地区から山陰方面に来る観光客が減少し東京・東北地区へ流れており、この傾向は今後も継続する。
		都市型ホテル（企画担当）	・9月の傾向から良くはならない。
		旅行代理店（経営者）	・中国・韓国と非常に渡航者の多い地区なので問題があればすぐ旅行会社には影響が出ている。
		タクシー運転手	・政変で悪くなる。
		タクシー運転手	・半導体大手関連会社のリストラ及び大手百貨店の撤退等良いニュースがない。
		通信会社（通信事業担当）	・見込み客や問い合わせ件数が、極端に減ってきており、新規加入の実績が上がる要素が見当たらない。
悪くなる	スーパー（店長）	・通常のスーパーの品ぞろえ価格帯では、ディスカウントストアや大手スーパーマーケットの価格戦略、集客戦略に負けており、まだ、打開策を模索している状況となっている。また、心理的に増税、保険料増は消費心理を抑えこんでいるよううかがえる。	
	乗用車販売店（業務担当）	・エコカー補助金の駆け込みも盛り上がりえないまま終了を迎え、今後はさらに悪化する。	
	自動車備品販売店（経営者）	・エコカー補助金も終了し、当分、景気の回復は見込めず、良くなる要素も施策も感じられない。ますます落ち込むだけ、景気の良いのは自動車関連の大手企業だけになり、我々の業界でもメーカーだけが空前の利益で、場末の個人販売店は青色吐血で大赤字になる。	
	その他専門店〔時計〕（経営者）	・住宅や自動車などの大型消費が消費税増税前になされ、当店のよう宝飾品販売は低下する。	
	その他専門店〔布地〕（経営者）	・政治が不安定で明るい話がほとんどなく、景気対策がされないと悪くなる一方である。	
	ゴルフ場（営業担当）	・シーズンオフに入る為、予約が落ちる。例年並みの予想をしている。	
	企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）
やや良くなる		木材木製品製造業（経理担当）	・年末に向けての需要が高まっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(中国)		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・新製品の本格量産が始まり、大型商品のため期待できる。
		建設業（総務担当）	・病院・福祉関係で年度末までは物件の動きがあると予想される。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・8月単月で水揚げ数量・金額ともに大幅に減少した。はっきりとした減少原因が分からない。
		食料品製造業（総務担当）	・数値は伸び悩み、販売網の見直し、特に流通はスーパーやデパートといった搬入先の確保を考えないといけない。
		化学工業（総務担当）	・現時点で経済環境が大きく変わる事は考えにくい。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・焼却場の工事案件を一件受注しているが、他に大口の工事案件受注はなく生産量は減少の見込み。そうしたなかで二次加工品分野の受注が堅調でこの部門は好調である。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きから変化はない。
		一般機械器具製造業（経理財務担当）	・国内需要は引き続き低調で、販売量も横ばい傾向である。
		建設業（経営者）	・周辺で大型の事業の撤退で人員削減などの暗い話があり、悪い影響がある。地価も下落し、建設・建築関係について景気が良くなることはない。
		輸送業（支店長）	・会社関係の伸びは若干あるが、集荷の軒先数が減少し、個人集荷は前年並みで推移する。
		金融業（自動車担当）	・新型車の生産は高水準が続くと期待できるが、現在の為替水準では輸出採算が厳しく、収益は現状維持が精一杯となる。
		金融業（営業担当）	・外部環境に明るい話が少なく、地元経済を支える中小企業においても積極投資を行う取引先は少ない。中小企業の経営者は景気見通しに悲観的であり、経費削減等の守りの経営を行っている企業が多数である。当地において、景気を刺激するイベント開催の予定もなく、今後3か月先も概ね現況に変化はない。
		不動産業（総務担当）	・需要時期でもあり引き続き推移する。
		会計事務所（職員）	・めぼしい公共工事の予算は、西日本にはあまり無く、復興需要を目当てに受注単価の高い東北地方に出稼ぎに行き出した業者もいる。
		やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）
	鉄鋼業（総務担当）		・自動車のエコカー補助金制度が終了し、中国情勢等が懸念される。
	非鉄金属製造業（経理担当）		・エコカー補助金終了による反動が懸念される。
	金属製品製造業（総務担当）		・尖閣問題の早期解決による中国との関係改善が図られなければ、今後の受注活動及び生産活動に大きな支障となる。民間企業レベルでの対応はできないため、この問題が長期化しないことを願う。
	電気機械器具製造業（総務担当）		・復興特需の影が薄らぎ期待感は半減している。受注はやや減少傾向で、足元は不安定、円高と中国の動向が気になり先行きは不透明である。
	電気機械器具製造業（総務担当）		・尖閣諸島の問題で、中国の工場が被害を受けており、部材入手が遅れる。
	輸送用機械器具製造業（総務担当）		・受注量が減少し、受注価格も減少している。
	輸送業（業務担当）		・荷動きも感じるが運搬機器類など会社の設備の代替等を据え置く傾向になってきている。
	輸送業（総務担当）		・客からの情報で、良くなる要素がない。
	通信業（営業企画担当）		・製造関連企業での中国情勢による生産・販売の動向について注視しており、提案中案件の進捗について状況を見ながらの検討となる客が発生している。
	通信業（営業担当）		・中国との領土問題もさることながら政局も混沌として景気へのテコ入れ策もみえない。デフレ状態での消費税増税なども景気減速の1つの要因と考える。
	広告代理店（営業担当）		・年末までの受注量は例年下降ペースで落ち込む。受注先からの話しも上向きが少ない傾向にある。
	コピーサービス業（管理担当）		・日中関係の悪化により景気後退の懸念がある。企業業績が悪化すれば経費節約となり印刷物の需要も激減する。
悪くなる	化学工業（経営者）		・主要取引先の工場が定期修理期間に入る為受注量が減少し、減収減益見通しである。また近時の中国との領有権問題に端を発した経済への影響が懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		鉄鋼業（総務担当）	・世界経済は低迷し、国内においても効果的な景気浮揚策がなされていない。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・中国の対日本政策が厳しくなってくるのが予測される。
雇用 関連  (中国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	○	○
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・現時点で上昇、下降とも判断材料がない。
		人材派遣会社（営業担当）	・製造業からの派遣依頼は横ばいで推移することが予想され、良くなる期待感を感じられない。
		人材派遣会社（支社長）	・求職者の確保が難しくなる。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・求人数自体の大幅な増加は年末年始に向けて若干ではあるが昨年度の同時期に比べて増えてきている印象はある。ただ、予算を昨年度並み、もしくはそれ以上の費用を使って活動を行う企業が比例して増えていくという実感はない。
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	・現状では回答が難しい。新卒求人の採用数は増えているが、コストは抑えめであり、また採用の目線が非常に上がってきているため、雇用の改善につながるかどうかは疑問である。
		職業安定所（雇用開発担当）	・新規の求職者は、この3か月は横ばい状態で解雇者の数も3か月変化がない。雇用保険取得者も前年同月比で1けたの微増となっている。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	・好転的な要素が見つからないので、このまま状況は変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・採用意欲は若干上向いているように思えるも緊迫した外交情勢を鑑みると、輸出産業で成り立つ地場経済への影響は円高と併せ深刻であり予断を許さない。
	学校〔短期大学〕（学生支援担当）	・大きく変わる要素が見受けられない。	
その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	・来春の新規学卒求人は件数こそ前年を上回ったが募集人数が絞られており、全体では低調に推移した。新たな企業誘致に関わって大量採用の話も複数あるが、来年・再来年のことであり、今現在の求人には結び付かないでいる。		
やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・消費動向も依然として鈍く、多くの事業所は行き詰まり感が強い。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・海外経済の減速で、輸出企業の生産水準が低下している。自動車のエコカー補助金の終了後の反動減も予想され、景気の先行き不透明感が強まっている。	
	職業安定所（産業雇用情報担当）	・有効求人倍率は1倍を超えているが、管内事業所の閉鎖情報もあり、段々悪化していく。	
	民間職業紹介機関（人材紹介担当）	・日中関係の問題から波及される経済上の影響から鑑みて、観光分野やメーカー輸出分野の売上が落ち込む。	
悪くなる	—	—	

## 9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（—：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (四国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・年末にかけての需要に期待したい。
		コンビニ（店長）	・建設業のお客様の来店が順調なので、やや良くなると考えている。
		衣料品専門店（経営者）	・天候に恵まれそうな予想をしており期待している。購買単価も上昇してきているように見受けられ、客のマインドが変わったように感じる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・年末に向けて売上也伸びることが予想され、これから良くなると思う。
		タクシー運転手	・秋は四国八十八箇所参りの仕事が増え、売上也多少上向くと予想する。
		タクシー運転手	・忘年会等が始まり人の動きはあると期待している。しかし、乗客との会話の中で、給料が上がらないという声が一番多く、景気は下降気味だと思う。
		美容室（経営者）	・新規客が増えたので、そこから広がることを期待したい。
住宅販売会社（従業員）	・消費税増税法案が可決された影響か、来場数は増えていると思う。今後、受注増につながっていくのではないかと予想する。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
	変わらない	商店街（事務局長）	・元気のある店や人気の商品・サービスといった話題に乏しく、客の要望を捉えきれていないのが現状。この先も明るい展望は持ちにくい。		
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・来月上旬には、開店などの祝い商品の予約が入ってきているが、中旬以降は、良い材料が見つからない。		
		百貨店（総務担当）	・気温の低下に伴い、衣料品の動向が良好に推移している。なかでも紳士重衣料の動きが良好であり、今後もこの傾向が続くものと思われる。		
		百貨店（営業担当）	・来客数は前年並みだが、客が必要な物しか買わない状況になってきている。		
		百貨店（営業推進）	・全般的に衣料品関係の動きが非常に悪く、今後も景気は変わらないと予想する。		
		スーパー（店長）	・政局が安定しないと景気が上向きにはならないし、中国との問題も長引けば景気に影響してくると思われる。		
		スーパー（企画担当）	・生鮮食品の産地が北海道から下がってくるので、消費者の一部の反応には厳しいものがある。		
		スーパー（財務担当）	・売上は減少傾向にあるが、大きな変化はないであろう。ただ、中国との関係で基幹産業の業績が悪化して冬の賞与などが減少すれば、消費マインドが大きく低下すると予想される。		
		コンビニ（商品担当）	・個人消費が改善するような政策等に乏しく、年末に向けて、より一層消費者の財布のひもは固くなるのではないかと危惧している。		
		コンビニ（総務）	・天候や気温にも左右されるが、消費が上向く状況が見当たらない。		
		衣料品専門店（経営者）	・資金繰りが安定しない。		
		衣料品専門店（総務担当）	・気温の高い日が続くと、秋物の販売に悪影響が及ぶ。		
		家電量販店（店長）	・夏にはエアコンや冷蔵庫が売れたが、冬はパソコンがメインになってこようかと思う。年末商戦に入るが、家電トータルの売上は今までと変わらないと予想する。		
		家電量販店（店員）	・年末に向けて新製品の発売を控えているが、価格が下がった旧製品の販売比率が増えると予想される為に売上の改善には繋がらない。予想より早く旧製品が完売すれば、売上が向上する可能性はある。		
		家電量販店（営業担当）	・来客数が減少する時期に入り、夏場と違って単価を上げることができない。セールスの効果を期待しながらも、売上に結びつけることが難しくなっている。		
		乗用車販売店（役員）	・エコカー補助金等々もなくなり、10月以降はその反動で新車受注は悪くなると予想する。ただ、下半期はモデルチェンジ車等の投入が下支えになることを期待している。		
		通信会社（企画）	・多少の好転傾向はあるが、良くなるとまでの感触はない。		
		観光名所（職員）	・来客数は昨年よりやや増えているものの、ほぼ横ばいで推移する。		
		ゴルフ場（従業員）	・特に平日の予約状況が悪い。現在の予約状況を考慮すると、変わらないと判断する。		
		美容室（経営者）	・先行き不透明な状態が続いており、消費意欲の向上は見られない。		
		設計事務所（所長）	・地価は下落しているが、売買が活発化するかは不透明である。		
		設計事務所（職員）	・公共事業が減少する中、受注競争が激しく、仕事量は十分確保できない状況が続く。公共投資不足と業者数過多により、業界全体の低調ムードは相変わらずである。		
		やや悪くなる		商店街（代表者）	・秋物の売行きを見ていると、冬物の売行きが非常に不安になる。また、空き店舗は徐々に埋まってきているが、老舗の家電販売店が撤退して郊外に移るなど、新陳代謝がかなりある。
				スーパー（店長）	・景気が上昇する要素がない。
				スーパー（統括担当）	・消費税増税法案の可決以降、客の買上点数や単価が下落してきている。この流れはしばらく続くように思う。
				乗用車販売店（従業員）	・年末に向けて新型車の発売など施策はあるが、エコカー補助金の打ち切りが響いて、あまり売れないと思う。販売量の回復までには時間がかかりそうである。
観光型旅館（経営者）	・10～12月の予約状況が昨年比べて少し悪い。予約が遅れているということもあると思うが、今の状態では見通しが悪い。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	悪くなる	通信会社（営業担当）	・冬商戦時期であるが、新端末の販売を前にして、買い控えが出る可能性がある。	
		競艇場（職員）	・集客が見込める大きなレースが当面なく、売上増加は期待できない。集客増加につながる施策が必要である。	
		商店街（代表者）	・日本に期待できるもの、希望が見えるものなど何もない。企業経営者も経済至上主義の20世紀型の考え方から一歩も抜け出せていない。	
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・政治の無策に、消費の縮小が止まらない。	
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格がじりじりと高くなっており、景気は悪くなると思われる。	
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金の効果が大きかったので、終了後の販売量は激減するのではないかと思われる。	
		住関連専門店（経営者）	・販売量が伸びず、原発の影響があつてムード的にも悪い状態である。	
		旅行代理店（支店長）	・近隣アジア諸国との関係やイスラム圏での対米感情の悪化が長引けば、海外旅行自粛に拍車がかかることが懸念される。	
企業 動向 関連  (四国)	良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・再生可能エネルギー固定価格買取制度の施行により、地元や地方からも受注でき、当面手一杯の状況である。	
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・来春に向けての展示会が概ね好評で、順調に推移するものと思われる。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・これから掃除用品や台所用品が、1年で最も出荷が多い時期になるので、良くなっていくものと思われる。	
	変わらない	農林水産業（総務担当）	・季節商材に売出しが増えることを期待する。	
		木材木製品製造業（経営者）	・政治が安定しないと景気対策が出来ないと思う。	
		一般機械器具製造業（経理担当）	・足元は好調だが、円高をはじめ、欧州・中国の経済状況による影響等先々は不透明感が強い。	
		建設業（経営者）	・公共事業の発注予定が期待しているより少ない。	
		建設業（総務担当）	・工事受注高は例年と変わらないが、利益確保が難しい。	
		輸送業（経営者）	・全体の雰囲気は悪いものの、受注量は変わらない。	
		通信業（部長）	・今後の景気回復に対する期待感が薄く、早急に改善されると思えない。	
	やや悪くなる	広告代理店（経営者）	・新規得意先の広告受注もあるが、エコカー補助金の終了に伴う自動車関連の広告費削減予測や地元得意先の広告費削減が続いており、総じてあまり変わらない見込みである。	
		広告代理店（経営者）	・今のところ、良くなる要因、悪くなる要因共に大きなものはない。	
		鉄鋼業（総務部長）	・円高の影響が続くものと予想する。	
		やや悪くなる	電気機械器具製造業（経理担当）	・欧米からの受注に変化はなく、今後も変わらないと予想する。しかし、さらに赤字国債発行法案の成立がずれると、国内の国公立病院、大学の予算執行が遅れ、販売が更に落ち込む恐れがある。
輸送業（営業）			・落ち着きをみせていた燃料価格が8月から再び大幅な上昇に転じている。小口積合せ輸送について、地方の中堅業者間での業務提携が活発化する中、全国展開する大手業者間でも同様な動きが出始めた。地方の中堅運送事業者は都市圏からの到着貨物に依存している部分が多く、大手業者のアライアンスの再編により既存の連絡運輸が変更されて売上の損失に繋がる事を危惧している。	
		輸送業（支店長）	・荷主が南海地震による津波被害を考慮し、保管場所を変更するという情報を耳にした。そうすると、生産数量にも影響を及ぼし、同業他社の追動行為並びに価格ダンピングにも拍車がかかるため、やや悪くなると予想する。	
		金融業（融資担当）	・建設関係の談合問題発生により、指名停止などの罰則が見込まれており、地域全体への景気のマイナス要因となっている。地価下落も消費者マインドが冷え込む一つの要因となる。	
			公認会計士	・松山市内で、大型倒産が発生し、非常に将来を心配する客が多い。加えて、円高、中国との関係などが人々の心理を下向きに変えている。経営者も非常に不安を持っている方が増えている。
雇用		悪くなる	—	—
	良くなる	—	—	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (四国)	やや良くなる	職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率が、前月比で0.04ポイント上回り、前年比では0.08ポイント上回っており、やや良くなると判断する。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	・10月から改正労働者派遣法が施行され、日雇い派遣の原則禁止などの影響で、求人求職のニーズのマッチングにしばらく整理が必要と考える。特に年末年始の繁忙期の人員確保が課題となる。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・9月は異動が多かった為、求人数が伸びた。10月以降は異動が減るものの、年末に向けて募集の増加が期待される為、トータルの求人数はあまり変化しないと予想する。
		民間職業紹介機関（所長）	・企業の採用形態が変化しつつある。特定の職種は充足しているが、今後を見据え、良い人材がいれば採用を考えているという企業が増えている。理由としては、従業員の高齢化が進み、次代を担う人材確保のためである。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・労働者派遣法改正と抵触日が重なり、今後も派遣業として厳しい状況が懸念される。
求人情報誌（営業）		・造船業界の先行きが引き続き不透明。また、中国との関係で、タオルメーカーの経営者も先が見えないと話していた。	
新聞社〔求人広告〕（担当者）		・建設業では談合事件の影響で公共事業の執行が止まっており、補正予算も成立しておらず官公庁の予算も出ない。また、補助金が終了したカーディーラーの先行きも難しいと予想されるため、やや悪くなると判断する。	
職業安定所（職員）		・官製談合事件の影響が今後予想される。	
悪くなる	—	—	

## 10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	○	○
	やや良くなる	商店街（代表者）	・実需期に入るため、今より購買力が大きくなる。客は必要な物を買う購買力はあるが、先行きに不安を感じており、お金を使わない状況である。ただ確実に購買力は上がっており、景気は良くなる。
		商店街（代表者）	・客の様子から工夫次第では、今後、景気は良くなる。
		商店街（代表者）	・年末商戦が始まれば、景気は上昇する。しかしこの傾向は毎年のことであり、前年比が上昇するとは限らない。ただ先行きの景況感の良い。
		商店街（代表者）	・寒くなるにつれて、当店が扱う寝具や婦人服の需要が伸びる。今年も例年通り売上は良くなる。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・通信販売の商品が今年も好調を維持する。
		百貨店（売場主任）	・気温が前年並みとなり、悪い要素はない。また、比較的高価格な商品群の動きが良く、その流れがボリュームゾーンにも波及する。
		家電量販店（企画・IR担当）	・今後、秋にかけて高級な調理家電や掃除家電の新商品が出てくるため、客単価の上昇が見込める。また、薄型パソコンやスマートフォン等の売上にも期待ができる。
		家電量販店（従業員）	・寒くなってきたので、暖房器具が売れ始める。景気は今後、良くなる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・これから秋や冬の季節を迎え、コーヒー業界は需要が増える月を迎え、売上の増加が見込まれる。ギフト等の進物関係やお歳暮等の注文も今後増える。ただエンドユーザーの実際の動きは気候に大きく左右されるところもあり、一部不透明なところもある。
		高級レストラン（専務）	・これから年末にかけて宴会や忘年会、おせち料理等色々な注文が入り、景気は良くなる。
		タクシー運転手	・年末は客の動きが活発になり、タクシー業界は若干上向く。今年も例年通り良くなる。
		通信会社（販売部）	・新商品の発表が予想され、客の動きが良くなる。
ゴルフ場（従業員）	・観光地であるゴルフ場では県外客が少し目減りしている状態となっている。ただ、公共事業で道路の工事等が多く、土建関係のコンペ等が徐々に増えており、地元には少しは経済効果が出ている状態である。年末にかけて予約数も昨年並みとなっており、若干は良くなる。		



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（支配人）	・10～12月は秋のゴルフシーズンであり、特に11～12月の前半は忘年ゴルフコンペが多い時期となる。今年の秋から冬にかけてはエルニーニョ現象により気温が高めの暖冬と予報されており、来客数の増加が期待される。
		美容室（経営者）	・消費者の動きは悪くなく、年末の景気は良くなる。新しい政府、新しい内閣を発足させ、何か景気対策が実施されれば、購買意欲は高まる。
		美容室（店長）	・2、3か月先は、今月より景気は良くなる。文化祭や旅行等外出の機会が多くなり、来客数は増加する。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の特需が徐々に出てきている。
	変わらない	商店街（代表者）	・季節の移り変わりであり、多少の売上の増加が見込める。ただ客の様子から、多くは望めない。
		商店街（代表者）	・景気が良くなる要因が全く考えられないので、今の悪い状況が継続される。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・気候が落ち着き、地元の野菜生産量は少しずつ上がってきている。ただ、入荷が多ければ相場が安くなってしまい、販売側はかなり厳しい状況となる。不安定な政治といった不安要素があり、客の購買意欲をプラスにさせるような材料がない。景気は今後、変わらないか厳しくなる。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・魚の獲れる時季が遅くなっており、通常であれば今が旬の魚は2～3か月後に獲れるという状況である。
		百貨店（総務担当）	・この秋冬をけん引するトレンド商品が見当たらず、客の購買意欲の向上は依然感じられない。
		百貨店（営業担当）	・今年度の友の会の新規募集を開始し、満会金券のお渡し開始もあり、客の秋の買物への期待感が高まっている。また、秋物衣料の展開やクレジットポイント催事の開催への期待も高く、問い合わせが増加している。商店街と連携した来店促進策により、商店街への来店も増加する。
		百貨店（企画）	・原子力発電問題や海外情勢等を考慮しても依然、景気回復の要素が見当たらない。厳しい状況が今後も続く。
		百貨店（営業統括）	・客の様子をみると、経済不安や政治不安等があり、購買力が上がらず、依然厳しい状況となっている。
		百貨店（営業政策担当）	・都心部の来街者数は現状維持で堅調に推移するが、節約消費意識は高いレベルで定着しており、客単価の低下傾向は今後も続く。また、秋冬物衣料品の動き出しも鈍く、寒さを実感する実需期までは低調に推移する。
		百貨店（業務担当）	・政局が不安定であり、日中関係も悪化しているため、客は先行きに不安を感じている。不安要素の報道が多く、有事のことを考え始める客もあり、秋冬商材の立ち上がり期に不安が残る。
		スーパー（店長）	・競合店がディスカウント店であり、客層に若者が多い夜間の売上が落ちている。営業時間も同じであり、特に20、30代の客が19時くらいからディスカウント店へ流れている。この厳しい状況がずっと続く。青果の相場も前年比7%減と厳しい状況である。
		スーパー（店長）	・おそらく今後も良かったり悪かったりの繰り返しになる。その時々気温等に大きく左右される。
		スーパー（店長）	・買上点数の増加はあるもの、来客数の増加が図れないため、現状維持となる。
		スーパー（経理担当）	・人口が減少するなか、パイの取り合い等、競争が激化しており、厳しい状況となる。
		スーパー（業務担当）	・近隣に競合が出店するため、しばらくの間は大きな売上の伸長は見込めない。また秋冬物の動向も目新しい要素はなく、年内は現状維持が続く。
		コンビニ（経営者）	・貿易収支が赤字に転落する月もあり、またチャイナリスクも発生しているため、小売業には景気が良くなる要素が何もない。
		コンビニ（販売促進担当）	・販売量が悪い状況の中、売上は横ばいの状況が続いている。今後もこの状況が継続する。また、リーズナブルな店舗やチェーン店舗での協賛が今月頭にあり、経営的にも厳しくなっている。量販店に客を取られている状況であるが、その量販店でも前年をクリアできないという状況が今年になって続いている。
		衣料品専門店（店長）	・商店街の工事が続いており、厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（店員）	・客の来店間隔がどんどん開いてきている。何か目的がないと買いに来なくなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（取締役）	・景気が良くなる材料は全くない。12月はセールの月であるので、今は数少なくなっているまとめ買いをいかに増やしていくかという企業努力にかかっている。
		家電量販店（店員）	・とにかく家電に関してはかなり需要が冷え込んでおり、回復する兆しがなかなかみえてこない。アナログ放送の停波以来、受注はずっと低迷しており、もうしばらく続く。
		家電量販店（店員）	・9月は家電業界で一番売れない月であるが、全く良い要素が見当たらない。非常に厳しい状況である。太陽光発電システムを時間をかけて売っていくしかない状況である。ただやはり提案から販売までに時間がかかる商品なので、スキルをもった社員がどれだけ増えるかが鍵になる。
		家電量販店（総務担当）	・太陽光発電やリフォーム等の家電以外の商品に頼らざるを得ない状況になっている。
		乗用車販売店（代表）	・周りのいろいろな状況を見ても、景気が変わる要素がない。厳しい状況が続く。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・今後の燃料油の小売価格が不透明であるが、涼しさが増し、寒くなると、灯油の販売量の増加が見込める。灯油の小売価格は現在のところ、ほぼ昨年並みで推移しており、同程度の販売量を見込んでいる。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・消費税増税やスマートフォンの台頭、エコカー補助金の終了等の要因で客は相変わらず節約志向が強い。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・客の購入単価がなかなか向上しない。数量は出るが売上高の増加には結びついていない。
		高級レストラン（支配人）	・来客数が伸びず、厳しい状況が続いている。
		観光ホテル（総務）	・収入見込みは変わらず、景気は今の状況が続く。
		観光型ホテル（スタッフ）	・予約状況を見ると、前年を上回っているが、宿泊に関しては特に中国からのインバウンド予約が入ってこない。
		観光型ホテル（専務）	・景気が回復する要素が見当たらない。選挙が近く、消費税増税や日中関係の悪化等マイナス要素はある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・中規模のコンベンションの取り込みはできているが、本年の大型コンベンションはことごとく他市開催を決定している。客の取り込みは例年並みの状況であるため、大きな変動はない。
		都市型ホテル（副支配人）	・2、3か月先の週末の土曜日だけは予約が埋まっているが、その他の動きが非常に悪い。特に今後、選挙ということになると、先行きはもっと不透明になる。
		旅行代理店（従業員）	・旅行は海外から国内へシフトされている状況でもなく、一般的に動きは低調である。
		旅行代理店（企画）	・九州電力の原子力発電所問題や対中国貿易の動向により、企業業績に影響が出る可能性がある。
		タクシー運転手	・今月に入って県内の大きな企業が倒産し、それに関連する会社関係がかなりの痛手を受けている。先行きはあまり良くない。
		通信会社（管理担当）	・資金繰りがすぐに良くなるといった要素はない。
		通信会社（営業担当）	・景気は悪く、なかなか売上は伸びない。また、尖閣問題を含めた諸外国の問題も景気に影響しており、厳しい状況が続く。
		通信会社（総務局）	・好転する材料がない。
		理容室（経営者）	・土、日曜日の回数が普通の月より多いので期待していたが、9月に入った途端に来客数が減った。涼しくなったこともあり、客の来店サイクルが伸びている。2、3か月先はもっと寒くなるので、来店サイクルがもっと長くなるため、今月より良くなるとは考えられない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・例年、12月までは客の増加が見込まれる。また、介護報酬改定の影響が落ち着いている。
		設計事務所（所長）	・今年に入っての仕事の量は、非常に少ない状態で推移している。案件が入ってから、半年後に結論が出る業態であり、ずっと良くない状態が続くため、景気は悪いまま変わらない。
		住宅販売会社（代表）	・消費税増税前の駆け込み需要等いろいろと突発的な需要はあるが、全体的な傾向は悪くなるか、変わらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・良くなる要素がなく、公務員の給料も下がってきている。デフレが止まっておらず、厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・乗客数が減少したままで、3か月先が予測できる状態ではない。今月をどう乗り切るかで必死である。日中韓を始めとする国際関係の悪化や国内企業の低迷、国内情勢の不安等、明るい材料がなく、景気はやや悪くなる。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・景気回復を期待するなか、消費税増税の話が出ており、今後、売上の増加には期待できない。
		百貨店（販売促進担当）	・消費税増税の決定等、消費動向が良くなる要素が見当たらない。
		百貨店（売場担当）	・前年の12月は競合他社が閉店していたため、前年比11%増と2けたの伸びを示していた。ただ閉店の影響は一巡し、今月の売上は前年比2%減となった。プラス要因は考えられず、前年との攻防が続くので、景気はやや悪くなる。他店状況をみても秋物、冬秋物の動きはかなり厳しい状況であり、今後、気候がどうなるかを注視しなければならない。
		スーパー（経営者）	・国内需要の減少だけでなく、輸出等による国外需要の減少もあるため、尖閣諸島や竹島問題が解決しないと先行きは不透明なままである。
		スーパー（店長）	・ここ最近の政局や外交問題等で消費マインドが上がる材料は少なく、景気回復の兆しはない。これから3か月後は気温要因として、寒波に期待をゆだねることとなる。また、内部的な企業努力として販売促進の強化等でしか売上の底上げは期待できない。
		スーパー（店長）	・単価、乗客数共に前年比1%前後低下している。生鮮食品の相場は高まっているものの、それが単価の増加につながる確信は持てない。価格は競争激化傾向にあり、売上への影響が懸念される。
		スーパー（店長）	・この先の消費税増税や雇用問題、社会保障問題と将来の生活の安定がみえないため、消費者の節約志向はますます高まる。
		スーパー（総務担当）	・国内の消費税増税問題や原子力発電所等のエネルギー問題、近隣諸国との関係悪化等、消費を取巻く環境はかなり厳しく、先行きへの不安拡大が懸念される。また、消費者は更に節約志向が蔓延する。低単価戦略や集客のためのプロモーション施策だけの集客は容易ではなく、収益確保が大変困難な状況が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・当社の記念行事が終わり、その反動で客の広がりがなくなる。厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（総務担当）	・商店街に百貨店が1店舗なくなり、商店街の市場吸引力が減退している。そのことが景気の悪化に影響を与えている。
		乗用車販売店（従業員）	・今後、新型車やエコカーを投入し、客の購買意欲を高めていくが、厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（総務担当）	・エコカー補助金が終了し、客の購買意欲が減退する。新型車投入の予定もなく、厳しい状況となる。中古車とサービスで増収を図るが、新車の落ち込みをカバーできない。
		住関連専門店（経営者）	・尖閣諸島問題で中国との関係が悪化しており、安価な中国商品の輸入に影響が出るが、ベトナム等の輸入で対応できる。しかし、政治の先行きや国際関係の悪化等で消費経済活動の先行きは不透明であり、景気は良くない。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	・特に大きな環境変化でもない限り、販売の傾向は変わらない。業界としては減速傾向であり、明るい兆しはみえない。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・消費税増税や領土問題等、先行き不安により、消費は低迷する。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・尖閣諸島の問題等、海外輸出の不振から国内の消費も冷え込む。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・消費税増税前に一時的なまとめ買いが起こるが、その後の消費環境は今以上に厳しくなり、価格競争が激化する。
		居酒屋（経営者）	・周りの飲食店をみても前年よりも良いという声は聞かない。年末年始を迎えるにあたって、厳しい状況が続く。
		タクシー運転手	・ボーナスシーズンとなるが、ボーナスは前年度より少ないという情報が入っており、先行きには期待できない。
		タクシー運転手	・政治の状況も悪く、消費者は先行きに不安を感じており、景気はだんだん悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		通信会社（企画担当）	・他社のセット販売の悪影響が継続しており、年末にかけて攻勢が強まる見込みである。厳しい状況が続く。	
		通信会社（業務担当）	・10月は9月発売の他社新商品の影響が続き、販売数は先月及び昨年より厳しくなる。	
		競輪場（職員）	・外交問題の影響があり、先行きは厳しくなる。	
		競馬場（職員）	・来客数減少の傾向は変わらない。	
		音楽教室（管理担当）	・これからは受験期等に入り、教室の退会者が多くなる。	
		住宅販売会社（従業員）	・現状での経済活動や国内情勢、円高、中国や韓国との関係悪化等により、経済環境は悪くなり、景気は悪くなる。円高対策を早急にするべきである。	
		悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・3か月後の状況は現状より厳しい状況となる。家庭の収入減等により、売上は減少する。厳しい状況は続く。
			衣料品専門店（店長）	・年末に向けて売上が伸びる頃もあったが、年末だから買物をするということもなくなっている。今年の年末も特に景気が良くなる要素は見当たらない。
			高級レストラン（経営者）	・当店は懐石料理の接待が多いが、やはり日本と中国の尖閣諸島をめぐる衝突によって、日本の企業も動きが少なくなっている。来月もそれが続く。政情が安定しておらず、解散総選挙が行われる等の話もあり、先行きは暗い。
			都市型ホテル（販売担当）	・結婚する男女がかなり減っており、婚礼事業は厳しい。企業の福利厚生も減っており、利用会社が減っている。
企業動向 関連 (九州)	良くなる やや良くなる	—	—	
		農林水産業（営業）	・例年通り、年末に向けて需要が増える。	
		食料品製造業（経営者）	・見込みの受注もあり、生産量が増加する予定である。	
		繊維工業（営業担当）	・国内生産を見直す時期となっており、景気は良くなってくる。	
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・新商品のリリースにより、景気はやや良くなる。	
		金属製品製造業（企画担当）	・役所の発注量に動きが出てきており、今後景気は良くなる。	
		金融業（営業担当）	・建設業を中心に消費税増税を控えた受注が増加しており、業種限定ではあるが、景気はやや良くなる。	
変わらない		農林水産業（経営者）	・本来なら加工メーカーの年末商品の生産時期で、売上が大きく伸びる時期の10、11月であるが、今年は輸入物に加え、国産の安物等に置き替えられる可能性がある。スーパーや居酒屋は運動会等の行楽シーズンで少しは期待できる。	
		家具製造業（従業員）	・年末に向けてホテルやレストラン等の商業施設物件の見積が多少増えているが、昨年比10%減の情報量である。昨年は九州新幹線全線開業の影響からかバブル期を思わせる状況であったが、一段落し、年末以降、来年は不透明である。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・これから需要期に入るが、現状から考えて、あまり期待できない。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・ユーザーの外国向けがどのような状況になるのか、しっかりと回答がなかなかもらえない状態である。ユーザーも検討している最中である。	
		建設業（社員）	・今の手持ち工事が年度末まで続く予定なので、今の体制で施工できる。ただ来年度の発注が心配でならない。繰越工事の受注に向けて体制を早めにとりたい。	
		輸送業（従業員）	・ガソリン税も上がり、消費税も将来的には上がるため、消費者の財布のひもはますます固くなる。特に景気が良くなる話もない。	
		輸送業（総務）	・景気が良くなるような情報も動きも少なく、あまり変わりが無い。	
		輸送業（総務担当）	・特に良くなる要素が見当たらない。このままで推移する。	
		通信業（職員）	・省エネルギー関連の事業が当初予想よりも営業展開が遅れており、受注量の確保ができていない。	
		金融業（調査担当）	・政府や日銀の景気基調判断に弱さがみられるものの、消費税増税関連に対する資金需要が見受けられることから、引き続き景気に変化はない。	
		不動産業（従業員）	・取引先企業の業況がおおむね横ばいに推移し、今後も継続する。	
		新聞社（広告）（担当者）	・年内は広告出稿に結びつく大型のトピックスが少なく、通信販売や化粧品、旅行がけん引する形は変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
九州		広告代理店（従業員）	・9月の新聞折込枚数は、前月に続き前年同月比2%減と振るわなかった。7月の九州北部豪雨以来、天候不順で季節商材の広告が安定しない。加えて節電要請が重石となり、消費活動に相変わらず変化がみられない。昨年は地上デジタル放送の移行で家電業界の広告も活発だったが、今年はエコカー補助金も打ち切られることが決まり、先行きは不安である。
		経営コンサルタント	・これから新規事業に取り組むところが少なく、守りの経営に入っているところが多いため、新しい受注はあまり期待できない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先の業況や自社の受注状況から判断して、景気にそれほど大きな変化はない。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・飼料関係の価格高騰が非常に不安要素となっている。また来年になっても上がる可能性はあり、補てん出来るかどうか分からないため、非常に不安な状況である。
		鉄鋼業（経営者）	・欧州経済の不安要因に加えて、中国や韓国との政治摩擦から九州でも自動車生産の減産を余儀なくされ、観光客の激減等が顕著となっている。これらは経済にマイナスが働くことは必至であり、今後の新規建設需要に影響が出ることは避けられない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・現状の受注量は変わらない。ただ周囲の状況をみると、やや悪くなっていくのではないかと懸念は払しょくできない。善後策として新規開拓等様々な努力をするが、全般的に大変厳しい状況下となる。
		精密機械器具製造業（従業員）	・円高や受注先の中国工場の不況問題で受注が激減し、受注量が伸び悩んでいる。下期も先がみえない状態である。
		通信業（経理担当）	・株価が低迷するため企業動向は悪化する。
		金融業（従業員）	・中国や韓国等周辺諸国との領土問題やギリシャ等欧州の公的債務問題、米国の財政の崖問題等から世界景気の落ち込みが懸念され、企業マインドが冷え込んでいる。また、国内でもねじれ国会等で景気対策が先送りになっているほか、消費税増税や年金問題等が重石となり、個人の消費行動が慎重さを増している。
		広告代理店（従業員）	・景気が停滞しており、プラス材料がない。
	悪くなる	食料品製造業（経営者）	・当初予想していたよりも業績の落ち込みが大きい。納入先の来客数の減少及び客単価の一段の低下が顕著になっている。中国との外交問題にはさほど影響を受けているわけではなく、国内の特に観光需要の停滞が大きな要因となっている。今後も需要の減少が予想され、一層景気は悪くなる。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・中国での日本製品の不買行動の影響がでている。
		建設業（従業員）	・個人消費の低迷や民間の設備投資に対する抑止等、また採算性の低下等により景気は悪くなる。
		経営コンサルタント（社員）	・政治的不安定、消費税増税問題による不安感がある。
その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）		・市町村が民間事業者へ発注する業務が減り、予算も少ない。請ける業者は価格のダンピングで受注し、予算がないなかで業務が増えてくる状況になっている。このようなことが続くと景気は悪化するばかりである。	
雇用関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・年末年始に向けた求人が出てくる時期である。短期の仕事が中心になるが、今よりも増える。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人票受付の勢いをみると、景気は上向き傾向である。この感覚は数か月続いており、今後も継続する。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・日雇派遣の禁止による派遣形態の変化に慣れるまで、状況は据置きである。
		人材派遣会社（営業）	・企業の求人意欲を特に感じない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・お歳暮や忘年会シーズンを迎え、例年求人が活発になる時期であるが、待遇面で劣る地元企業の採用はますます厳しくなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・政局不安や中国、韓国との関係悪化による雇用への影響が心配される。地域経済活性化の材料が見当たらない。
		職業安定所（所長）	・地域には目立った動きはなく、当面これまで同様の状態が続く。
		職業安定所（職業相談）	・海外経済の減速や長引く円高の県内主要産業への影響等の懸念があり、先行きは不透明である。なお小規模ながらコスト削減のための人員整理予定の情報も得ている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（社員）	・大企業は派遣を手控えているが、中小企業に派遣活用の意識が芽生えてきており、問い合わせが増加している。ただ目立った増加ではない。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・求人件数は増加しているものの、厳選採用という厳しい就職環境はしばらく継続する。また、採用予定数に満たなくても選考活動を終了している企業が見受けられる。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・先行き不透明感があり、景気の上昇要素に欠ける。
		職業安定所（職員）	・中国の対日政策等の影響が懸念され、中国へ進出している企業等への影響が出る。
		職業安定所（職員）	・年末にかけ雇用調整による大量離職が予定されており、求職者が大幅に増加する見通しである。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・早期退職者が次の仕事を選ばなければ採用につながるが、実際は選ぶ人が多く、採用につながらない。平均給与は落ち込み、今後の支出可能額は大幅に減り、購買意欲の減退となっている。景気は落ち込む。
		民間職業紹介機関（支店長）	・契約件数の減少や取引先数の減少、契約価格の下落等、すべてがマイナスである。

## 11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)	良くなる	－	－
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・販売促進策の強化があり、来客数増が見込める。
		通信会社（店長）	・現在値引き中心の施策が好調のため、年末までこの施策を継続すれば、新商品発売の時期と重なり販売数のアップが期待できる。
		観光名所（職員）	・修学旅行先の韓国、中国からの振替で、客が増える可能性がある。問い合わせも多くなってきているが、航空座席・ホテル・バスのやり繰り次第での決定になるとみている。
		ゴルフ場（経営者）	・客単価は上がっているが、それに対する予約が順調に推移しているため、2、3か月後の売上は、まあまあ良くなっていると判断できる。
	変わらない	百貨店（営業企画）	・天候の影響を除くと、変わらず身の回りの景気は良い方向にあるとみられる。来月は一部のフロアで改装オープンも控え、集客できるとみている。
		スーパー（販売企画担当）	・競合店の新規出店が予定されており、競争はますます激化する。また、最近毎日のように報道されている中国問題について、商品仕入れにも影響が出てきているようである。
		コンビニ（経営者）	・来客数は増えているが、客単価が伸び悩んでいる。
		コンビニ（エリア担当）	・天候のせいもあるが、この数か月は来客数減少が続いており、売上と利益が悪化している。これから売上の下がる時期でもあり、経営回復への懸念がある。また特売等を行っても、継続した売上にはつながらず、客の購買意欲はシビアなままである。前年並みに戻る要因が見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・東南アジアからの観光客は減少すると予測するが、その分、首都圏を中心とした都市部からの観光客は、行き先を台湾、韓国等から沖縄へ変更するなど、逆に増加すると予測する。そのため県内景気が落ち込んでいくとは考えにくい。
		衣料品専門店（経営者）	・定価品に対する購買意欲があまり感じられないが、セール品もそれほど動いている状況ではない。次のシーズンの商品が入ってきているので、それに期待する。
		衣料品専門店（経営者）	・良くなる理由も悪くなる理由も見当たらない。ただ前年に比べ、全体的には良くなっている状況が、来年まで継続するとみられる。短期的な予想は難しい。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	・現在の予約状況から予測できる推移としては、あまり現状と変わらない見込みである。
	住宅販売会社（総務・企画分野）	・2、3か月先は、年末年始に入り、住宅購入の検討に入る方が増える見込みがある。しかし、住宅建築等は慎重な検討が必要なため、受注には時間がかかる。客の商談進捗は、最近の状況と同程度と予想するので、2、3か月先も、当月とあまり変わらないとみられる。	
	住宅販売会社（代表取締役）	・特段、景気が良くなる材料が見当たらない。	
	やや悪くなる	スーパー（企画担当）	・業種は違うが、大型ディスカウントストアの出店の予定があり、近隣の店舗への影響が懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔書籍〕(店長)	・今年に入り前年実績を上回ったことはなく、今月も下回っている。これから先も良くなる兆しはみえてこない。
		その他のサービス〔レンタカー〕(営業担当)	・台風17号の影響で、かなりの車両でガラスが割れたり、ボディに傷が付いたため修理しており、貸出不能となっているので今後売上に影響してくる。
	悪くなる	商店街(代表者)	・観光客の入城は多少回復しているようだが、一般的な商品の販売単価が落ちており、商店街としては何十年ぶりくらいの大変な不況になっているという話もある。これが底であれば良いが、まだ客の財布のひもは固いようで、小売店は四苦八苦しているのが現状である。
		その他飲食〔居酒屋〕(経営者)	・領土問題やオスプレイ問題で外国人観光客の予約が激減し、自衛隊関連の予約キャンセルが相次いでいる。また来月後半からの最低賃金の引き上げで、時給、給与が見直され、人件費が上がるので対応に追われている。
企業 動向 関連  (沖縄)	良くなる	—	—
	やや良くなる	輸送業(本社事業本部)	・新規出店及び新規業務の受託により売上拡大が見込める。
	変わらない	窯業・土石製品製造業(経営者)	・公共工事は横ばいで、民間工事はやや減少の見込みである。全体では横ばいの見通しである。
		輸送業(代表者)	・伊良部架橋、新石垣空港等の大型物件は終わりを迎えるが、農水関連や周辺工事があり、今年度までは大きな変化は無い。
		通信業(営業担当)	・2～3か月では景気は変わらないとみる。しかしながら、IT関連の入居施設の建設が進んでおり、入居企業等も確保できているようなので、将来的には景気は良い方向に向かうと見込む。
		広告代理店(営業担当)	・一括交付金による県外、海外市場を開拓する大規模な事業が五月雨式に公募されていることが大きく影響しており、もうしばらくは続くのではと想定している。
		会計事務所(所長)	当社は輸入時の為替リスクに対処する為に為替予約を行っていたが、当初の予定以上に円高が進み、結果的に輸入コスト増につながっている。その分を国内での販売価格へ転嫁するのが難しい状況である。
	やや悪くなる	食料品製造業(管理部門)	・中元ギフト及びバーベキュー等の季節需要が終了し、売上が減少する。
		建設業(経営者)	・引き合い件数が、減少傾向にある。また、モデルハウスへの来場組数も減少している。
	悪くなる	—	—
雇用 関連  (沖縄)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社(経営者)	・中国からの観光客の落ち込みがあり、その影響が懸念されるが、現在のまま派遣依頼が続くと、確実に売上、利益は伸びるものとみられる。
		人材派遣会社(総務担当)	・本土系IT関連企業の県内への拠点移動により、及び地元発のIT関連企業を中心に求人意欲は、引き続き根強い。労働者派遣法改正法の影響の懸念もあるが、サービス業の求人も堅調であり、景気への期待が持てる。
		求人情報誌製作会社(営業担当)	・年末に向けて飲食店の求人等が増える。
	変わらない	求人情報誌製作会社(総務担当)	・引き続き求人数を維持し、しばらく景気は「良い」で推移するとみられる。
	やや悪くなる	学校〔専門学校〕(就職担当)	・領土問題や基地問題等、政治不安が続いている。最近の傾向として、その影響が就職活動にも敏感に反映されている。
	悪くなる	—	—